

安芸太田町人口ビジョン

【改訂版】

令和2年3月改訂

安芸太田町

目次

はじめに	3
I 人口の現状	4
1. 総人口の推移	4
(1) 大正時代から現代までの総人口の推移及び年齢3区分別人口の推移	4
(2) 近年の人口推移及び人口構成の動向	4
2. 出生・死亡、転入・転出の推移	6
3. 人口移動分析	7
(1) 年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向（1980→2015）	7
(2) 近隣自治体への人口移動の状況	8
II 将来人口の推計	10
1. 国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計	10
2. 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響分析	11
(1) 国立社会保障・人口問題研究所推計における人口減少の改善	11
(2) 自然増減、社会増減の影響の分析	12
(3) 人口構造の分析	14
(4) 老年人口（65歳以上人口）比率の変化	14
III 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析	15
1. 財政状況への影響	15
(1) 歳入の状況	15
(2) 個人町民税への影響	16
(3) 歳出の状況	17
2. 公共施設の維持管理等への影響	18
(1) 公共施設の状況	18
(2) 公共施設の維持管理等への影響	18
3. 小売業への影響	19
(1) 小売業の状況	19
(2) 小売業への影響	19
IV. 将来展望に必要な調査・分析	20
1. 移住・定住等に関する意識（アンケート調査より）	20
(1) 「安芸太田町まちづくりアンケート調査（一般）」の結果	20
(2) 「人口移動（転入・転出）」に関するアンケート調査の傾向	26
(3) 「安芸太田町まちづくりアンケート調査（16～18歳）」の結果	32
(4) 「安芸太田町まちづくりアンケート調査（中学生）」の結果	40
(5) 各アンケートからの推察	46
V. 将来のまちづくりの方向	47
1. 基本的な考え方	47
2. めざす将来像 ～第二次長期総合計画の基本構想から～	48
3. まちづくりの視点	48
VI. 人口の将来展望	50
1. 安芸太田町の人口移動の動向	50
2. 「第2期 安芸太田町人口ビジョン」	52
(1) 計画人口目標と人口ビジョン	52
(2) 社人研人口推計からみる人口推移の改善	52
(3) 計画目標人口および第二期人口ビジョンの根拠とシミュレーション	53
(4) 【後期】計画目標人口および【第2期】人口ビジョンの人口動態	55
(5) 令和27（2045）年の人口ピラミッド対比	56
3. まとめ	57

はじめに

- まち・ひと・しごと創生に関しては、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）が制定され、平成26年12月27日に人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、今後5か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。
- これを受けて、本町においては、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案して、本町における人口の現状と将来展望を提示する「安芸太田町人口ビジョン」及び本町の实情に応じた今後の5か年の施策の方向を提示する「安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。
- 「安芸太田町人口ビジョン」、「安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定から4か年余りが経過し、平成26年以降の状況変化等も踏まえて、次期「地方版総合戦略」の策定及び「安芸太田町人口ビジョン」の改定を行うものです。
- 平成27年に策定した「安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、平成27年度を始期とする「第二次長期総合計画」のリーディング施策（まちづくり戦略）を分野別戦略として位置づけ、その実現に向けて着実に事業を推進しています。
- しかし、平成16年10月新町発足時、8,784人の人口は、令和元年（2019）年10月1日には5,784人と3,000人減少するなど、その減少傾向に歯止めがかかりません。
また、高齢化率も令和元年10月1日時点で50.2%と県内最高で、県内で最も少子高齢化、人口減少が顕著に表れている自治体といえます。
- これまでも過疎・高齢化に伴う人口減少と常に向き合ってきた本町ですが、今後地域社会を持続させていくためには、生産年齢人口の維持・確保が求められることから、人口減少の抑制と地方創生に取り組むにあたり、改めて人口の現状分析と将来展望を「安芸太田町人口ビジョン（改訂版）」として策定し、それにより浮かび上がった課題や方策を、引き続き策定する「第2期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に反映します。
- なお、将来展望の期間は、第二次安芸太田町長期総合計画の展望期間を踏まえ令和27年（2045年）とします。

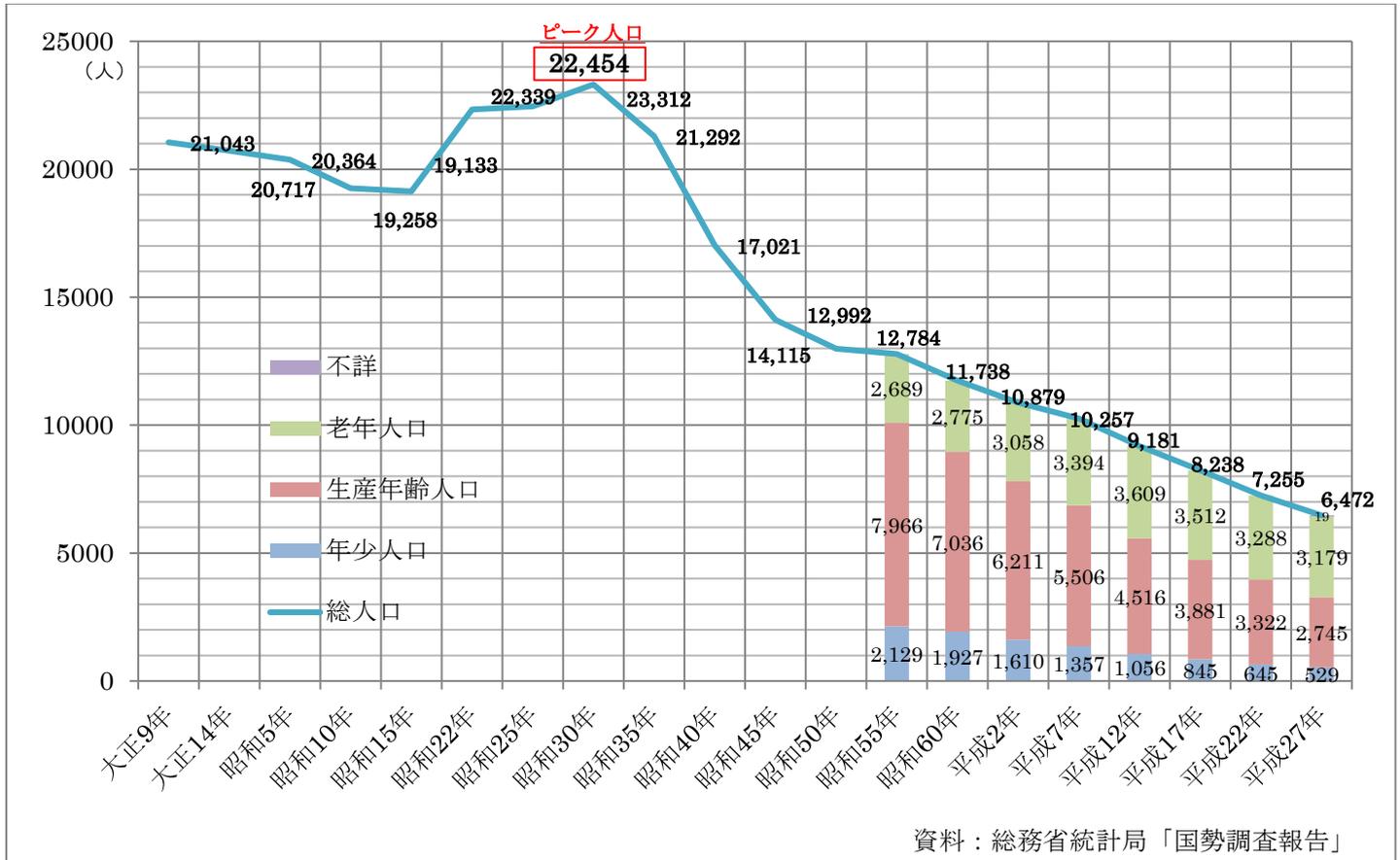
I 人口の現状

1. 総人口の推移

(1) 大正時代から現代までの総人口の推移及び年齢3区分別人口の推移

国勢調査人口の推移をみると、本町においては、昭和30(1955)年をピークに人口減少に転じています。

■人口の推移（大正から現代）

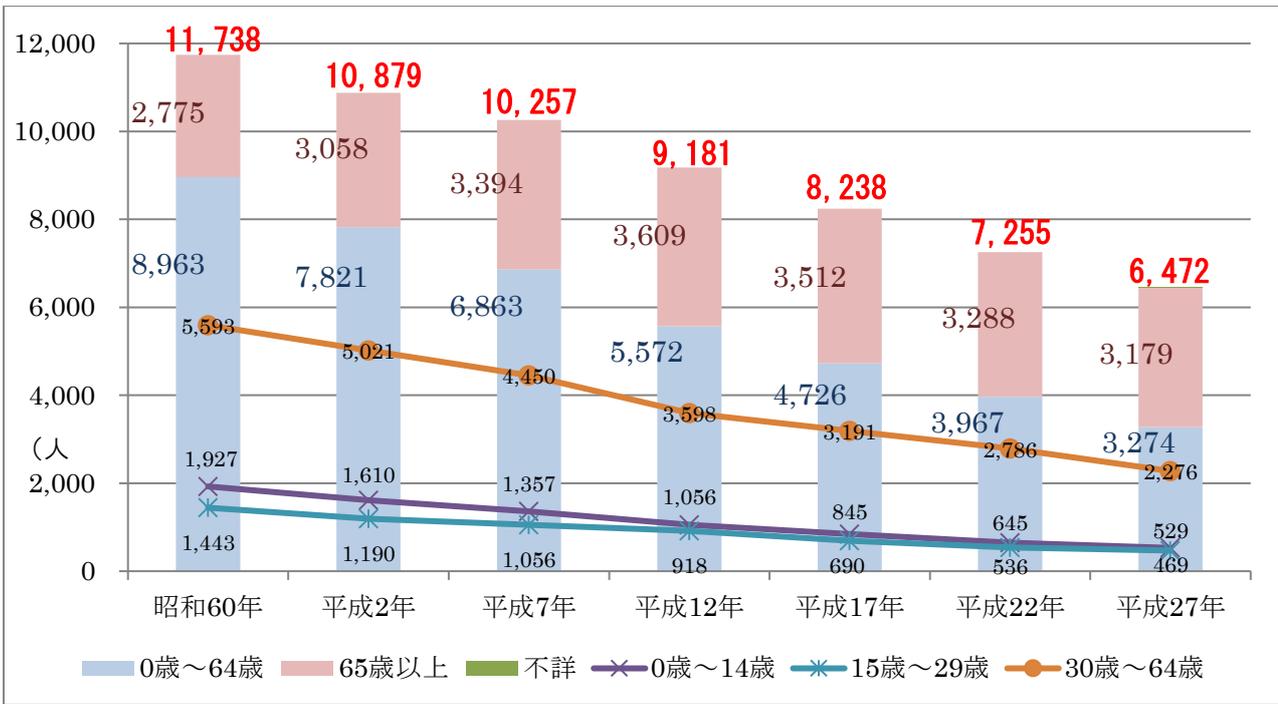


(2) 近年の人口推移及び人口構成の動向

平成27(2015)年の国勢調査における本町の人口は、6,472人で平成22(2010)年の7,255人から11.0%の大幅な減少となっており、高齢化率は49.3%(令和元年10月1日時点では50.2%)と広島県内で最も高い数値となっています。

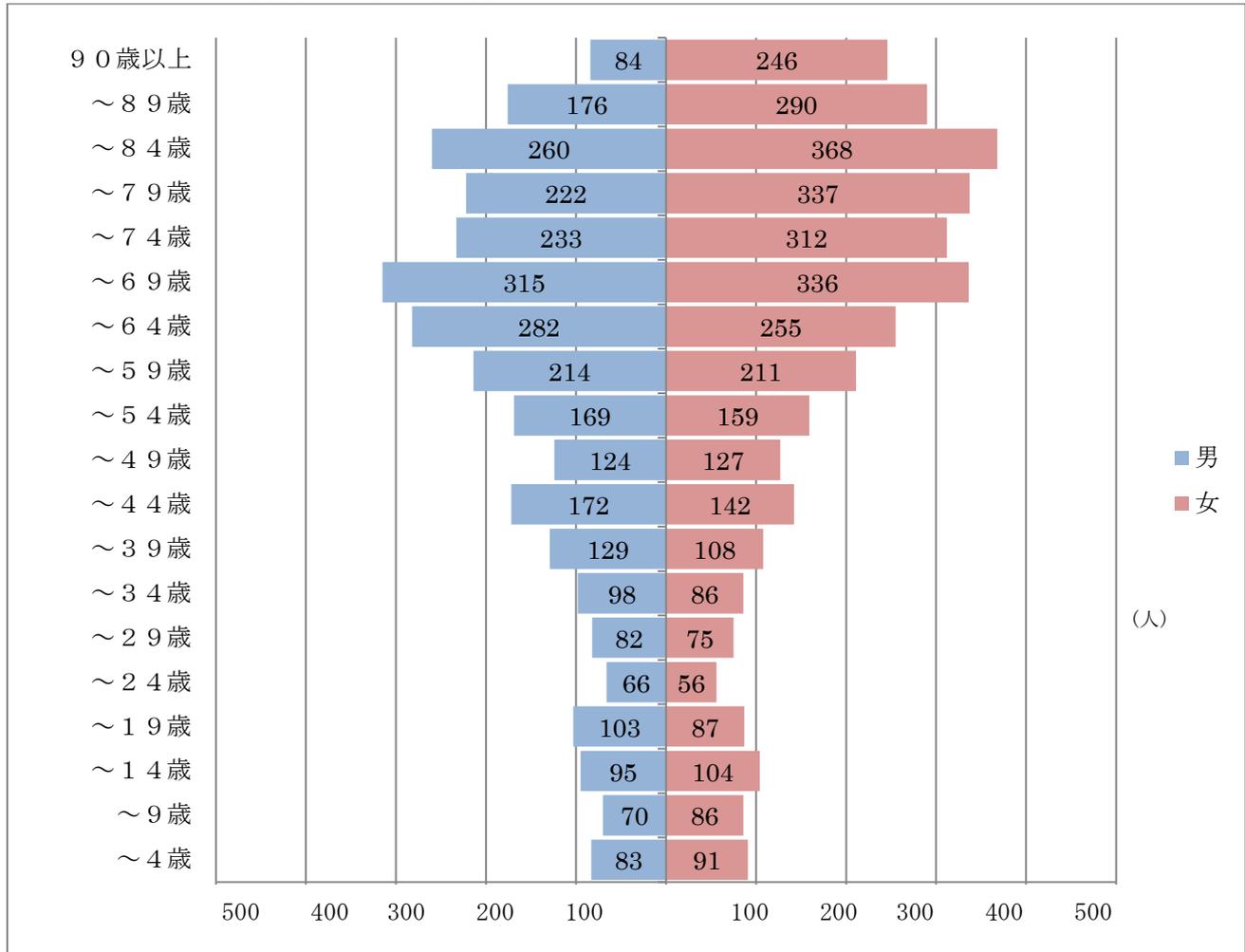
人口構成をみると、特に15歳~29歳の減少率は15%を超えており、若年者層の流出が顕著に表れています。さらに、同年の0歳~14歳の占める割合では8.2%と県内で2番目の低い割合となっており、県内で最も少子高齢化が顕著に表れている自治体といえます。

■人口の推移（近年）



資料：総務省統計局「国勢調査報告」

■人口ピラミッド（平成 27（2015）年）



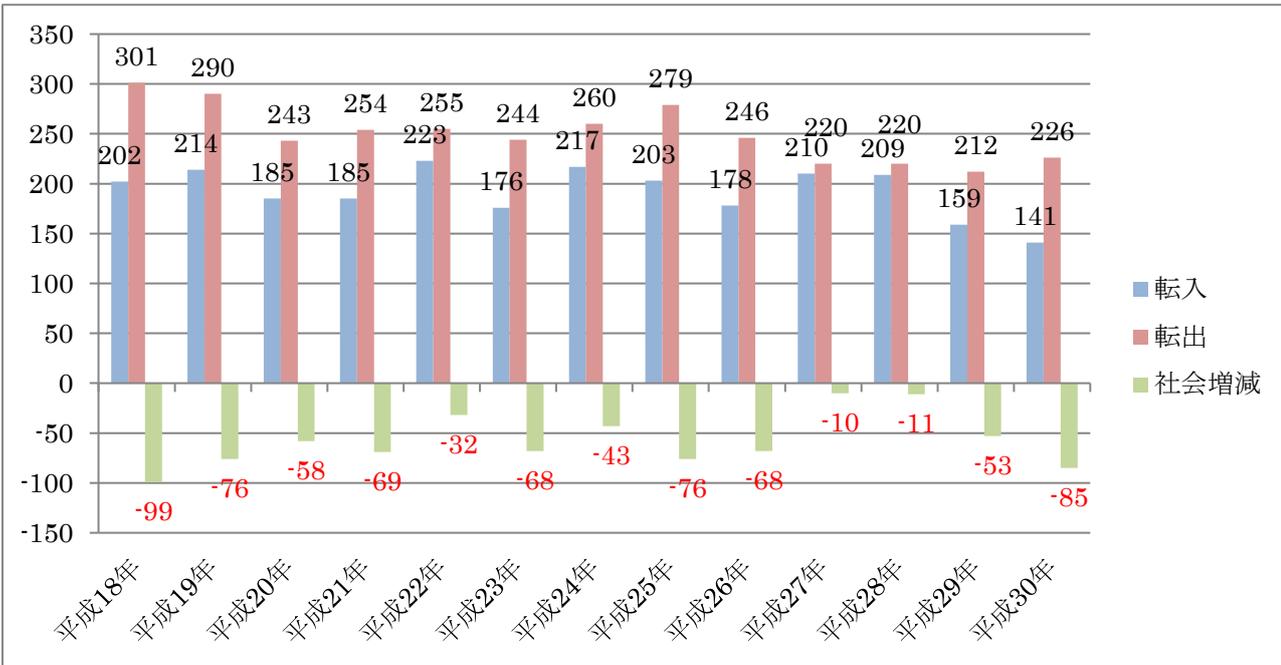
資料：総務省統計局「国勢調査報告」

2. 出生・死亡、転入・転出の推移

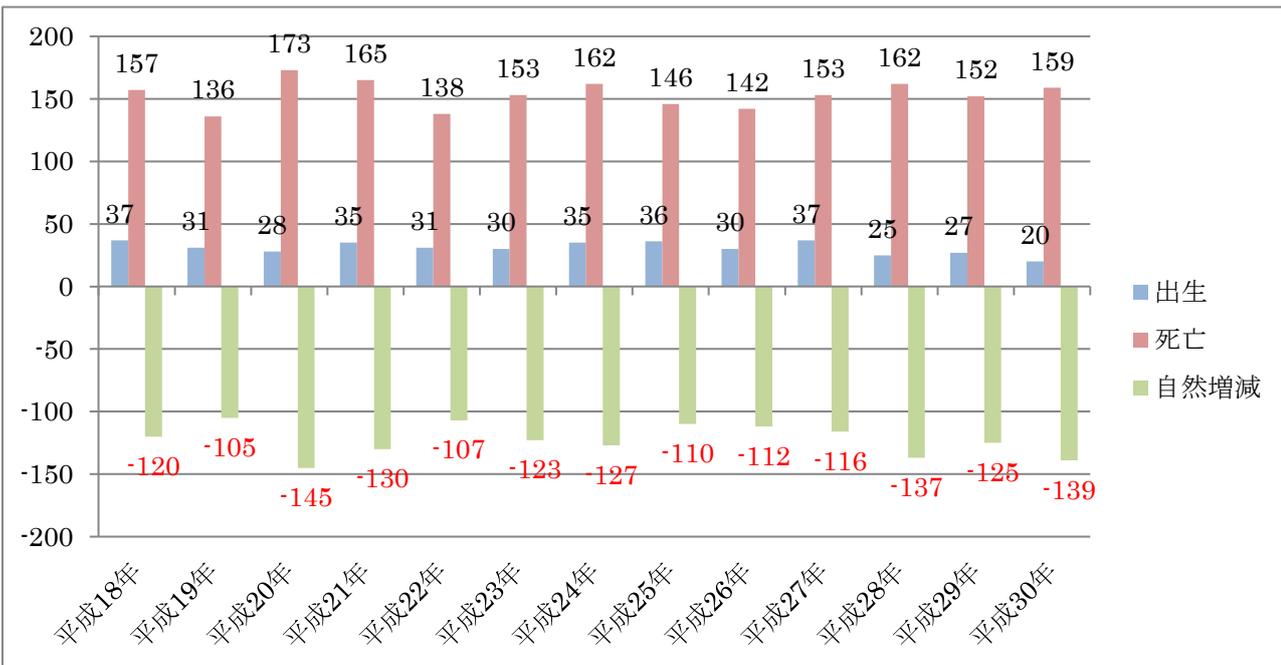
人口動態をみてみると、社会動態・自然動態ともに減少が続いています。近年、社会増減については30～90人台の減少で推移し、自然増減については100～140人台の減少で推移しており、人口減少傾向は継続しています。

自然動態については政策要因で転換させることが困難ですが、社会動態については政策による好転が可能な要素を含むことから、社会増減数値の改善が人口維持を進める上で大きな課題となっているといえます。

■社会動態の推移



■自然動態の推移

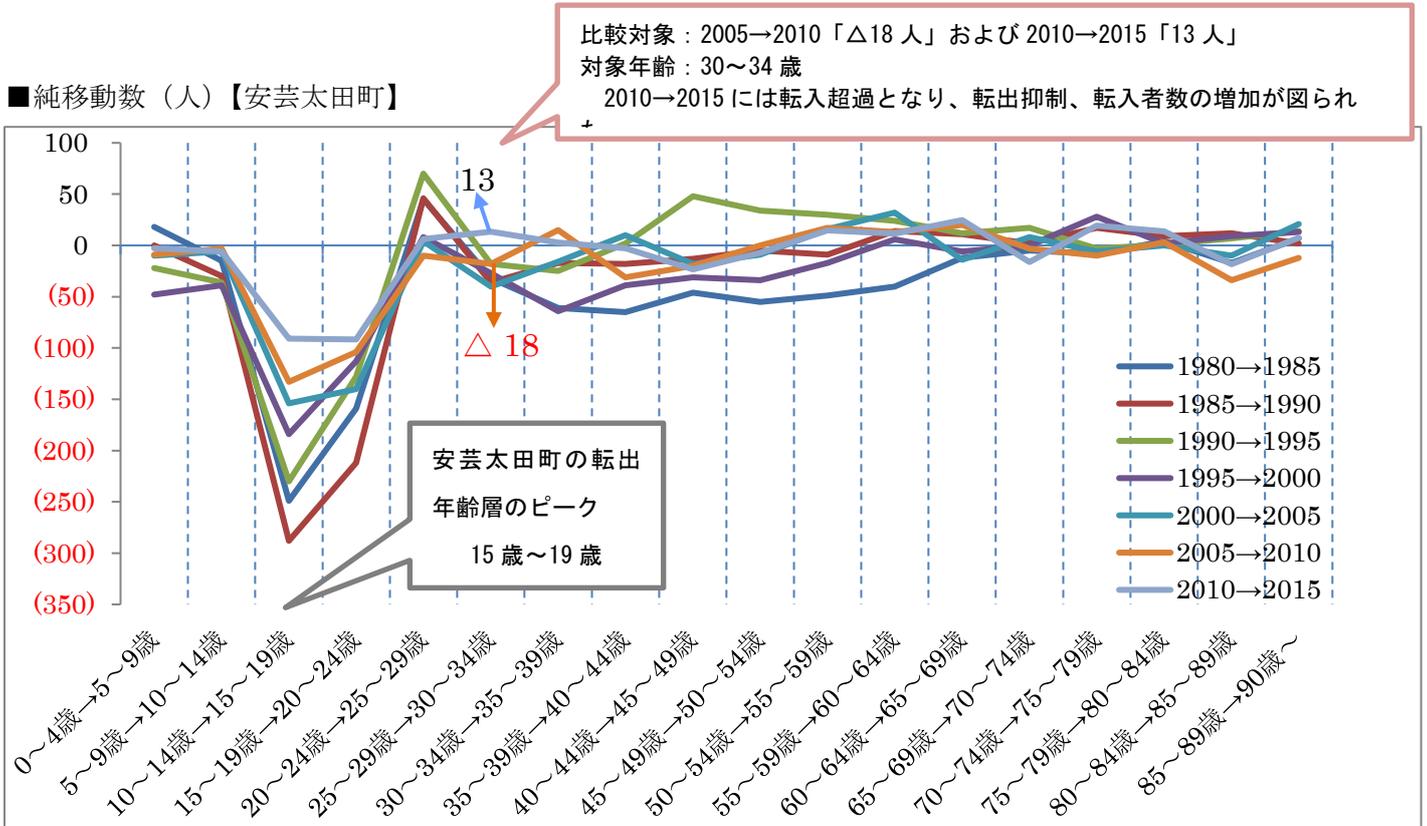


資料：広島県統計課「広島県人口移動統計調査報告」
 ※前年10月1日～当年9月30日の人口移動結果

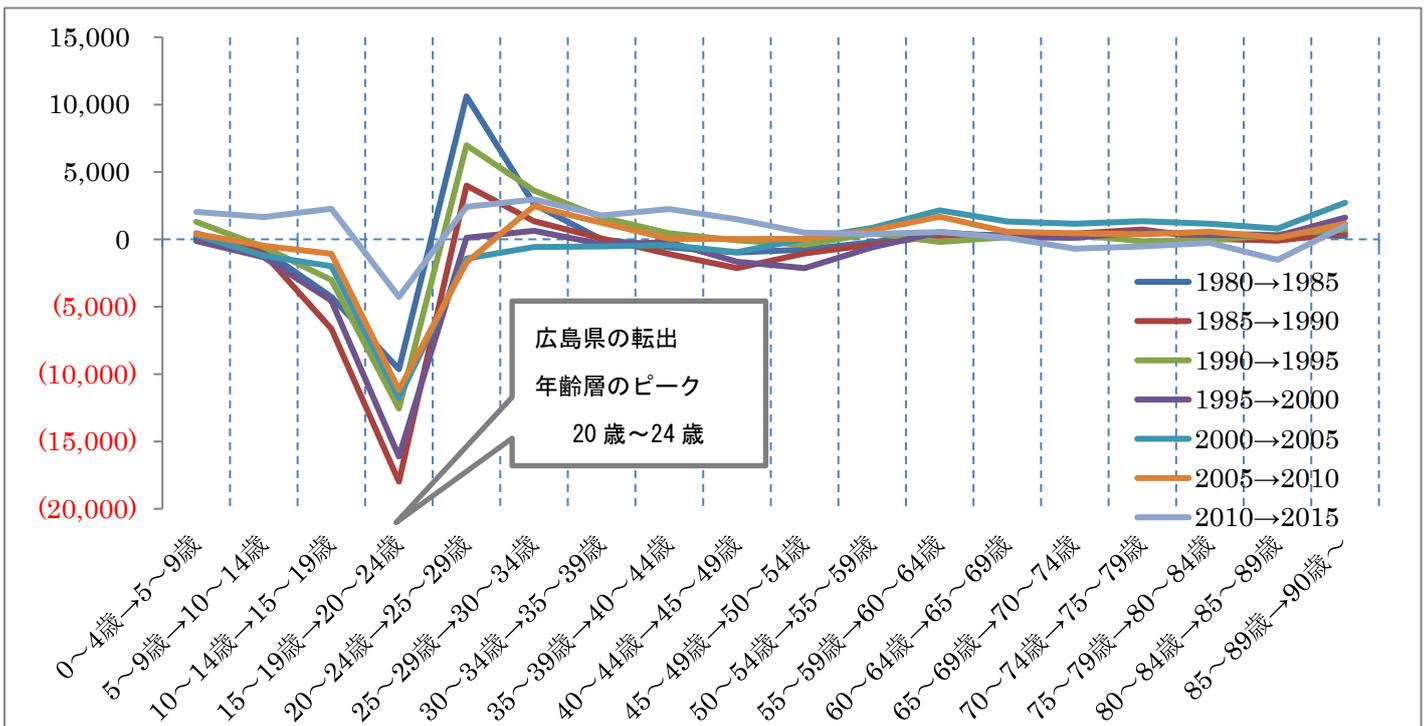
3. 人口移動分析

(1) 年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向 (1980→2015)

国勢調査における2時点の人口データ等から、年齢階級別の移動状況を示します。横軸を5歳階級の年齢、縦軸を純移動数（転入数－転出数）として、「昭和55（1980）年→昭和60（1985）年」以降の各期間の人口移動状況をグラフで示します。



■純移動数（人）【広島県】



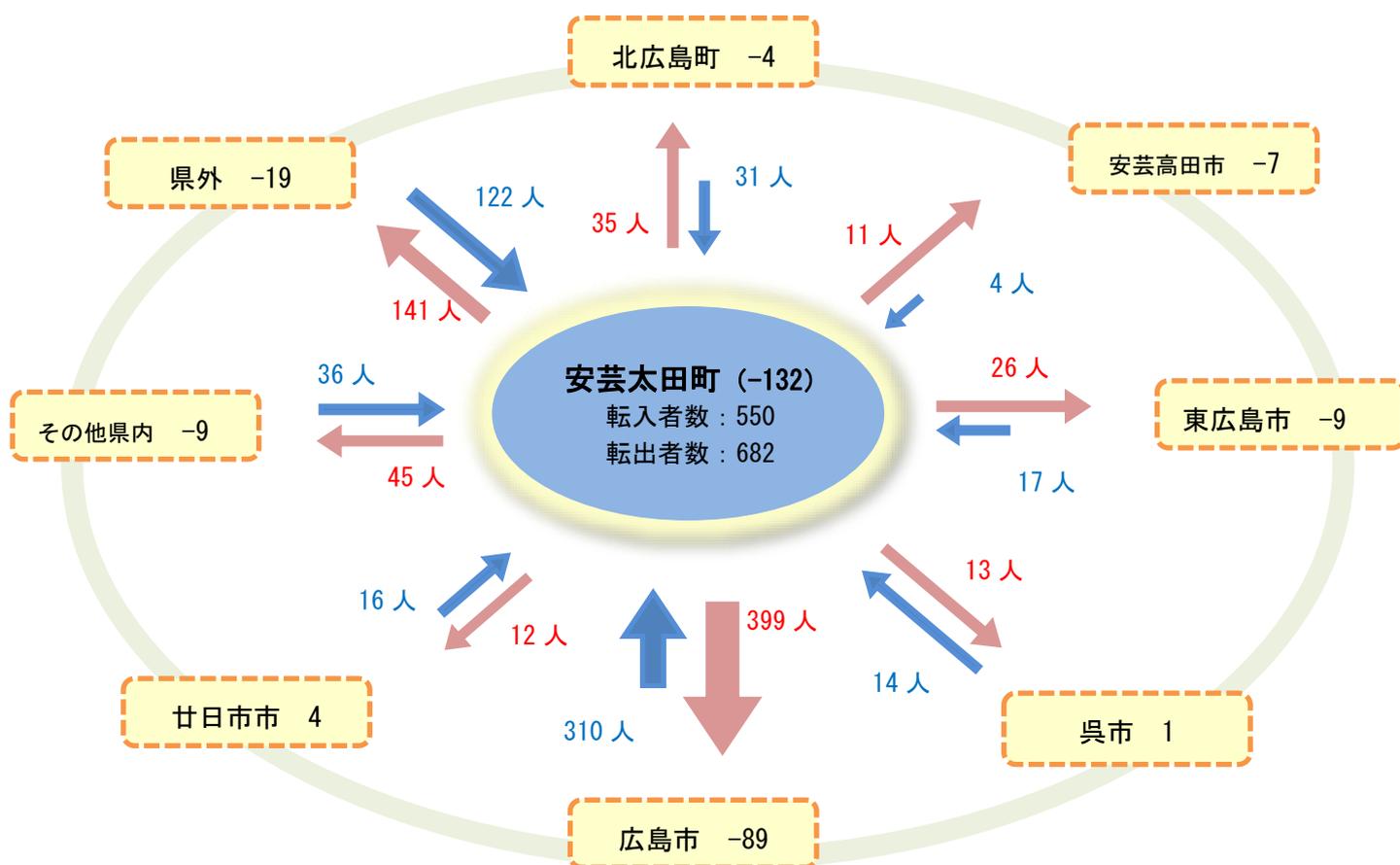
資料：総務省統計局「国勢調査報告」

- 全体的に転出超過傾向となっており、中でも10～14歳→15～19歳になる時に大幅な転出超過があらわれています。この転出超過は、高校や大学への進学に伴う転出の影響と考えられます。
- また25～29歳→30～34歳になる時において、2010年までは転出超過であったものの、2010→2015年の期間においては転出超過となり、30～34歳の世代において、転出抑制、転入者数の増加が図られたと考えられます。
- 広島県全体では、転出超過のピークを15～19歳→20～24歳で迎えるのに対し、安芸太田町では、転出超過のピークを10～14歳→15～19歳で迎えており、この傾向は特徴であるといえます。

(2) 近隣自治体への人口移動の状況

人口移動の状況を見ると、周辺市町間での転入転出が主となっています。その中でも、広島市との転入・転出が大半を占めます。

とりわけ広島市への転出超過が大きく、5年の間に89人の転出超過が発生しています。



資料：総務省統計局「国勢調査報告」2010年～2015

別表

平成 22 (2010) 年～平成 27 (2015) 年					
転入			転出		
順位	市町	転入数	順位	市町	転出数
1	広島市	310	1	広島市	399
2	北広島町	31	2	北広島町	35
3	東広島市	17	3	東広島市	26
4	廿日市市	16	4	呉市	13
5	呉市	14	4	福山市	13
6	尾道市	12	6	廿日市市	12
7	福山市	6	7	安芸高田市	11
8	府中町	5	8	三次市	5
9	安芸高田市	4	8	江田島市	5
9	海田町	4	10	尾道市	3
11	江田島市	3	10	府中市	3
12	三次市	2	10	庄原市	3
13	竹原市	1	10	大竹市	3
13	府中市	1	10	大崎上島町	3
13	庄原市	1	15	府中町	2
13	世羅町	1	15	海田町	2
			17	竹原市	1
			17	三原市	1
			17	世羅町	1
	県外 (国外含)	122		県外	141
	計	550		計	682

資料：総務省統計局「国勢調査報告」2010年－2015年

Ⅱ 将来人口の推計

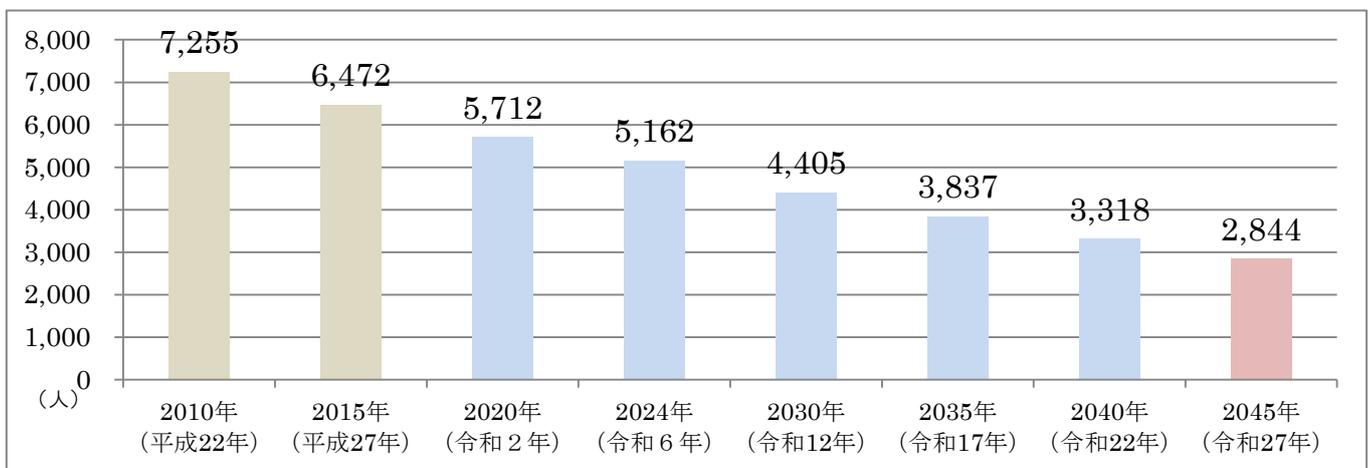
1. 国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の推計手法（コーホート変化率法）を用いた推計によれば、このまま状況が継続すると仮定した場合の本町の人口は、令和2（2020）年に5,712人、第二次長期総合計画の目標年度である令和6（2024）年には5,162人に減少すると予測しています。さらに、25年後の令和27（2045）年には2,844人にまで減少するとし、基礎自治体としての存在が危ぶまれる予測がされています。

【人口の推移と将来人口推計】

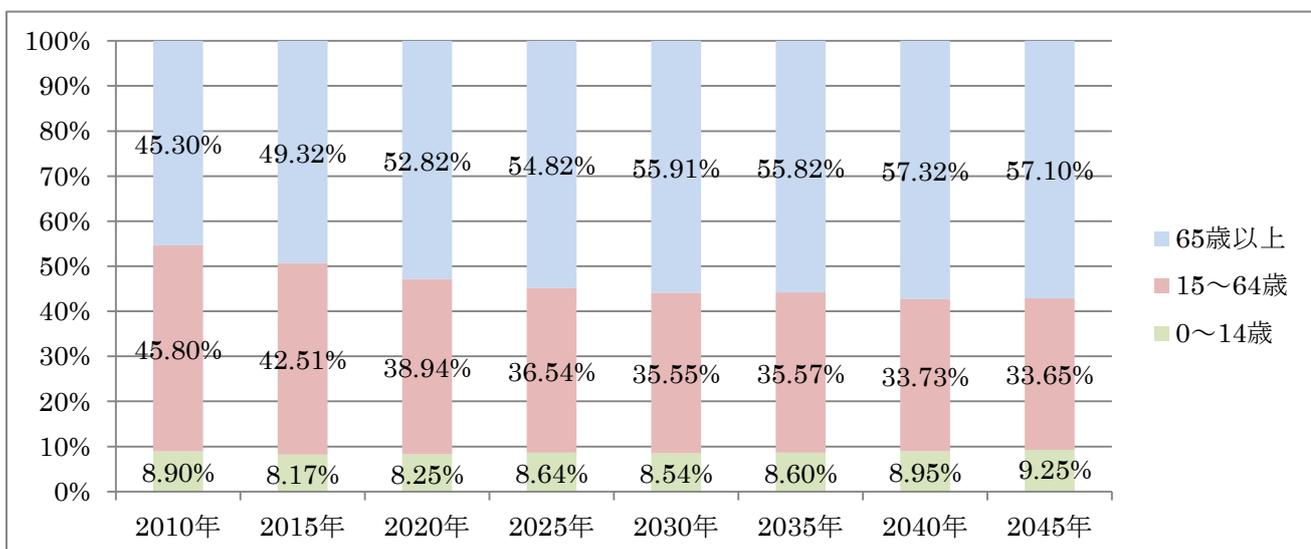
単位：人

国勢調査人口結果		国立社会保障・人口問題研究所					
平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和6年 (2024年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)
7,255	6,472	5,712	5,162	4,405	3,837	3,318	<u>2,844</u>



【人口3区分構成の推移】

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）と同様の推計手法（コーホート変化率法）により、推計を行った結果では、令和27（2045）年の年齢3区分別人口をみると、0～14歳の構成比がほぼ横ばいの9.25%、15～64歳の構成比が33.65%に減少する一方、65歳以上の構成比は57.10%と増加し、少子高齢化と生産年齢人口（15～64歳）の減少が同時に進行することが予測されています。



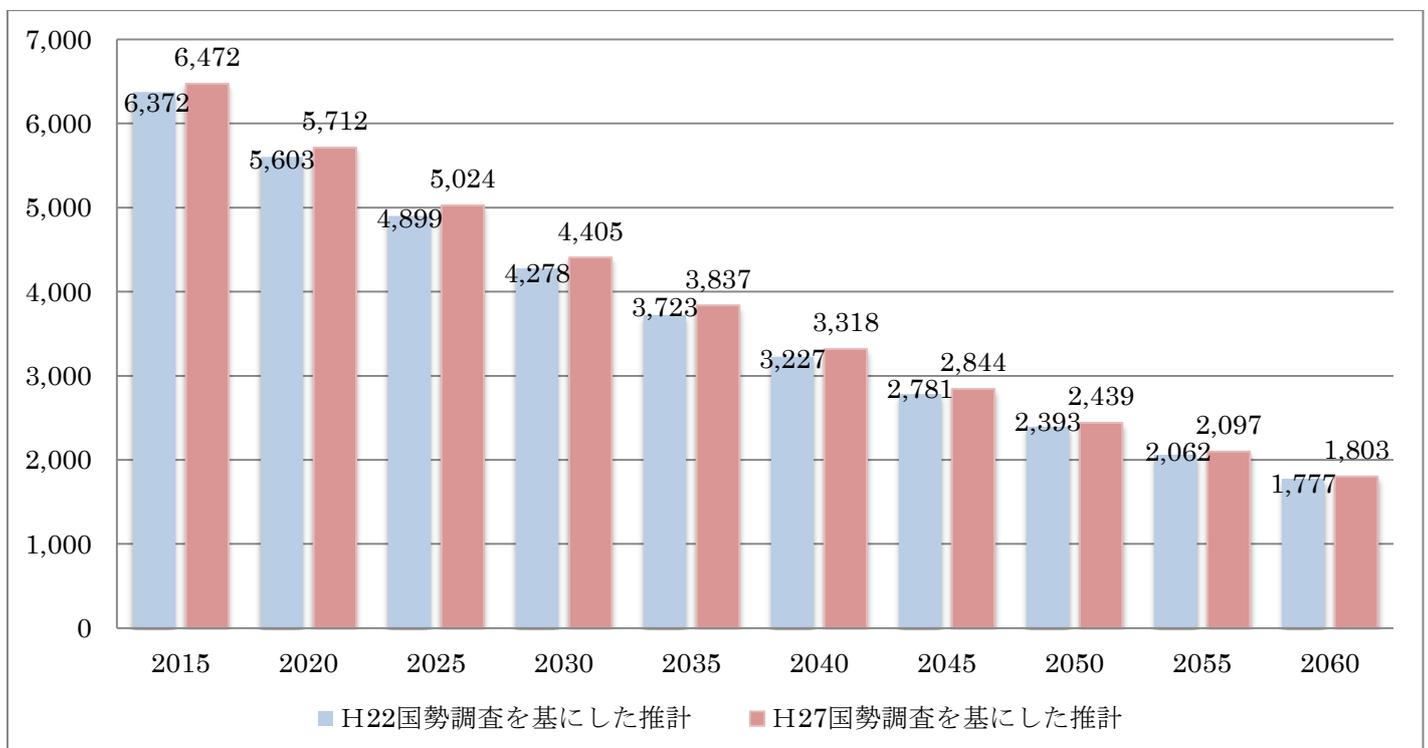
資料：国立社会保障・人口問題研究所

2. 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響分析

(1) 国立社会保障・人口問題研究所推計における人口減少の改善

国立社会保障・人口問題研究所の推計手法（コーホート要因法）を用いた推計において、平成22年の国勢調査を基にした推計値と平成27年の国勢調査を基に推計された推計値とでは、人口減少の傾きがややゆるやかになったことがわかります。

年	国立社会保障・人口問題研究所推計準拠（単位：人）		
	平成22年国勢調査をベースとした推計値	平成27年国勢調査をベースとした推計値	人口の差分
2015	6,372	6,472	100
2020	5,603	5,712	109
2025	4,899	5,024	125
2030	4,278	4,405	127
2035	3,723	3,837	114
2040	3,227	3,318	91
2045	2,781	2,844	63
2050	2,393	2,439	46
2055	2,062	2,097	35
2060	1,777	1,803	26



(2) 自然増減、社会増減の影響の分析

平成 30 年 3 月公表の社人研推計をベースとして、以下のとおり 3 種類のシミュレーションによる推計を行いました。

① 社人研推計

平成 30 年 3 月公表の国立社会保障・人口問題研究所推計準拠（平成 27 年国勢調査を基準とした推計値）。

② シミュレーション 1：出生率上昇

合計特殊出生率が令和 12（2030）年までに人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の 2.1）まで上昇したと仮定。

③ シミュレーション 2：出生率上昇 + 社会増減均衡

合計特殊出生率が令和 12（2030）年までに人口置換水準まで上昇し、かつ人口移動が均衡（転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合）したと仮定。

④ シミュレーション 3：転入超過

合計特殊出生率が社人研推計と同水準で推移し、かつ人口移動が転入超過（各年の転入超過が R2～R6 は 24 人、R7～R12 は 28 人、R13～R18 は 30 人、R18～R22 は 38 人、R23 以降は 39 人）したと仮定。

■推計人口

単位：人

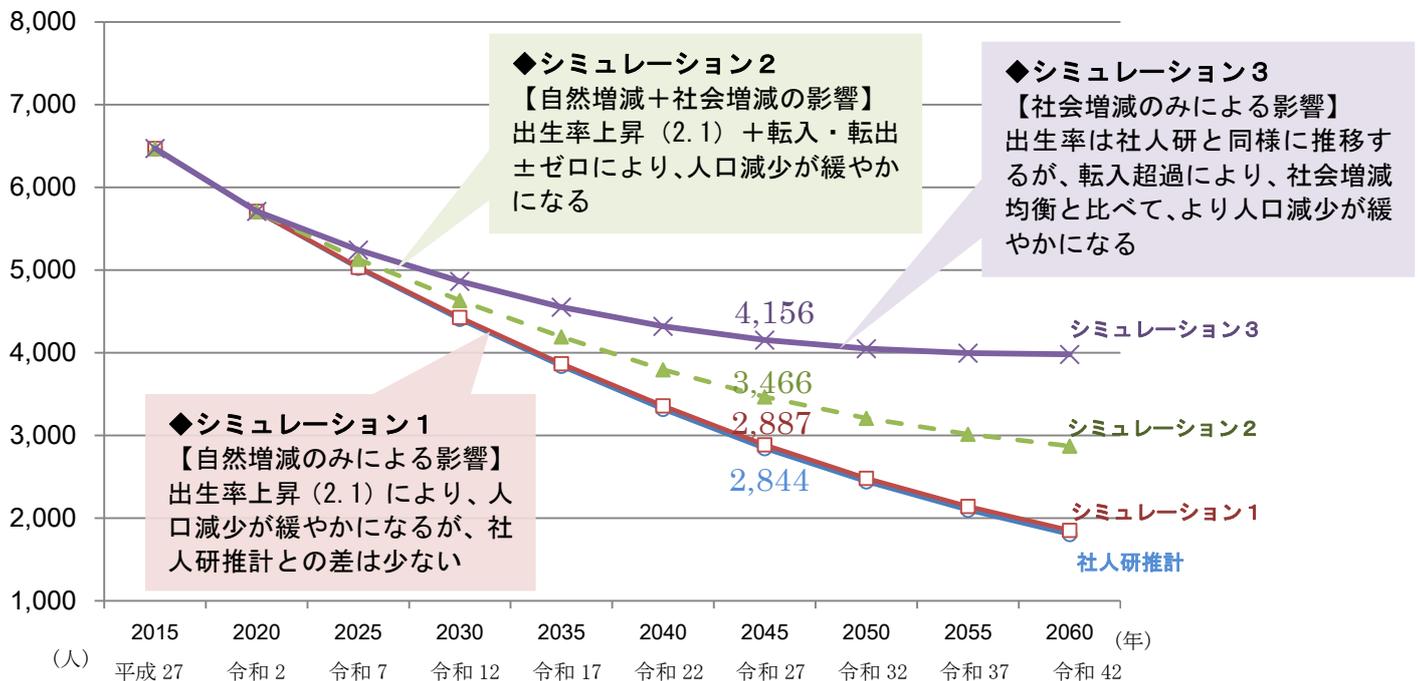
(年)	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研推計	6,472	5,712	5,024	4,405	3,837	3,318	2,844	2,439	2,097	1,803
シミュレーション 1	6,472	5,712	5,034	4,430	3,870	3,359	2,887	2,482	2,143	1,853
シミュレーション 2	6,472	5,712	5,131	4,632	4,193	3,795	3,466	3,209	3,015	2,872
シミュレーション 3	6,472	5,712	5,243	4,865	4,552	4,320	4,156	4,049	3,997	3,981

■合計特殊出生率 (t f r)

単位：%

(年)	2011 ～ 2015	2016 ～ 2020	2021 ～ 2025	2026 ～ 2030	2031 ～ 2035	2036 ～ 2040	2041 ～ 2045	2046 ～ 2050	2051 ～ 2055	2056 ～ 2060
社人研推計	1.63	1.91	1.89	1.90	1.90	1.90	1.92	1.92	1.92	1.92
シミュレーション 1	1.63	1.91	2.06	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
シミュレーション 2	1.63	1.91	2.06	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
シミュレーション 3	1.63	1.91	1.89	1.90	1.90	1.90	1.92	1.92	1.92	1.92

【将来人口のシミュレーション (グラフ)】



【自然増減、社会増減の影響】

シミュレーション1は、社人研推計の出生率が上昇した場合の試算です。合計特殊出生率が、「2.1」に上昇したと仮定すると、令和27（2045）年の人口は、社人研推計より約40人多くなります。

シミュレーション2は、出生率が上昇し、かつ人口移動(社会増減)が均衡した場合の試算です。2030年までに合計特殊出生率が2.1に上昇し、転入転出数が均衡したと仮定すると、令和27（2045）年の人口は、シミュレーション1より約880人多くなります。

シミュレーション3は、出生率が社人研推計と同水準で推移し、転入超過した場合の試算です。経過とともに転入超過数が上昇し、2025年までに社会増減はプラスになったと仮定すると、令和27（2045）年の人口は、社人研推計より約1,312人多くなります。

このことから、安芸太田町における将来人口は、出生率の影響だけではなく、社会増減の影響を大きく受けると言えます。

■人口の増減数（5年間ごとの合計人数）

単位：人

(年)	2011	2016	2021	2026	2031	2036	2041	2046	2051	2056
	～ 2015	～ 2020	～ 2025	～ 2030	～ 2035	～ 2040	～ 2045	～ 2050	～ 2055	～ 2060
社人研推計	-814	-760	-688	-619	-568	-519	-474	-405	-342	-294
シミュレーション1	-814	-760	-678	-604	-560	-511	-472	-405	-339	-290
シミュレーション2	-814	-760	-581	-499	-439	-398	-329	-257	-194	-143
シミュレーション3	-814	-760	-469	-378	-313	-232	-164	-107	-52	-16

■自然増減数（5年間ごとの合計人数）

単位：人

(年)	2011	2016	2021	2026	2031	2036	2041	2046	2051	2056
	～ 2015	～ 2020	～ 2025	～ 2030	～ 2035	～ 2040	～ 2045	～ 2050	～ 2055	～ 2060
社人研推計	-641	-621	-606	-551	-507	-481	-427	-368	-308	-259
シミュレーション1	-641	-621	-595	-539	-497	-471	-419	-358	-300	-250
シミュレーション2	-641	-621	-592	-513	-453	-414	-345	-275	-214	-165
シミュレーション3	-641	-621	-591	-522	-463	-425	-360	-293	-235	-191

■社会増減数（5年間ごとの合計人数）

単位：人

(年)	2011	2016	2021	2026	2031	2036	2041	2046	2051	2056
	～ 2015	～ 2020	～ 2025	～ 2030	～ 2035	～ 2040	～ 2045	～ 2050	～ 2055	～ 2060
社人研推計	-173	-140	-82	-64	-63	-37	-46	-41	-34	-35
シミュレーション1	-173	-140	-82	-65	-63	-40	-53	-47	-39	-40
シミュレーション2	-173	-140	0	0	0	0	0	0	0	0
シミュレーション3	-173	-140	123	144	150	193	196	186	183	175

※端数処理により、各シミュレーションにおける自然・社会増減数の総計が人口の増減数となるとは限らない

(3) 人口構造の分析

年齢3区分別にみると、社人研推計と比較してシミュレーション1においては、「0～14歳人口」の減少率は小さくなり、シミュレーション2およびシミュレーション3においては、減少率が大幅に縮小しています。

一方「20～39歳女性人口」は、社人研推計とシミュレーション1では、それほど大きな差はみられません。シミュレーション2およびシミュレーション3においては減少率が大幅に縮小しています。

【推計結果ごとの人口増減率】

		総人口	0-14歳人口		15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
			うち0-4歳人口				
2015年	社人研推計(基準値)	6,472	529	174	2,751	3,192	325
2045年	社人研推計	2,844	264	75	958	1,625	140
	シミュレーション1	2,887	292	84	971	1,625	142
	シミュレーション2	3,466	448	149	1,469	1,549	318
	シミュレーション3	4,156	530	157	1,805	1,821	310
2015年→2045年増減率	社人研推計	-56.1%	-50.1%	-56.9%	-65.2%	-49.1%	-56.9%
	シミュレーション1	-55.4%	-44.8%	-51.7%	-64.7%	-49.1%	-56.3%
	シミュレーション2	-41.8%	-15.4%	-14.0%	-46.7%	-41.5%	-2.2%
	シミュレーション3	-35.8%	0.9%	-10.8%	-34.4%	-43.0%	-4.7%

減少率の
大幅な改善

減少率の
大幅な改善

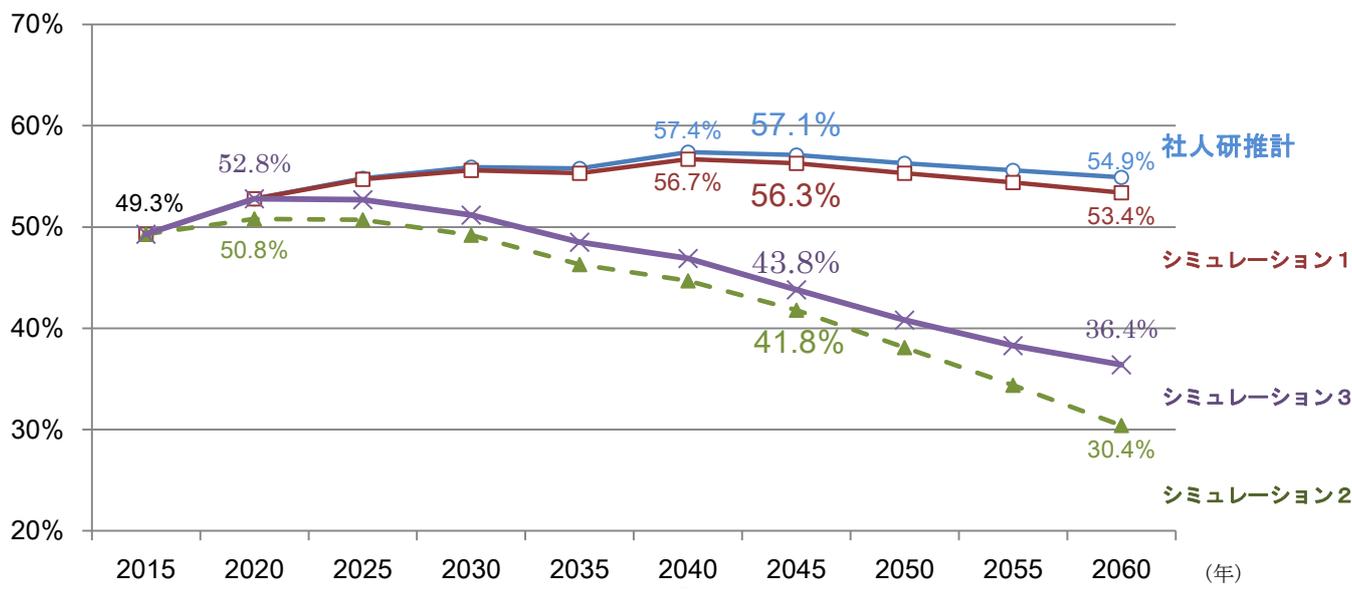
(4) 老年人口(65歳以上人口)比率の変化

社人研推計とシミュレーション1～3について、令和27(2045)年時点の仮定を令和42(2060)年まで延長して推計すると、社人研推計の老年人口比率は増加を続けたあと、2040年の57.4%をピークに微減に転じます。

次にシミュレーション1では出生率が上昇すると仮定していますが、同じく2040年の56.7%をピークに減少に転じます。

さらに、シミュレーション2およびシミュレーション3においては、2020年をピークとしてその後減少に転じ、2060年には30.4%、36.4%まで低下します。

【老年人口(65歳以上人口)比率の長期推計】



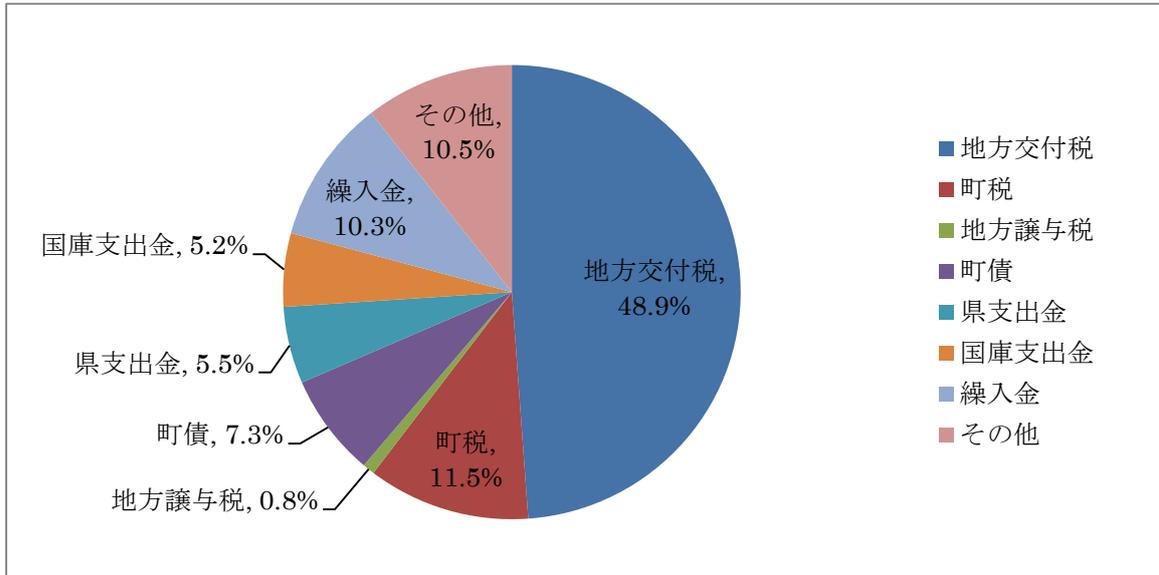
Ⅲ 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

1. 財政状況への影響

(1) 歳入の状況

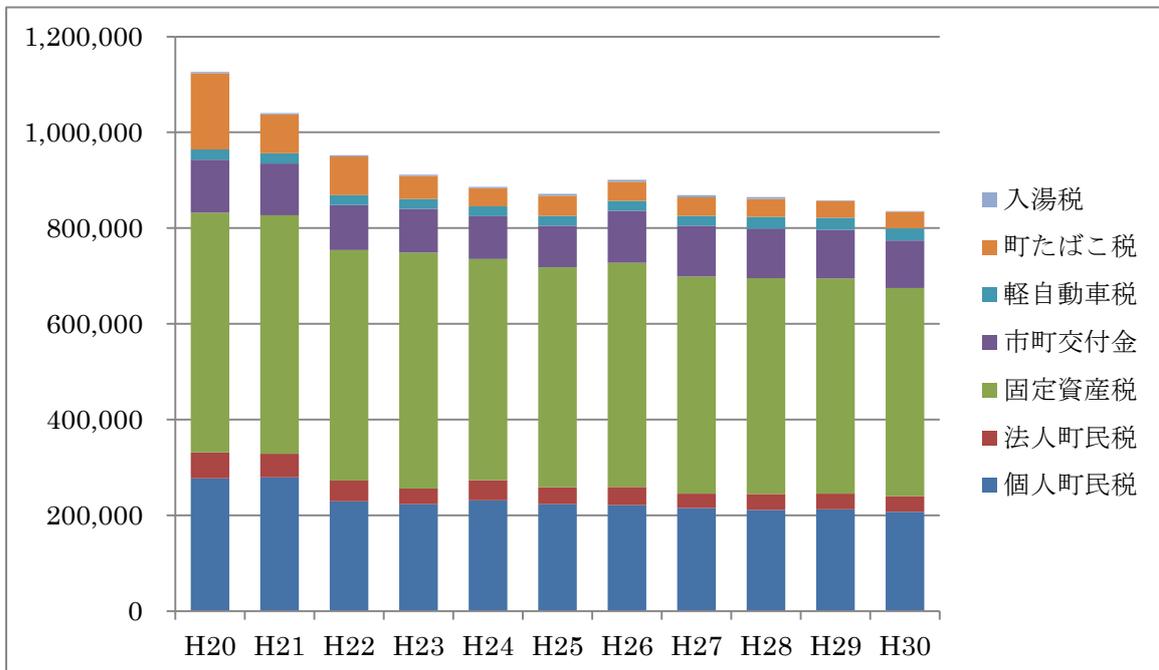
平成 30（2018）年度の普通会計の歳入における内訳をみると、町税は歳入全体の 11.5%ではありますが、本町の貴重な自主財源であり、維持、増加を進める必要があります。

町税の総額は、平成 20 年度以降下降傾向で、近年は 8 億 3 千万円から 8 億 7 千万円で推移しており、その大半を個人町民税と固定資産税が占めています。



資料：平成 30 年度主要施策の成果に関する調査
平成 30 年決算書

(千円)



資料：平成 30 年度主要施策の成果に関する調査

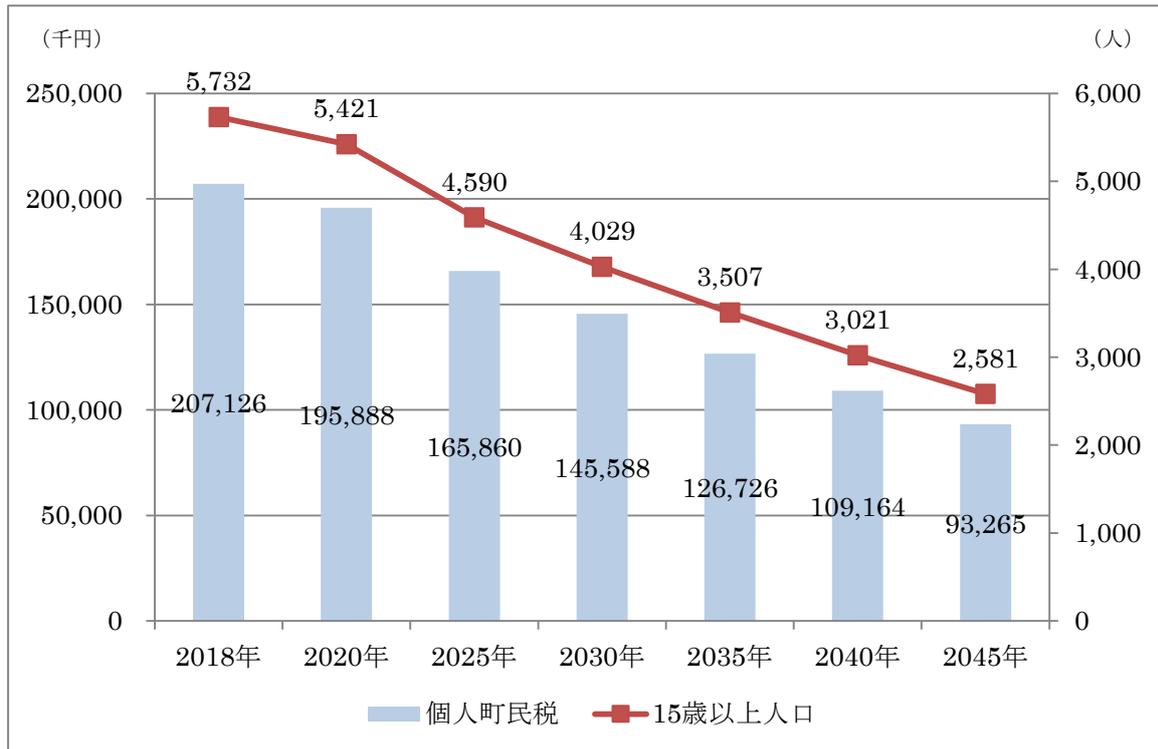
(2) 個人町民税への影響

貴重な自主財源である個人町民税は、人口や景気の変動に影響を受けやすい歳入です。

景気の変動は予測が困難であることから、人口の変動のみを考慮して、今後の個人町民税の推移を分析します。

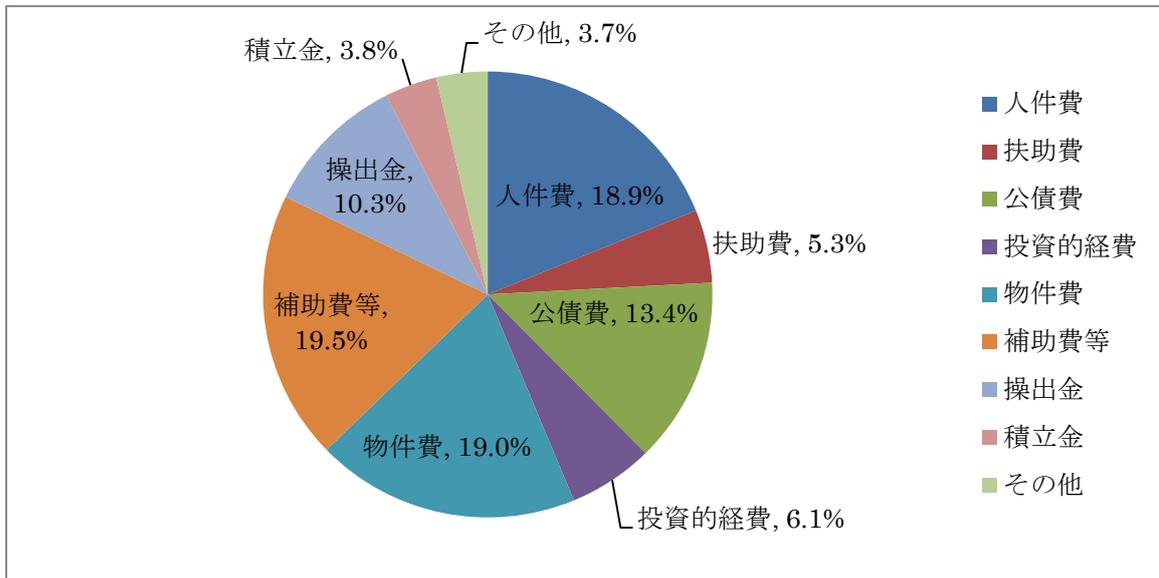
具体的には平成 30 (2018) 年度の個人町民税の実績に基づき、納税者を 15 歳以上人口と仮定し、納税者一人当たりの税額を算出し、これを社人研推計の人口を乗じて個人町民税の推計を行いました。

推計の結果、個人町民税は、15 歳以上人口の減少に比例して減少が見込まれ、平成 30 (2018) 年度と比べて、令和 27 (2045) 年度には、約 1 億 1 千万円 (約 54%) 減少するものと見込まれます。



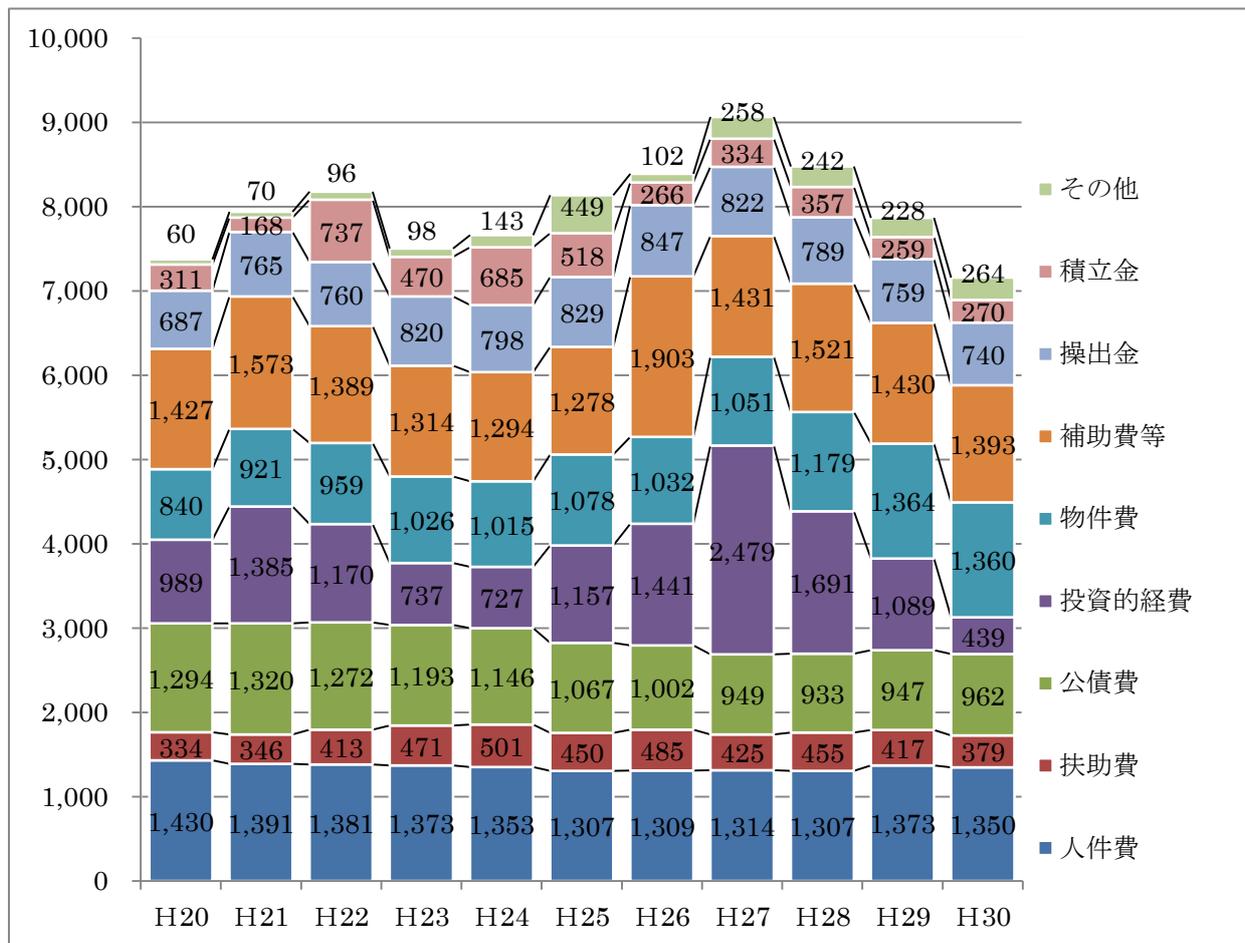
(3) 歳出の状況

平成 30 (2018) 年度までの普通会計の歳出内訳をみると、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）の占める額は、過去 10 年間で大きな変化はなく、将来に向けても一定の規模の経費が見込まれます。



資料：平成 30 年度主要施策の成果に関する調査

(百万円)



資料：平成 30 年度主要施策の成果に関する調査

2. 公共施設の維持管理等への影響

(1) 公共施設の状況

本町が平成 30 (2018) 年度末に保有する公共施設 (行政財産) の延床面積は、105,256 m²です。用途別に区分すると教育施設が最も多く、全体の 22.7%を占めています。

	延床面積 (m ²)	割合
行政施設	13,074.58	12.4%
消防施設	87.00	0.1%
教育施設	23,906.20	22.7%
公営住宅	8,721.74	8.3%
公園	80.00	0.1%
その他施設	59,386.52	56.4%
計	105,256.04	100%

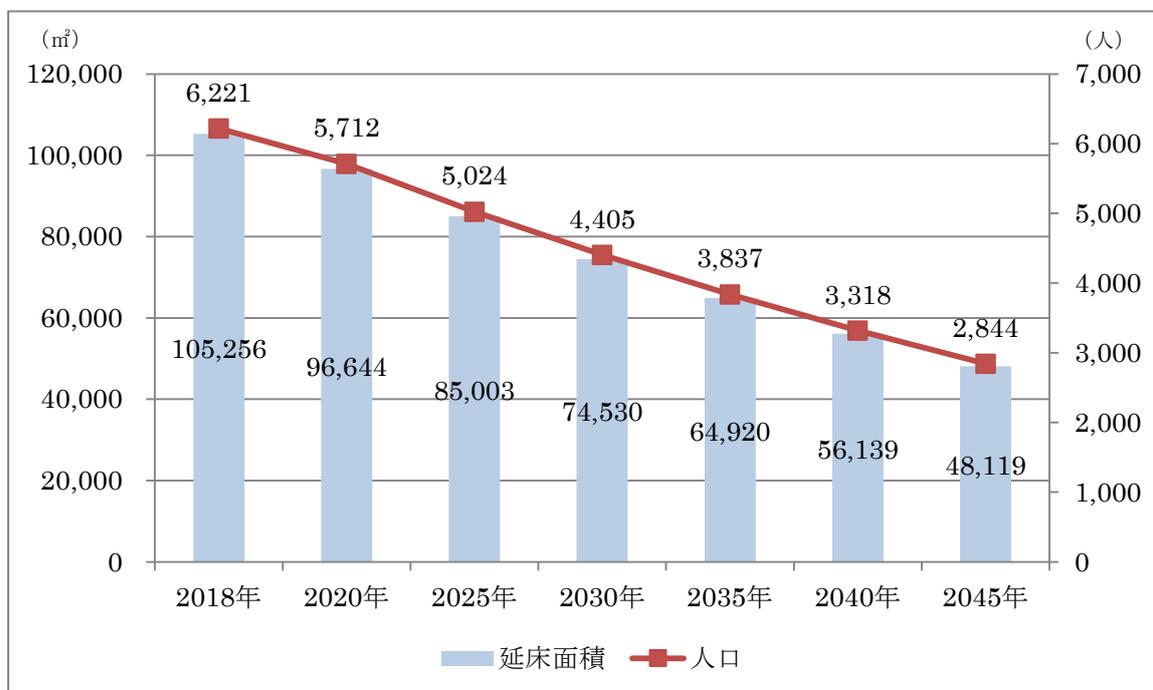
資料：平成 30 年度財産に関する調書

(2) 公共施設の維持管理等への影響

平成 30 (2018) 年度末の町民一人当たりの公共施設の延床面積は、16.92 m²です。これを町民一人当たりの公共施設の保有量と仮定し、公共施設の維持管理費等への影響を分析します。

具体的には、16.92 m²/人に社人研推計の総人口を乗じて、公共施設の適正な保有量を推計します。

推計の結果、平成 30 (2018) 年度と比べて、令和 27 (2045) 年度には 57,136 m² (約 54%) の公共施設が余剰となり、維持することが困難になる見込みです。



3. 小売業への影響

(1) 小売業の状況

本町の小売業の商品販売額は約 50 億円で、その他の小売業が 58% を占めています。次いで、飲食料品小売業が 27.2% で続いています。

	年間商品販売額 (百万円)	割合
織物・衣服・身の回り品小売業	231	4.7%
飲食料品小売業	1,347	27.2%
機械器具小売業	461	9.3%
その他の小売業	2,904	58.6%
無店舗小売業	10	0.2%
合計	4,953	100.0%

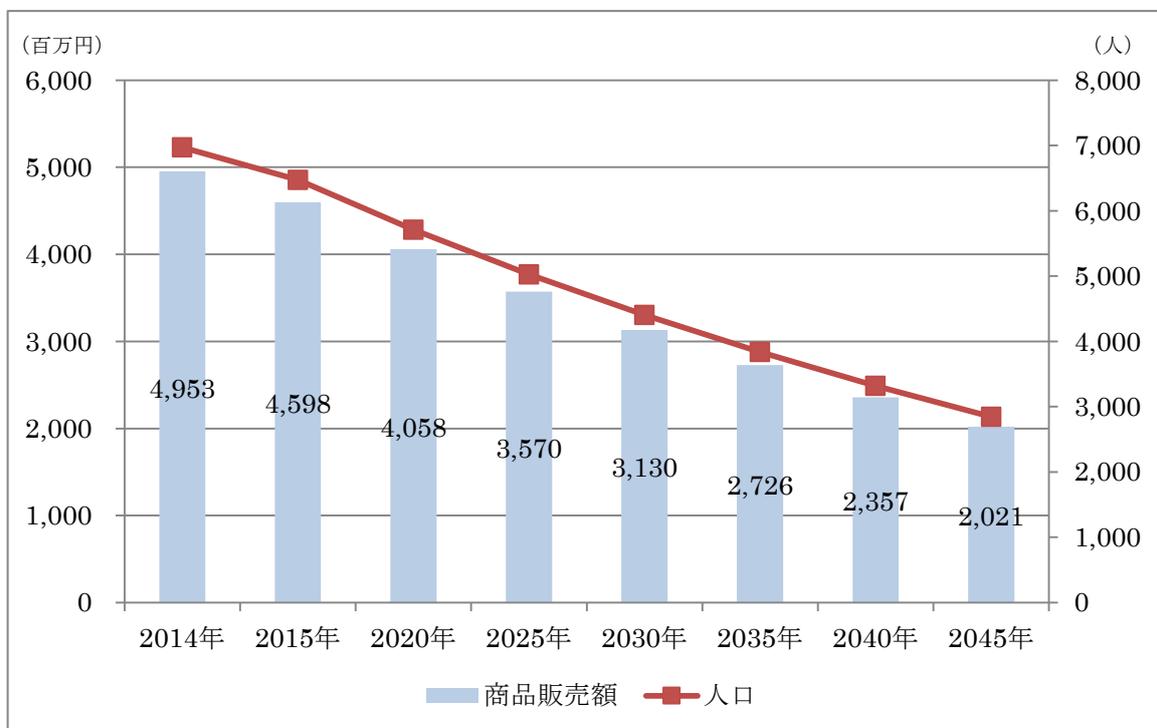
資料：平成 26 年度経済センサス、活動調査

(2) 小売業への影響

町内の小売業者を町民のみが利用していると仮定すると、平成 26 (2014) 年の町民一人当たりの小売業者からの購入額は、約 71 万円です。これが、小売業者が事業を継続するうえで必要な町民一人当たりの購入額とし、小売業への影響を分析します。

具体的には、町民一人当たりの購入額を社人研推計の総人口を乗じて小売業者の商品販売額を推計します。

推計の結果、商品販売額は平成 26 (2014) に比べ、令和 27 (2045) 年には約 29 億円 (約 59%) 減少するため、事業を継続することが困難な小売業者が生じてくる見込みです。



IV. 将来展望に必要な調査・分析

1. 移住・定住等に関する意識（アンケート調査より）

本町において実施した「安芸太田町まちづくりに関するアンケート調査」、「人口移動に関するアンケート調査」及び「第二次安芸太田町長期総合計画に向けたまちづくりに関するアンケート(高校生対象)」から、移住・定住等に関する意識について以下のように整理を行いました。

(1) 「安芸太田町まちづくりアンケート調査（一般）」の結果

- ◇調査名： 安芸太田町まちづくりに関する町民アンケート
- ◇調査対象：町内在住の19歳以上の町民 3,000人
- ◇調査時期：平成31年2月
- ◇サンプリング：無効票 16 有効票 1,185
- ◇回収結果：有効回収率 39.50%

ア. 安芸太田町に住み続けたい理由

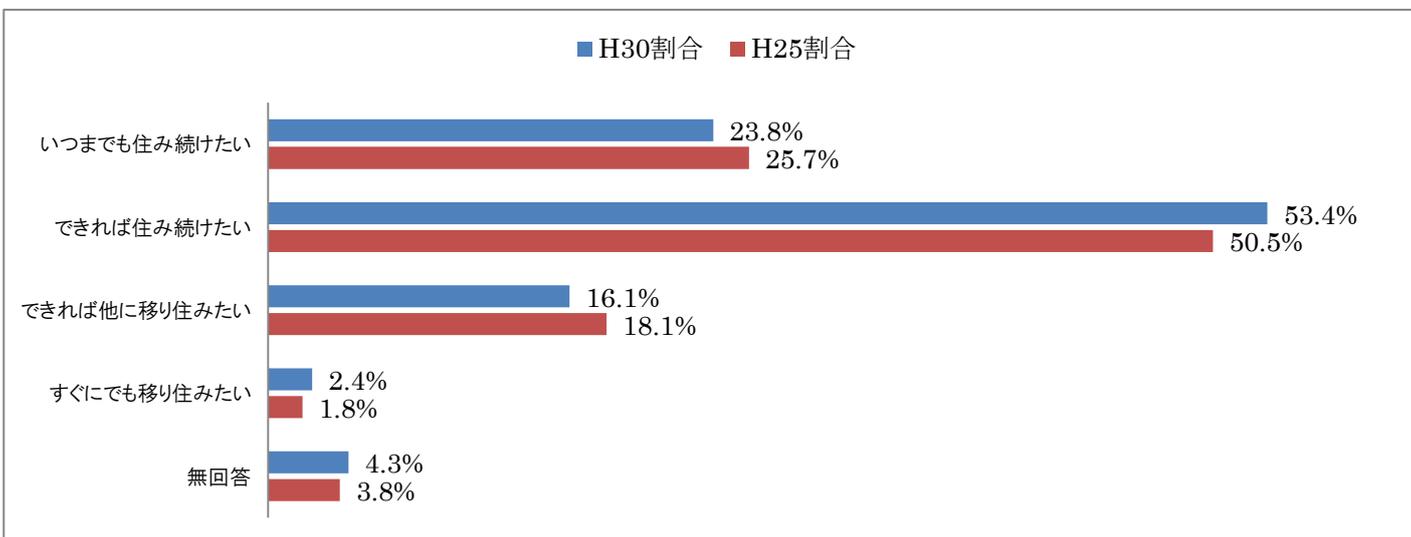
安芸太田町に、「いつまでも住み続けたい」「できれば住み続けたい」と回答した割合は75%を超える結果となっている。

住み続けたい理由として「昔から住んでいるから」「自然環境や景観がよいから」「地域の人間関係がよいから」の割合が高くなっている。

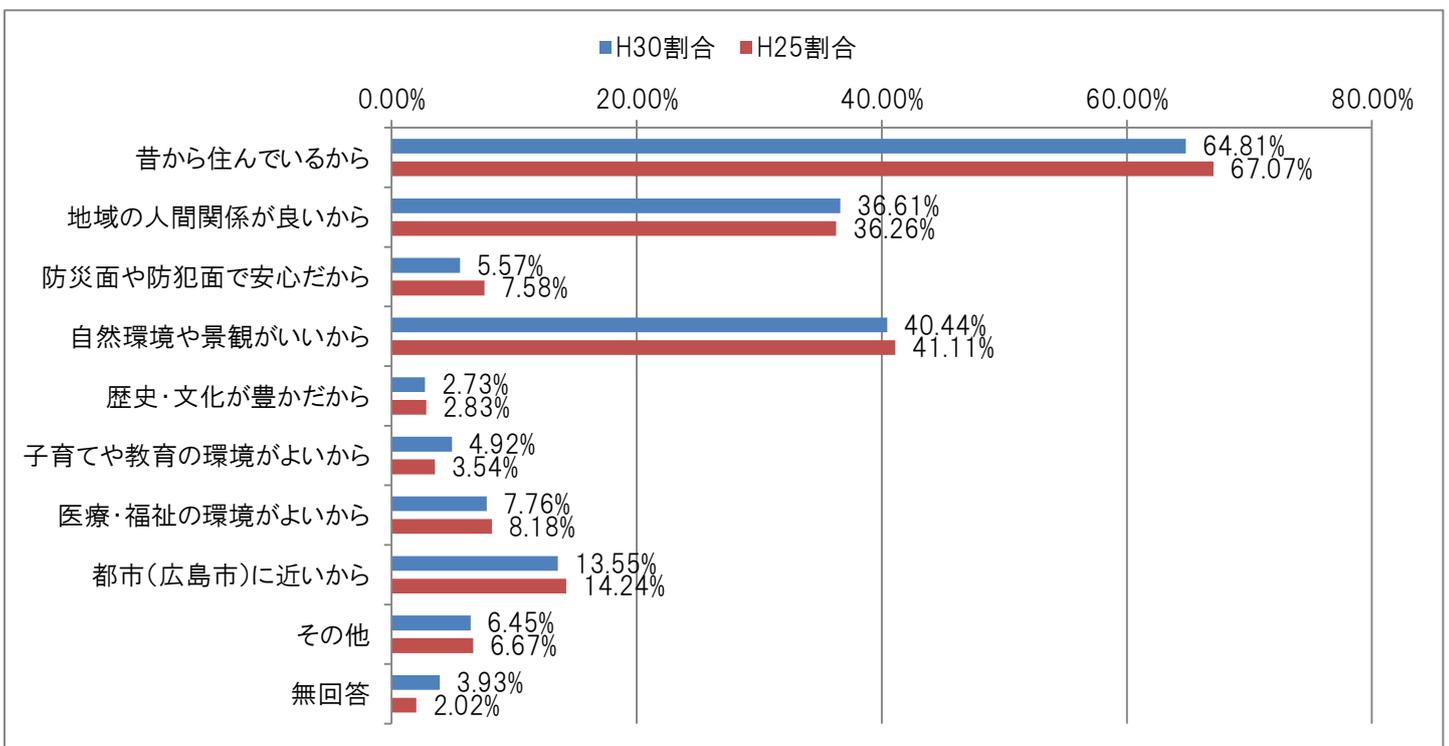
他に移り住みたい理由として「交通や買い物が不便だから」「地域のしきたりやつきあいが多から」「働く場や仕事がないから」の割合が高くなっている。

問 安芸太田町に住み続けたいと思いますか。

	回答数	割合	H25 回答数	H25 割合
いつまでも住み続けたい	282名	23.8%	334名	25.7%
できれば住み続けたい	633名	53.4%	656名	50.5%
できれば他に移り住みたい	191名	16.1%	235名	18.1%
すぐにでも移り住みたい	28名	2.3%	24名	1.8%
無回答	51名	4.3%	50名	3.8%
合計	1,185名	---	1,299名	---



問 住み続けたい理由 (「いつまでも住み続けたい」「できれば住み続けたい」の回答者のみ/複数回答)	回答 対象者	915 名	回答 対象者	990 名
	回答数	回答者 割合	H25 回答数	H25 回答者 割合
昔から住んでいるから	593 票	64.81%	664 票	67.07%
地域の人間関係が良いから	335 票	36.61%	359 票	36.26%
防災面や防犯面で安心だから	51 票	5.57%	75 票	7.58%
自然環境や景観がいいから	370 票	40.44%	407 票	41.11%
歴史・文化が豊かだから	25 票	2.73%	28 票	2.83%
子育てや教育の環境がよいから	45 票	4.92%	35 票	3.54%
医療・福祉の環境がよいから	71 票	7.76%	81 票	8.18%
都市(広島市)に近いから	124 票	13.55%	141 票	14.24%
その他	59 票	6.45%	66 票	6.67%
無回答	36 名	3.93%	20 名	2.02%
合計票数(無回答を除く)	1,673 票	---	1,876 票	---



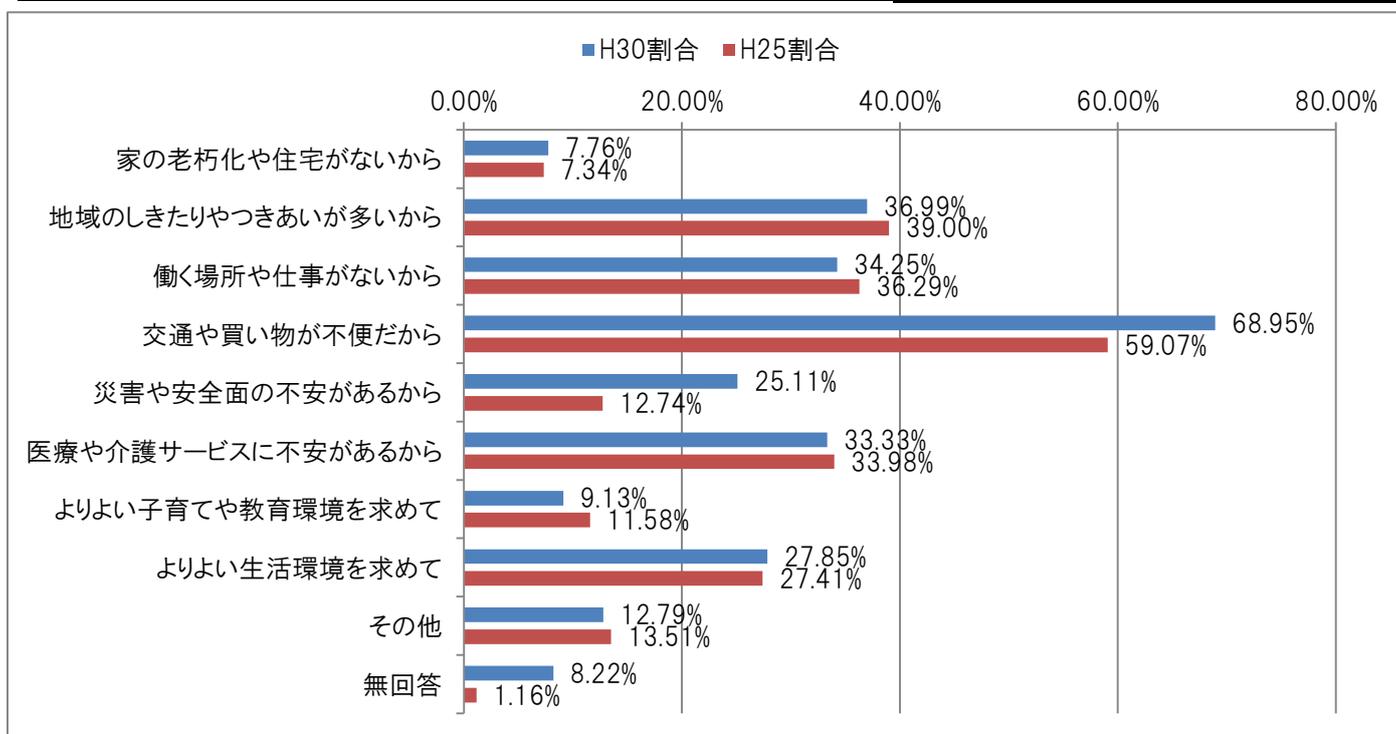
【その他の主な意見(抜粋)】

- ・親がいるから
- ・農地があるから
- ・長年住んでいるから
- ・坂の頂上で気分的のん気である。自分で作った野菜は特別おいしい。
- ・自分で運転さえできれば、交通の便は悪くない。むしろ市内まで1時間とすこしあれば大体どこへでも行ける
- ・住まなければ空き家になってしまう
- ・終戦後より住んでいるので他に行きたいとも思わない
- ・高齢になり住み続ける選択しかない。ここが終の棲家だと思っているから。
- ・子どもが町内に住んでいるから
- ・安芸太田町が好きだから
- ・仕事があるから
- ・生活に余裕が出来てくると、人口増や利便性に提言などとして貢献したい。
- ・全て顔見知りだから
- ・都市部に比べ生活コストがかからない
- ・土地が有り今まだ元気で農業ができるので
- ・跡継ぎだから
- ・静かで安全。水や空気が良いから。
- ・緑あって移住してきたのでずっと住み続けたい
- ・生れ故郷であり先祖からの家を守るため

問 他に移りたい理由

(「できれば他に移り住みたい」「すぐにでも移り住みたい」の回答者のみ/複数回答)

	回答対象者	219名	回答対象者	259名
	回答数	回答者割合	H25回答数	H25回答者割合
家の老朽化や住宅がないから	17票	7.76%	19票	7.34%
地域のしきたりやつきあいが多いから	81票	36.99%	101票	39.00%
働く場所や仕事がないから	75票	34.25%	94票	36.29%
交通や買い物が不便だから	151票	68.95%	153票	59.07%
災害や安全面の不安があるから	55票	25.11%	33票	12.74%
医療や介護サービスに不安があるから	73票	33.33%	88票	33.98%
よりよい子育てや教育環境を求めて	20票	9.13%	30票	11.58%
よりよい生活環境を求めて	61票	27.85%	71票	27.41%
その他	28票	12.79%	35票	13.51%
無回答	18名	8.22%	3名	1.16%
合計	561票	---	627票	---



【その他の主な意見(抜粋)】

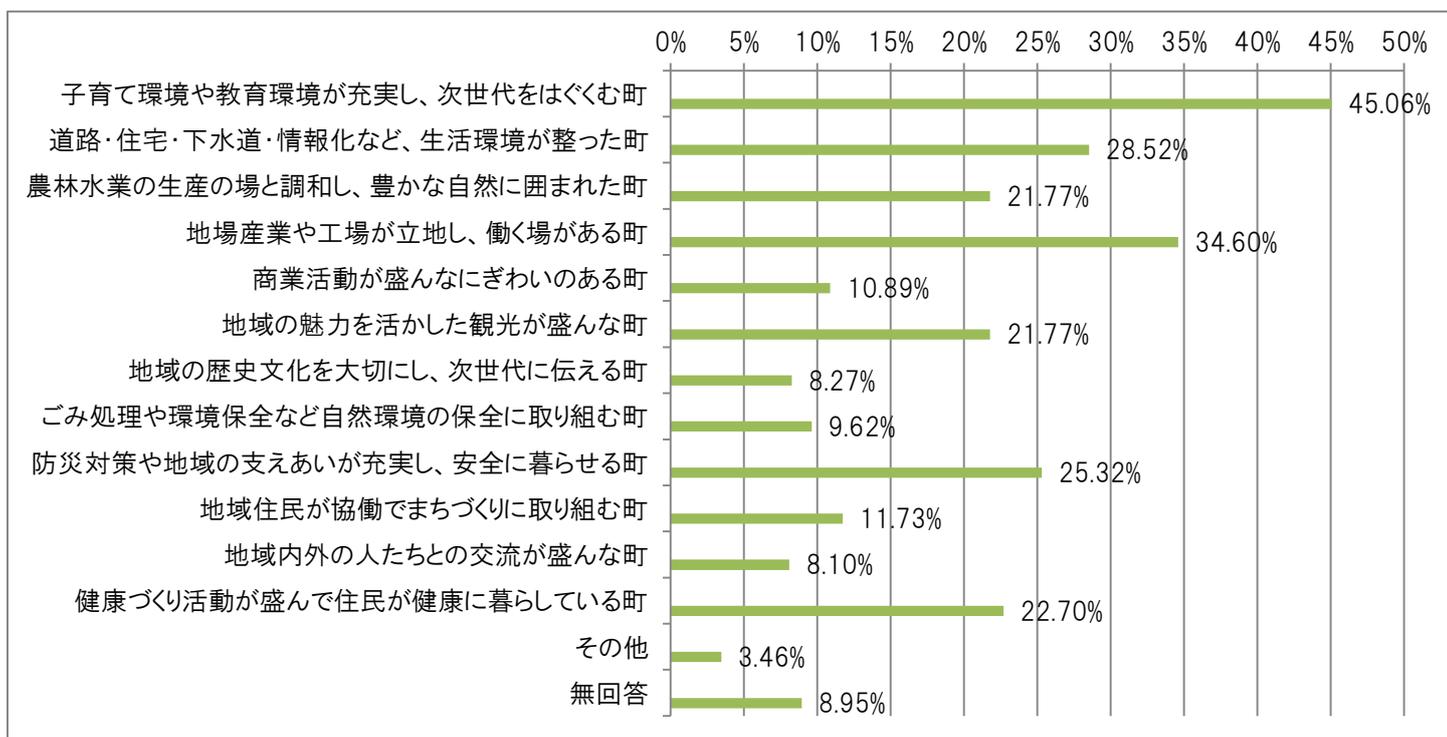
- ・税金が高い
- ・単身赴任
- ・老令になり不安
- ・有害鳥獣類の対策ができていない
- ・この町はお互いの人権を尊重し仲良く生活しようという気概に欠ける
- ・昔からのしきたりで地域にとけこめない。ひとりぼっちになる
- ・子どもが他市町村にいるから草刈り、草取りがいつまで出来るか分からない
- ・電車がないから。バスの本数が少ないから
- ・年を取るとつきあいができない
- ・地域の人間関係が良くない
- ・県外に住む親の介護のため
- ・上下水道が高い
- ・若者がいなく町自体に活気が無いので将来が不安で有る
- ・雪が降ると除雪が遅いため仕事、出勤出来ないため就職出来ない
- ・結婚後の生活
- ・自分が介護されるようになったら町内では無理だから元気なうちに移った方が良いかなと思う(施設)
- ・独身なのでそういう人のためにいろいろ考えてほしい。
- ・子ども達の生活が広島だから(仕事がないので帰れない)

イ 将来の安芸太田町の姿

「将来、安芸太田町がどのような町であってほしいと思いますか。」という質問に対して「子育て環境や教育環境が充実し、次世代をはぐくむ町」と回答した割合が最も高く、次いで、「地場産業や工場が立地し、働く場がある町」と回答した割合が高くなっている。

問 あなたは、将来、安芸太田町がどのような町であってほしいと思いますか。

選択番号	回答数	回答者割合
子育て環境や教育環境が充実し、次世代をはぐくむ町	534 票	45.06%
道路・住宅・下水道・情報化など、生活環境が整った町	338 票	28.52%
農林水業の生産の場と調和し、豊かな自然に囲まれた町	258 票	21.77%
地場産業や工場が立地し、働く場がある町	410 票	34.60%
商業活動が盛んなにぎわいのある町	129 票	10.89%
地域の魅力を活かした観光が盛んな町	258 票	21.77%
地域の歴史文化を大切に、次世代に伝える町	98 票	8.27%
ごみ処理や環境保全など自然環境の保全に取り組む町	114 票	9.62%
防災対策や地域の支えあいが充実し、安全に暮らせる町	300 票	25.32%
地域住民が協働でまちづくりに取り組む町	139 票	11.73%
地域内外の人たちとの交流が盛んな町	96 票	8.10%
健康づくり活動が盛んで住民が健康に暮らしている町	269 票	22.70%
その他	41 票	3.46%
無回答	106 名	8.95%
回答票合計	2,984 票	---



ウ 安芸太田町で進めている施策の今後の重要度

安芸太田町で進めている施策の今後の重要度スコアでは、「医療・福祉・介護」に関する施策に次いで、「災害対策の取組み」に関する施策が高くなっている。また、「少子化対策・子育て支援対策」に関する施策も上位になっている。

■H25 重要度スコア（順位）

【全体】

順位	項目	重要度スコア
1	(9) ② 安芸太田町病院事業の充実	8.10
2	(9) ① 町内医療体制の充実	8.07
3	(9) ③ 医療機関・福祉介護施設・保健事業の連携	7.92
4	(1) ④ 企業立地・雇用対策の取組み	7.88
5	(2) ⑤ 救急・消防体制の現状	7.77
6	(11) ③ 行政借金残高の減少への取組み	7.73
7	(10) ④ 少子化対策・子育て支援対策の取組み	7.68
8	(3) ⑧ 利便性の高い公共交通の整備	7.64
9	(11) ① 行政改革への取組み	7.62
10	(2) ④ 避難環境の充実	7.59
11	(2) ② 災害対策の取組み（情報発信・対策本部体制等）	7.47
12	(2) ① 災害対策の取組み（砂防等公共事業）	7.44
13	(8) ⑤ 在宅介護を支えるサービスの取組み	7.38
14	(8) ② 乳幼児支援の取組み	7.37
15	(6) ③ 就労・通勤の支援	7.29
16	(10) ③ 小中学校教育支援の取組み（②以外授業など）	7.22
17	(8) ① 高齢者支援の取組み	7.21
18	(10) ② 小中学校教育支援の取組み（施設整備など）	7.16
19	(10) ① 幼児教育支援の取組み	7.03
20	(2) ③ 協働・共助の地域防災体制の取組み	6.95
21	(10) ⑤ 高校教育に対する支援の取組み	6.91
22	(1) ① 農林水産業振興の取組み	6.89
23	(8) ④ 障がい者支援の取組み	6.87
24	(3) ② 道路・橋・河川護岸等の維持管理	6.83
25	(1) ② 商工業活性化の取組み	6.80
26	(11) ⑤ 行政機関の窓口サービス	6.75
27	(2) ⑥ 交通安全・防犯・消費者行政などの取組み	6.73
28	(8) ⑥ 健康診断など保健サービスの取組み	6.64
29	(11) ② 町有施設・町関係団体のあり方等の効果・検証	6.59
30	(1) ③ 観光振興の取組み	6.58
31	(6) ② 若者の定住団地・住宅の整備	6.56
32	(3) ① 道路・橋・河川護岸等の整備	6.47
33	(8) ③ 小・中・高生に対する医療支援の取組み	6.44
34	(1) ⑤ 起業支援の取組み	6.39
35	(3) ④ 上下水道の整備・維持管理	6.38
36	(11) ④ 広報や情報公開への取組み	6.24
37	(4) ④ 有害鳥獣対策の取組み	6.14
38	(4) ① 自然環境の保全	6.10
39	(4) ③ 自然エネルギーの活用	6.09
40	(5) ① 生涯学習・人材育成の取組み	5.79
41	(4) ② 里山の景観整備	5.77
42	(3) ⑥ ごみ処理・し尿処理・火葬場の整備	5.65
43	(3) ③ 計画的な土地利用による住環境の整備	5.61
44	(3) ⑦ 情報通信網（光ファイバー、携帯電話）の整備	5.60
45	(6) ① 住宅の新築・改修に対する支援	5.29
46	(7) ② 地域コミュニティ活動の取組み	5.21
47	(7) ① 町民参画や協働のまちづくりの取組み	5.08
48	(3) ⑤ 空き家の老朽化対策の取組み	4.86
49	(5) ③ 歴史文化の振興・伝統芸能の伝承への取組み	4.86
50	(5) ⑤ 人権教育・人権啓発活動の取組み	4.65
51	(5) ② 社会教育施設・図書館の充実	4.36
52	(7) ③ 男女共同参画やDV対策の取組み	4.22
53	(5) ④ スポーツ振興への取組み	4.05

■H30 重要度スコア（順位）

【全体】

順位	順位差	項目	重要度スコア
1	↑ 1	(9) ① 町内医療体制の充実	8.16
2	↑ 10	(2) ① 災害対策の取組み（砂防等公共事業）	8.07
3	↓ -2	(9) ② 安芸太田町病院事業の充実	8.01
4	↑ 7	(2) ② 災害対策の取組み（情報発信・対策本部体制等）	7.99
5	↑ 5	(2) ④ 避難環境の充実	7.90
6	↓ -3	(9) ③ 医療機関・福祉介護施設・保健事業の連携	7.84
7	↓ -2	(2) ⑤ 救急・消防体制の現状	7.72
8	↑ 5	(8) ⑤ 在宅介護を支えるサービスの取組み	7.66
9	↓ -2	(10) ④ 少子化対策・子育て支援対策の取組み	7.63
10	↑ 4	(8) ② 乳幼児支援の取組み	7.58
11	↓ -2	(11) ① 行政改革への取組み	7.52
12	↓ -4	(3) ⑧ 利便性の高い公共交通の整備	7.47
13	↓ -9	(1) ④ 企業立地・雇用対策の取組み	7.43
14	↑ 3	(8) ① 高齢者支援の取組み	7.43
15	↓ -9	(11) ③ 行政借金残高の減少への取組み	7.41
16	↑ 8	(3) ② 道路・橋・河川護岸等の維持管理	7.38
17	↓ -1	(10) ③ 小中学校教育支援の取組み（②以外授業など）	7.24
18	↑ 1	(10) ① 幼児教育支援の取組み	7.18
19	↑ 13	(3) ① 道路・橋・河川護岸等の整備	7.15
20	↑ 3	(8) ④ 障がい者支援の取組み	7.14
21	↓ -1	(2) ③ 協働・共助の地域防災体制の取組み	7.14
22	↓ -7	(6) ③ 就労・通勤の支援	7.11
23	↓ -2	(10) ⑤ 高校教育に対する支援の取組み	7.04
24	↓ -6	(10) ② 小中学校教育支援の取組み（施設整備など）	6.97
25	↑ 8	(8) ③ 小・中・高生に対する医療支援の取組み	6.93
26	↑ 11	(4) ④ 有害鳥獣対策の取組み	6.92
27	↑ 1	(8) ⑥ 健康診断など保健サービスの取組み	6.92
28	↑ 7	(3) ④ 上下水道の整備・維持管理	6.83
29	→ 0	(11) ② 町有施設・町関係団体のあり方等の効果・検証	6.78
30	↓ -4	(11) ⑤ 行政機関の窓口サービス	6.67
31	↓ -4	(2) ⑥ 交通安全・防犯・消費者行政などの取組み	6.63
32	↓ -10	(1) ① 農林水産業振興の取組み	6.62
33	↓ -8	(1) ② 商工業活性化の取組み	6.55
34	↓ -3	(6) ② 若者の定住団地・住宅の整備	6.55
35	↓ -5	(1) ③ 観光振興の取組み	6.40
36	↑ 2	(4) ① 自然環境の保全	6.37
37	↑ 11	(3) ⑤ 空き家の老朽化対策の取組み	6.37
38	↓ -2	(11) ④ 広報や情報公開への取組み	6.23
39	↓ -5	(1) ⑤ 起業支援の取組み	6.23
40	↑ 3	(3) ③ 計画的な土地利用による住環境の整備	6.07
41	→ 0	(4) ② 里山の景観整備	5.95
42	→ 0	(3) ⑥ ごみ処理・し尿処理・火葬場の整備	5.95
43	↑ 2	(6) ① 住宅の新築・改修に対する支援	5.72
44	↓ -4	(5) ① 生涯学習・人材育成の取組み	5.50
45	↑ 1	(7) ② 地域コミュニティ活動の取組み	5.36
46	↑ 1	(7) ① 町民参画や協働のまちづくりの取組み	5.32
47	↓ -3	(3) ⑦ 情報通信網（光ファイバー、携帯電話）の整備	5.11
48	↓ -9	(4) ③ 自然エネルギーの活用	5.02
49	↑ 3	(7) ③ 男女共同参画やDV対策の取組み	4.77
50	↓ -1	(5) ③ 歴史文化の振興・伝統芸能の伝承への取組み	4.73
51	→ 0	(5) ② 社会教育施設・図書館の充実	4.39
52	↓ -2	(5) ⑤ 人権教育・人権啓発活動の取組み	4.23
53	→ 0	(5) ④ スポーツ振興への取組み	4.13

エ 「安芸太田町まちづくりに関するアンケート調査」から住みたい町への期待

現在、安芸太田町在住者は、将来も安芸太田町に住み続けたいと考えている人が75%以上を占めており、将来の町の姿として、「子育て環境や教育環境が充実している町」「就労の場が確保されている町」を望んでいる。

町の施策についても、「医療、福祉、介護の取組」に次いで、「子育て環境の充実への取組」「就労の場確保」への重要度は高い。また5年前と比較して「災害対策の取組み」は重要度スコアが大幅に高くなり、施策の優先度はあがっている。

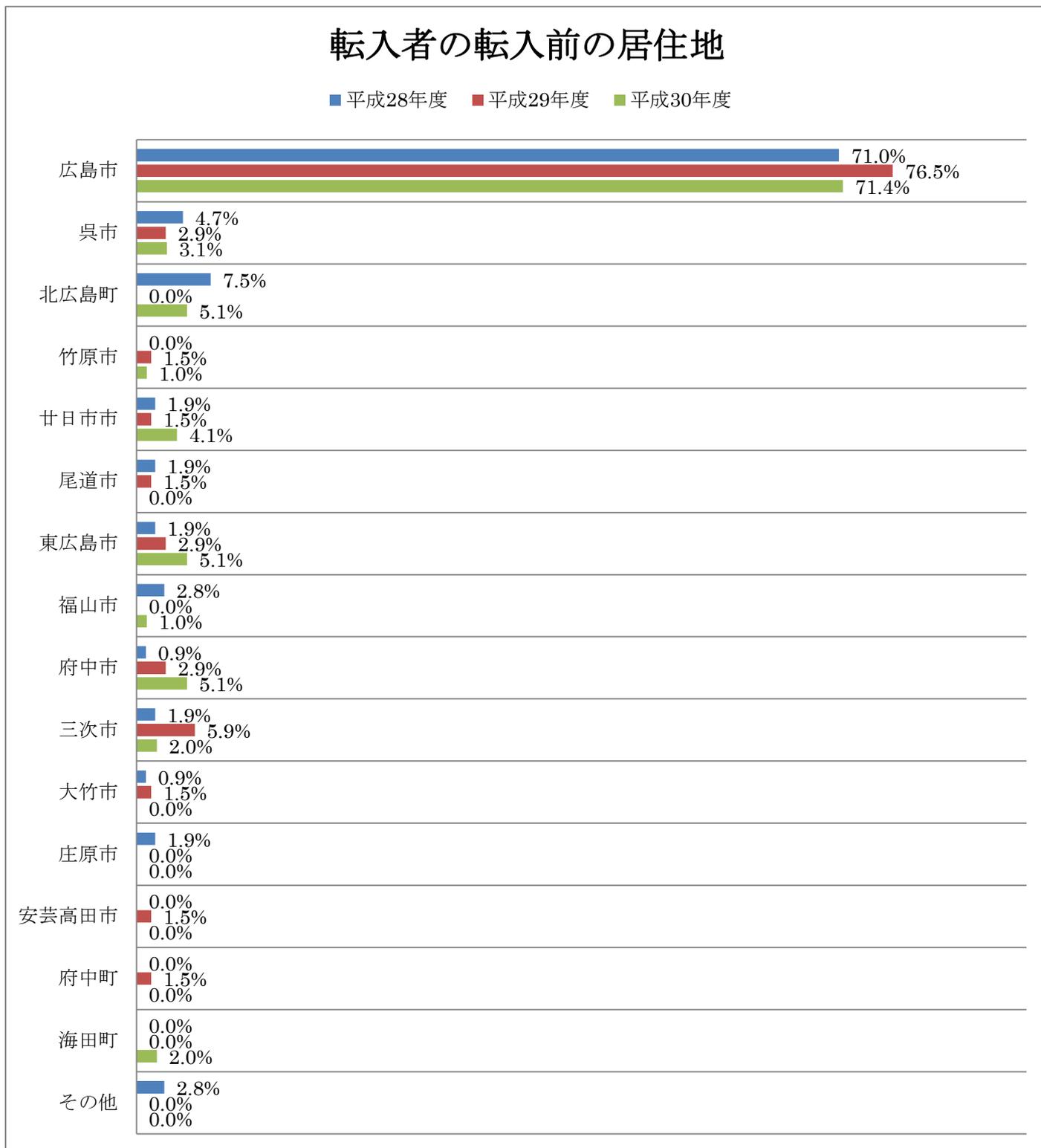
(2) 「人口移動（転入・転出）」に関するアンケート調査の傾向

- ◇ 調査名： 安芸太田町人口移動に関するアンケート調査
- ◇ 調査対象： 県内からの転入・転出届出者（窓口による任意調査）
- ◇ 調査時期： 平成 28 年度～平成 30 年度

ア 県内からの転入者の傾向

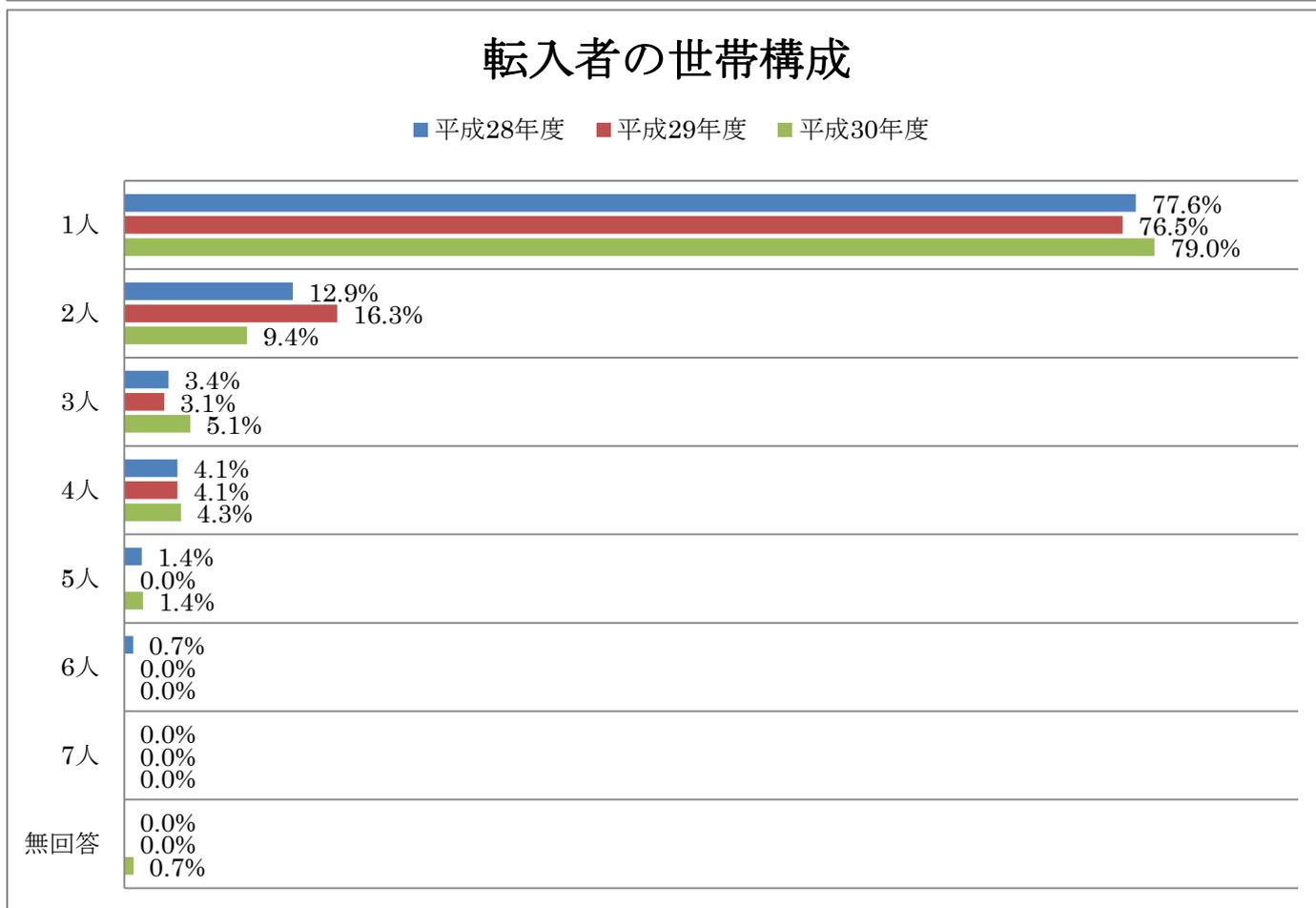
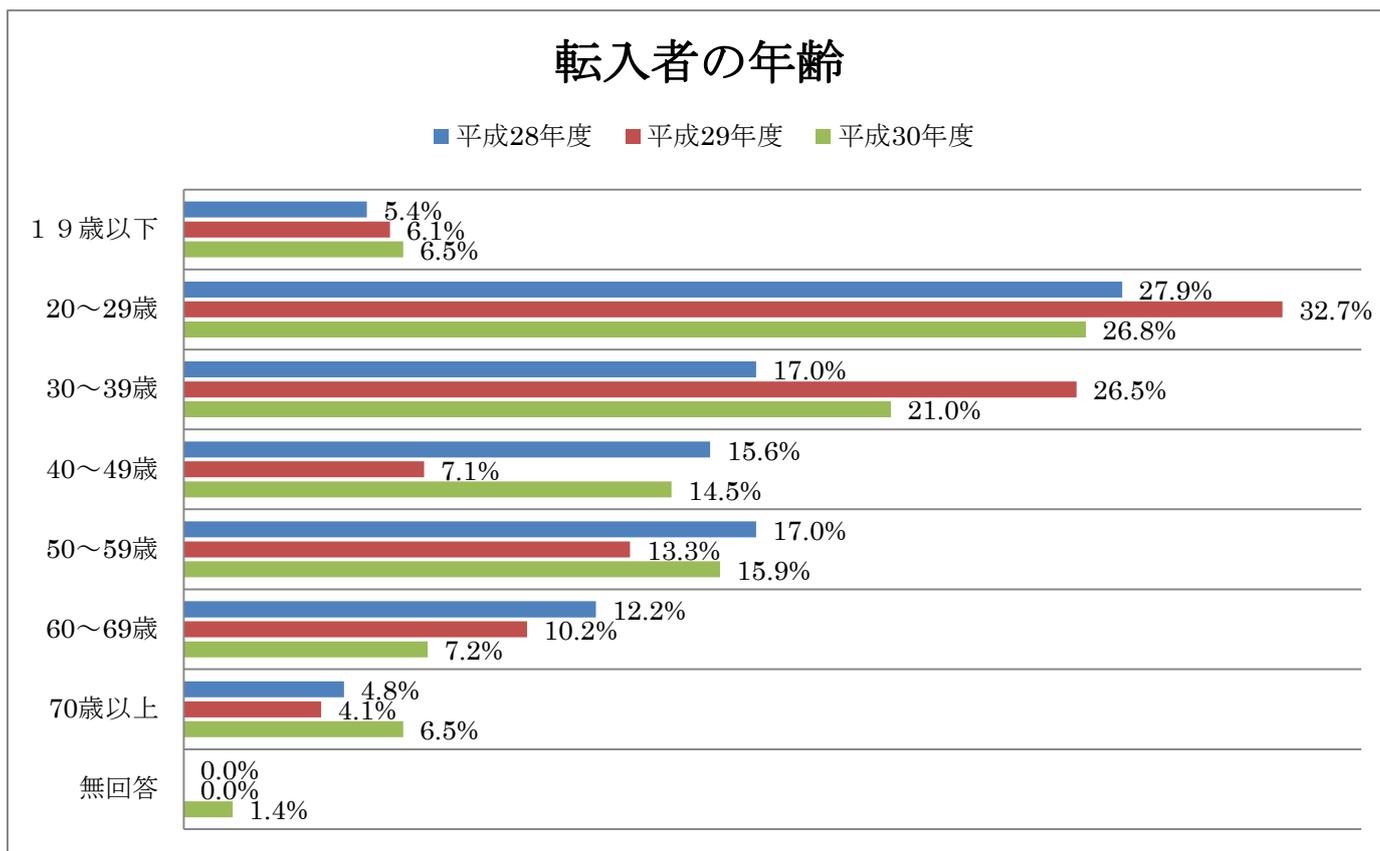
問： 転入前の居住地

転入者は、約 7 割が広島市からとなっている。



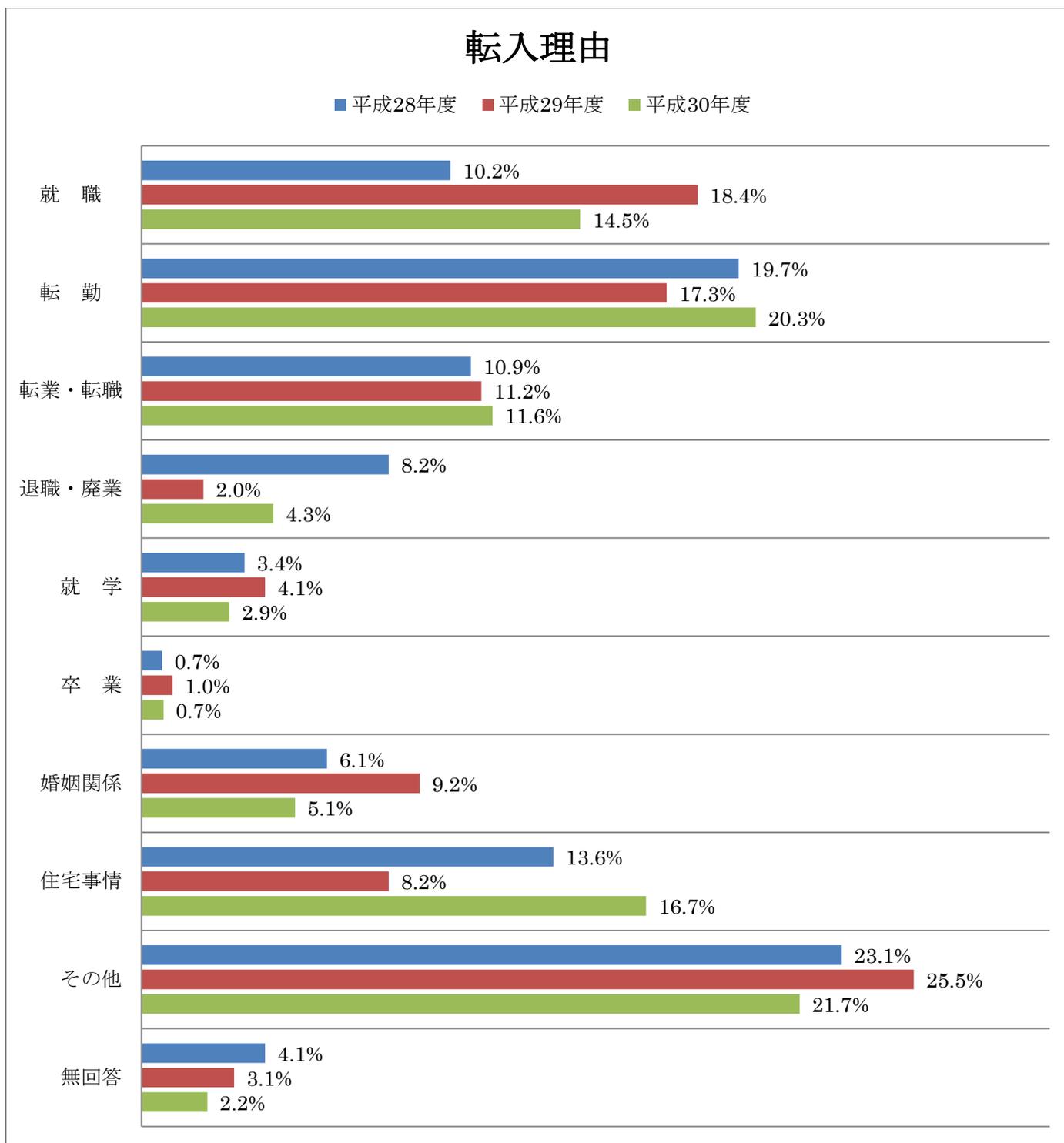
問： 転入者の年齢・世帯構成

転入者の約5割～6割が20～39歳の若い世代となっている。また1人世帯が7割を占める。



問： 転入の理由

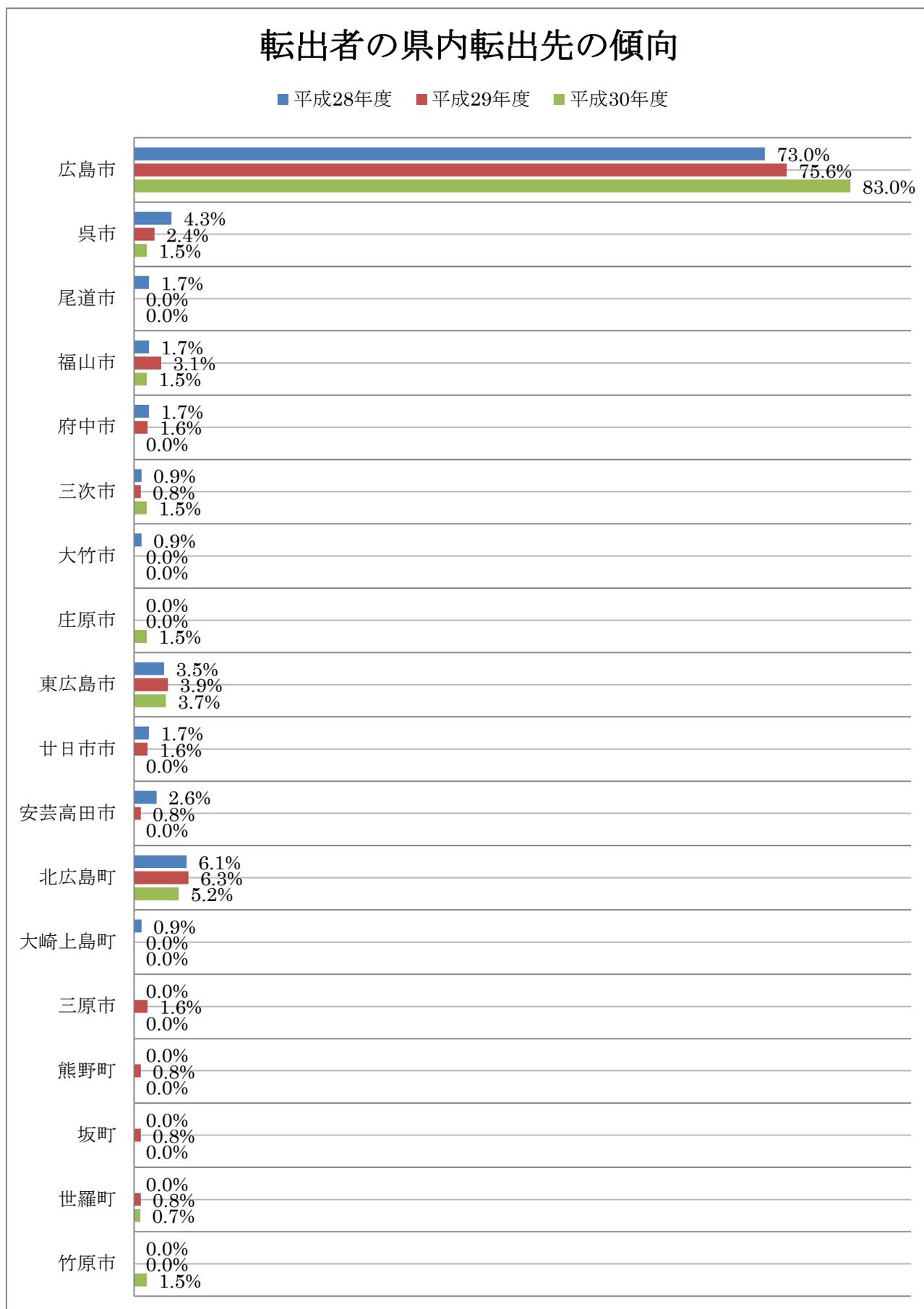
転入の理由は、「転勤」、「就職」、「転業・転職」といった就労に関する割合が4割を超えており、次いで「住宅事情」が16.7%となっている。



イ 県内への転出者の傾向

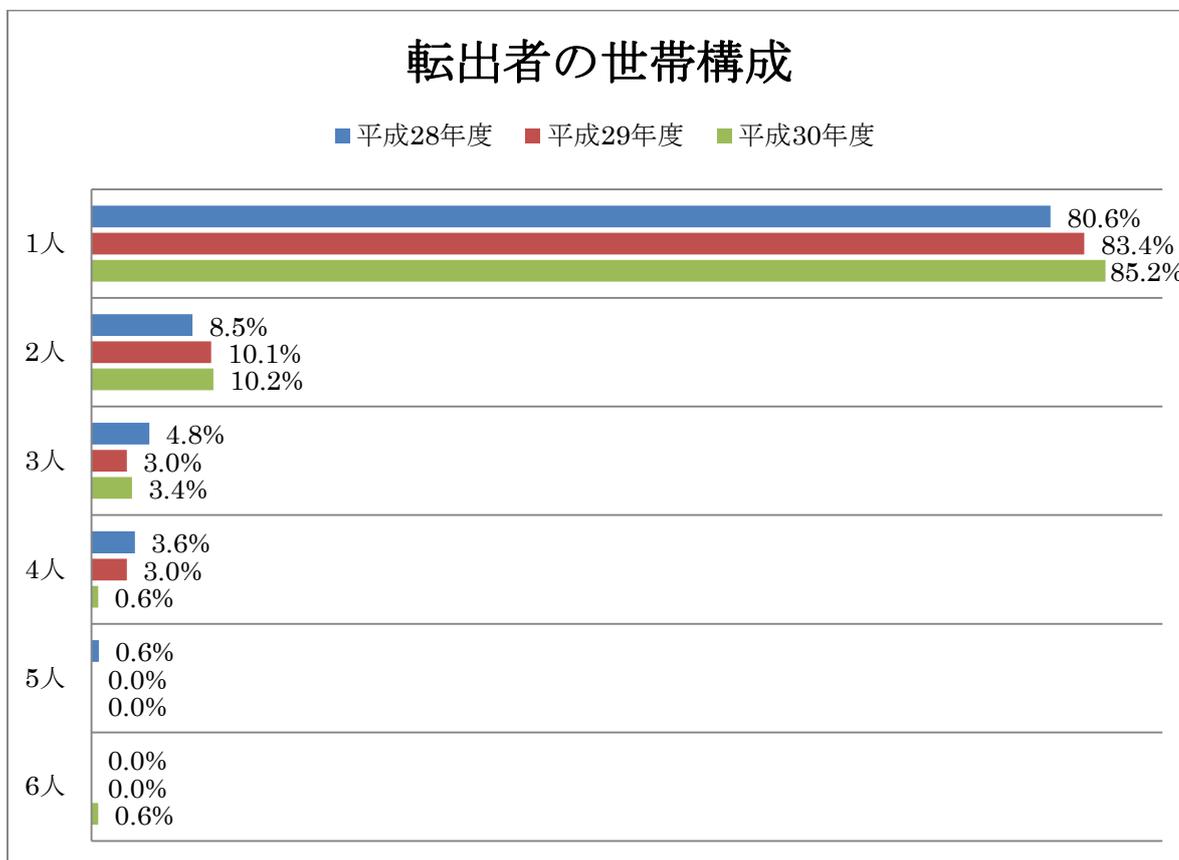
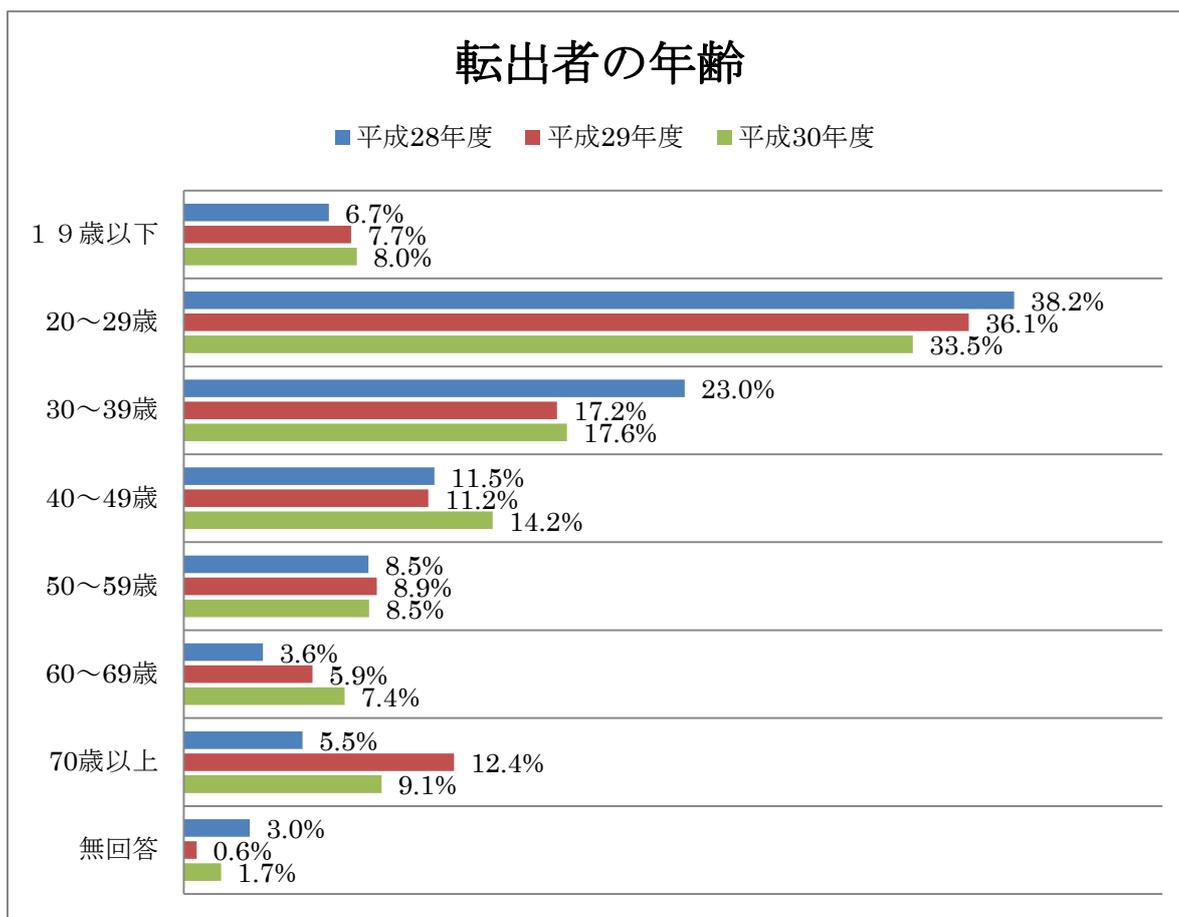
問： 転出先

転出者の転出先は、広島市が8割近くを占めている。



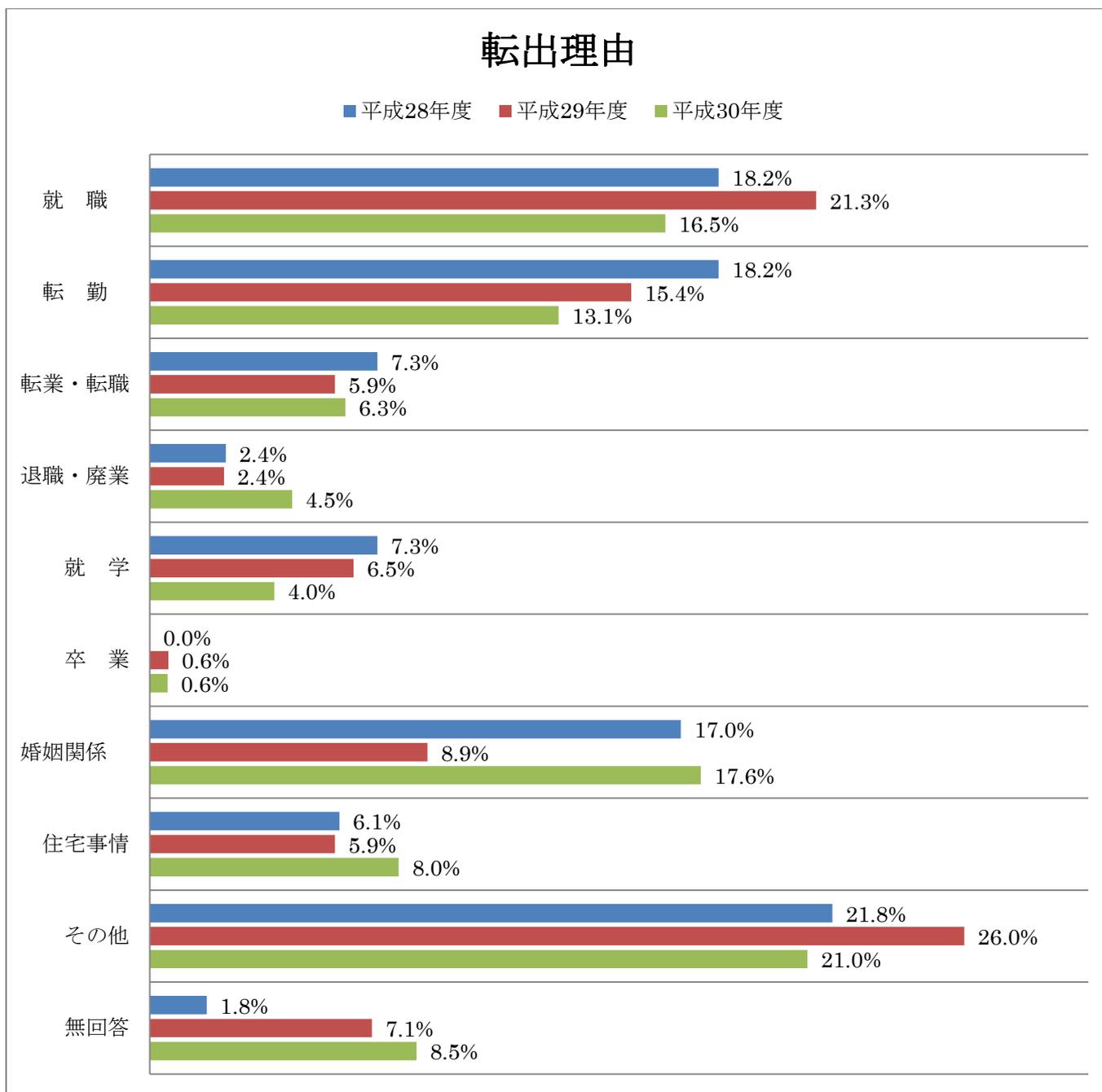
問： 転出者の年齢・世帯構成

転出者の6割以上が、20～39歳の若い世代となっている。また1人世帯が8割以上を占めている。



問： 転出の理由

転出の理由は、「転勤」、「就職」、「転業・転職」、「退職・廃業」といった就労に関する割合が4割を超えている。



ウ 転入・転出の傾向

転入・転出ともに、20～39歳の若い世代が就労に関する理由で、広島市から転入または広島市へ転出している。

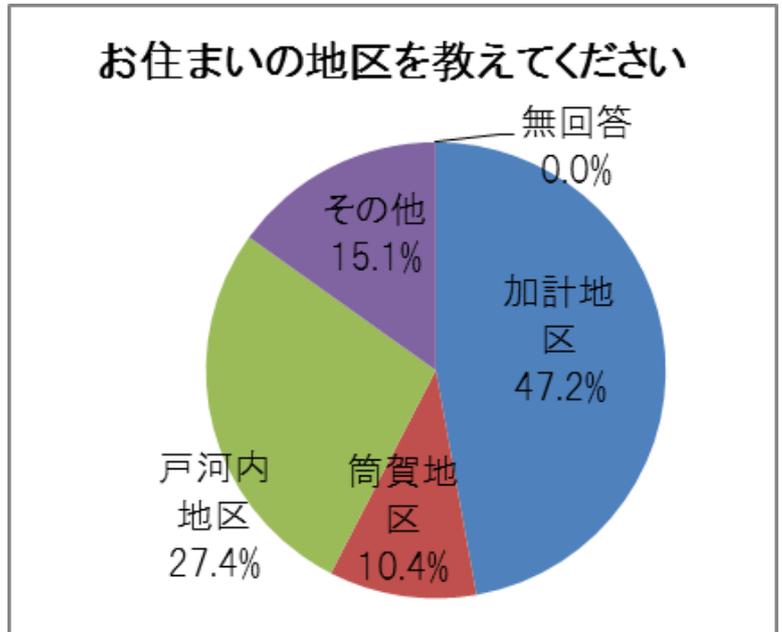
(3) 「安芸太田町まちづくりアンケート調査 (16～18 歳)」の結果

- ◇調査対象：広島県立加計高等学校生徒、町内在住他校生徒
- ◇調査期間：令和元年7月（加計高校および町内在住他校生徒）
- ◇配布数：高校生153（加計高校100、町内在住他校生53）
- ◇調査方法：①加計高生（直接配布、回収）
②加計高生以外の高校生（無作為抽出し郵送による配布、回収）
- ◇回答率：69.28%（加計高校生徒：88.0%，その他高校生徒：35.8%）

ア 調査の結果

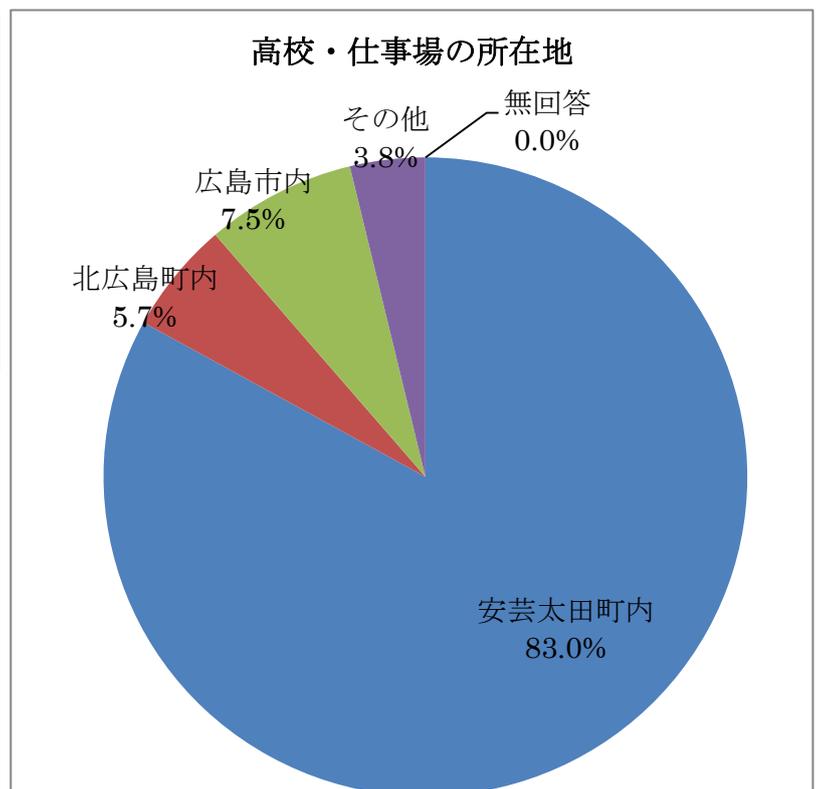
お住まいの地区を教えてください。

居住歴	合計	
	回答数	割合
加計地区	50	47.2%
筒賀地区	11	10.4%
戸河内地区	29	27.4%
その他	16	15.1%
無回答	0	0.00%
合計	106	---



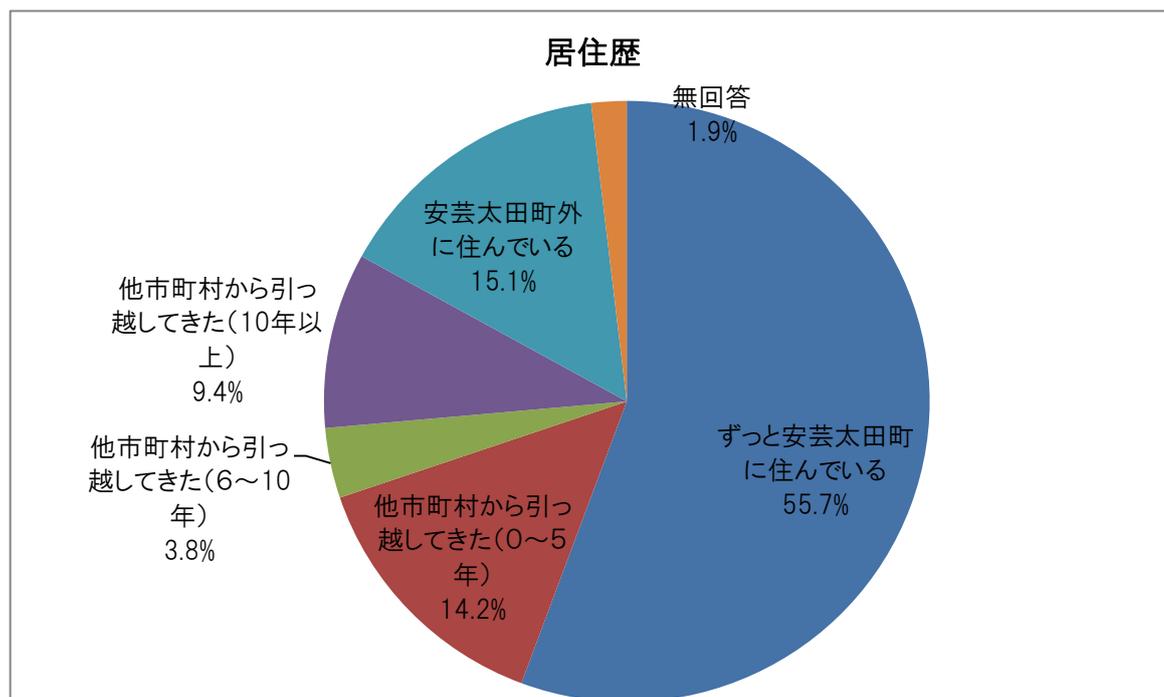
(加計高生以外) 現在在学・勤務している
高校・仕事場の所在地を教えてください。

16～18 歳	回答数	割合
安芸太田町内	88 名	83.02%
北広島町内	6 名	5.66%
広島市内	8 名	7.55%
その他	4 名	3.77%
無回答	0 名	0.00%
合計	106 名	---



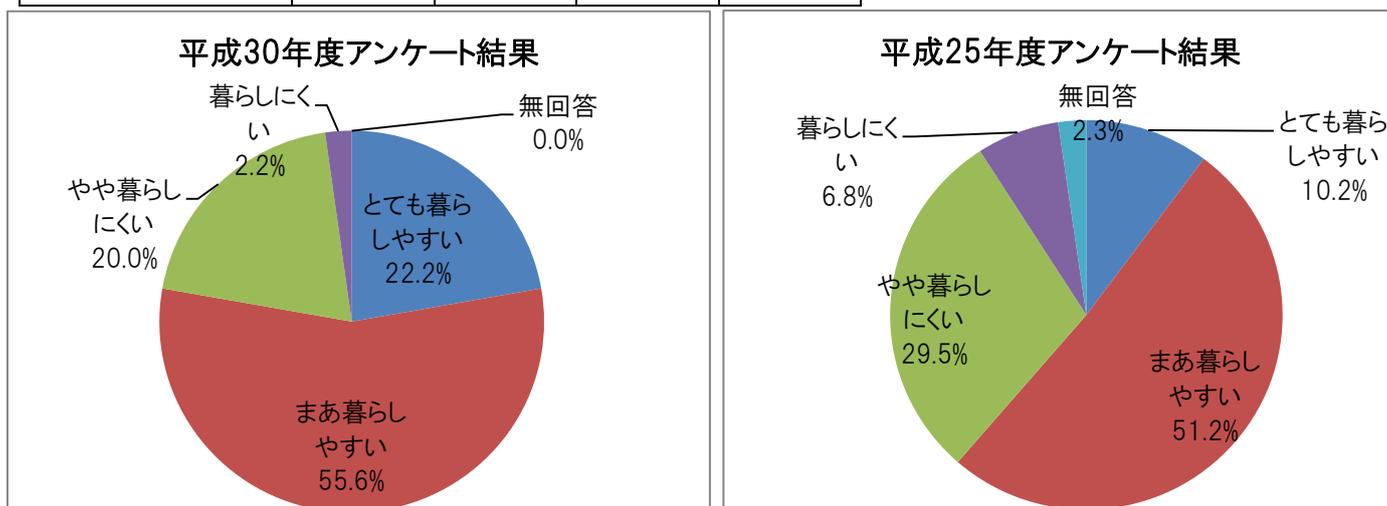
安芸太田町での居住歴を教えてください。

居住歴	合 計	
	回答数	割 合
ずっと安芸太田町に住んでいる	59	55.7%
他市町村から引っ越してきた(0~5年)	15	14.2%
他市町村から引っ越してきた(6~10年)	4	3.8%
他市町村から引っ越してきた(10年以上)	10	9.4%
安芸太田町外に住んでいる	16	15.1%
無回答	2	1.9%
合 計	106	---



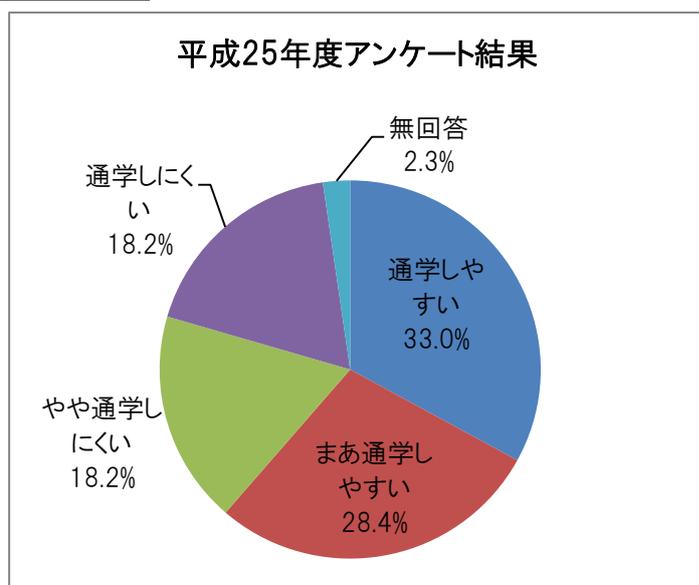
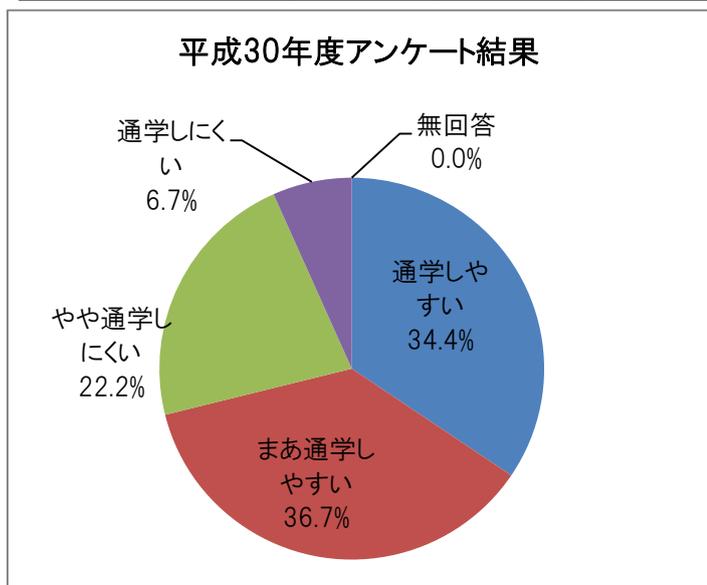
安芸太田町は暮らしやすいですか。

回答対象者:90名	合 計		H25	H25
	回答数	割 合	回答数	割 合
とても暮らしやすい	20	22.2%	9	10.2%
まあ暮らしやすい	50	55.6%	45	51.2%
やや暮らしにくい	18	20.0%	26	29.5%
暮らしにくい	2	2.2%	6	6.8%
無回答	0	0.0%	2	2.3%
合 計	90	---	88	---



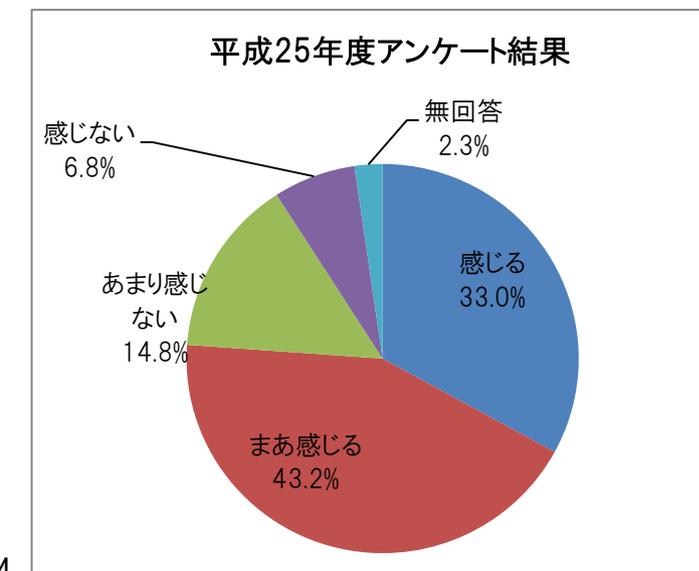
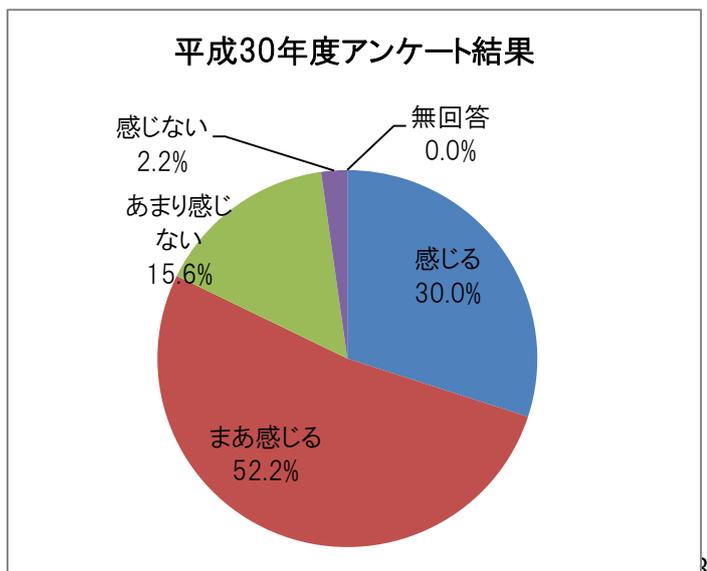
学校へは通学しやすいですか。

回答対象者:90名	合計		H25 回答数	H25 割合
	回答数	割合		
通学しやすい	31	34.4%	29	33.0%
まあ通学しやすい	33	36.7%	25	28.4%
やや通学しにくい	20	22.2%	16	18.2%
通学しにくい	6	6.7%	16	18.2%
無回答	0	0.0%	2	2.3%
合計	90	---	88	---



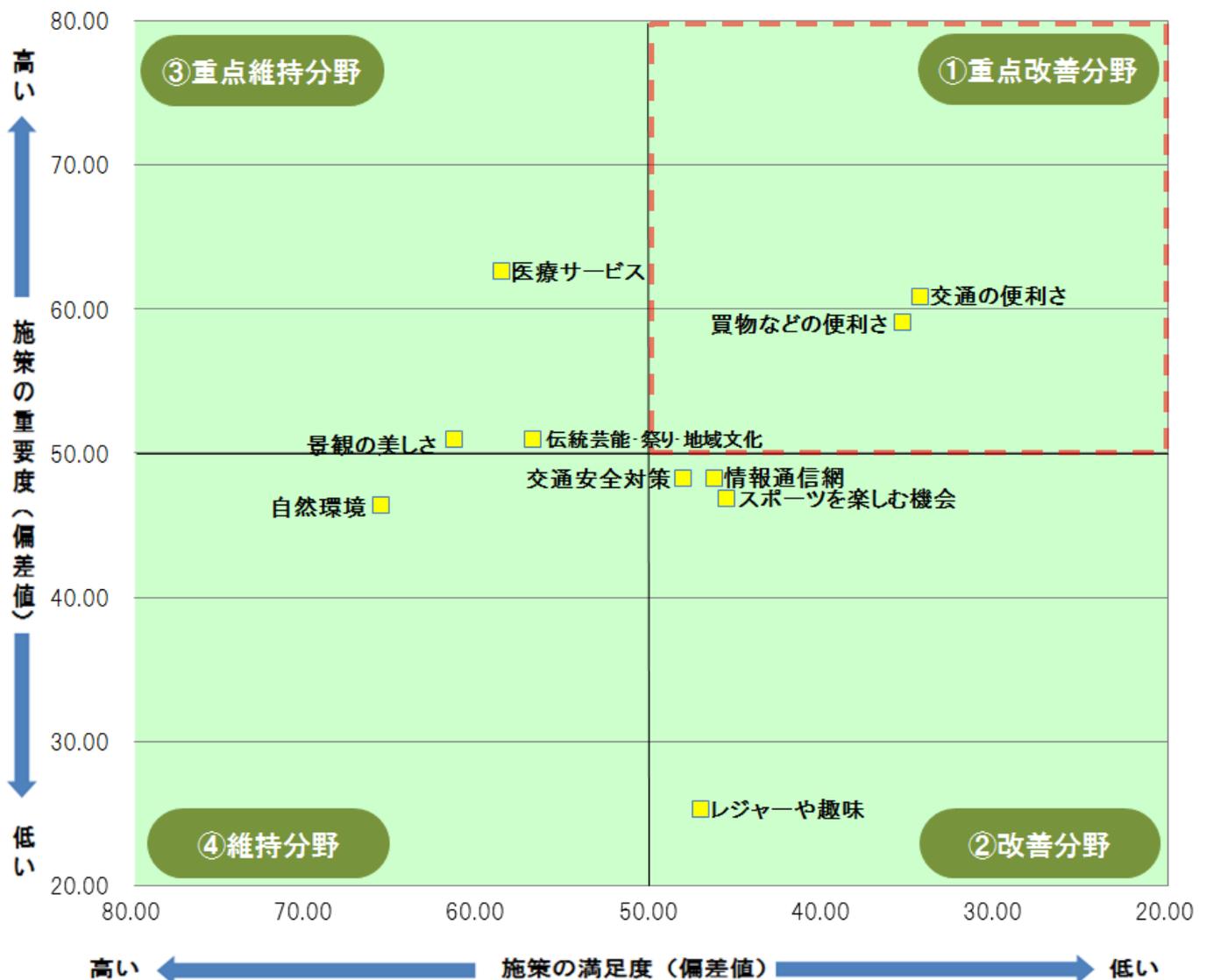
安芸太田町に誇りや愛着を感じますか。

回答対象者:90名	合計		H25 回答数	H25 割合
	回答数	割合		
感じる	27	30.0%	29	33.0%
まあ感じる	47	52.2%	38	43.2%
あまり感じない	14	15.6%	13	14.8%
感じない	2	2.2%	6	6.8%
無回答	0	0.0%	2	2.3%
合計	90	---	88	---



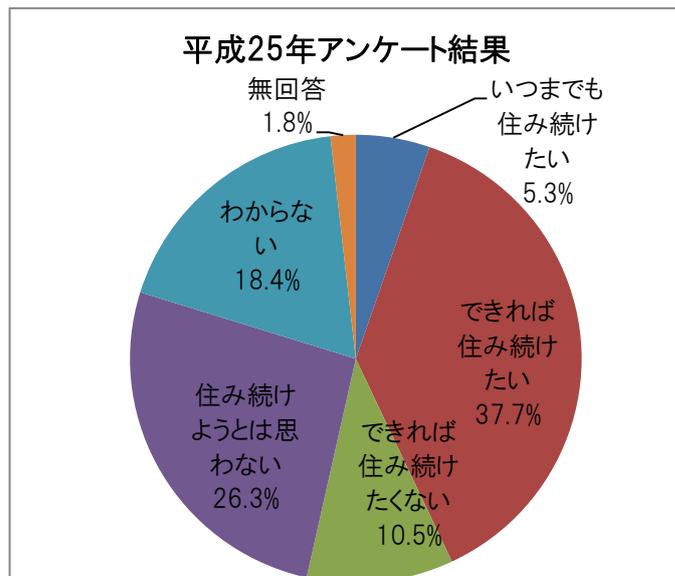
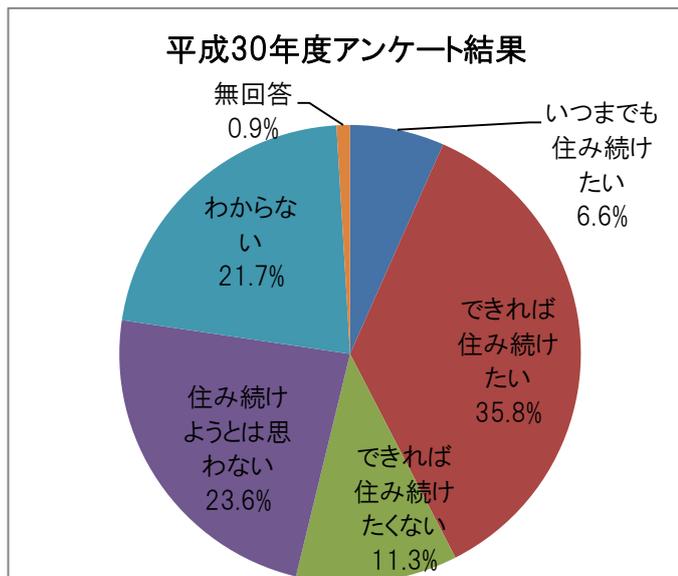
◆改善要求度（ニーズ値） 順位別比較

順位	項目名	改善要求度
1	(5)バスなど交通の便利さ	16.89
2	(4)日常の買い物などの便利さ	14.69
3	(3)病院などの医療サービス	1.79
4	(7)情報通信網の整備(光ファイバーの整備、携帯電話受信エリアの拡大等)	0.88
5	(9)学校以外でスポーツを楽しむ機会	0.57
6	(6)道路・歩道などの交通安全対策	0.05
7	(8)伝統芸能、祭りなどの地域文化	-2.87
8	(2)山や農村風景、町並みなど景観の美しさ	-5.11
9	(1)山や森林、川などの自然環境とのふれあい	-10.29
10	(10)レジャーや趣味を楽しむ場所や機会	-10.61



安芸太田町に住み続けたいと思いますか。

回答対象者:106名	合 計		H25	H25
	回答数	割 合	回答数	割 合
いつまでも住み続けたい	7	6.6%	6	5.3%
できれば住み続けたい	38	35.8%	43	37.7%
できれば住み続けたくない	12	11.3%	12	10.5%
住み続けようとは思わない	25	23.6%	30	26.3%
わからない	23	21.7%	21	18.4%
無回答	1	0.9%	2	1.8%
合 計	106	---	114	---

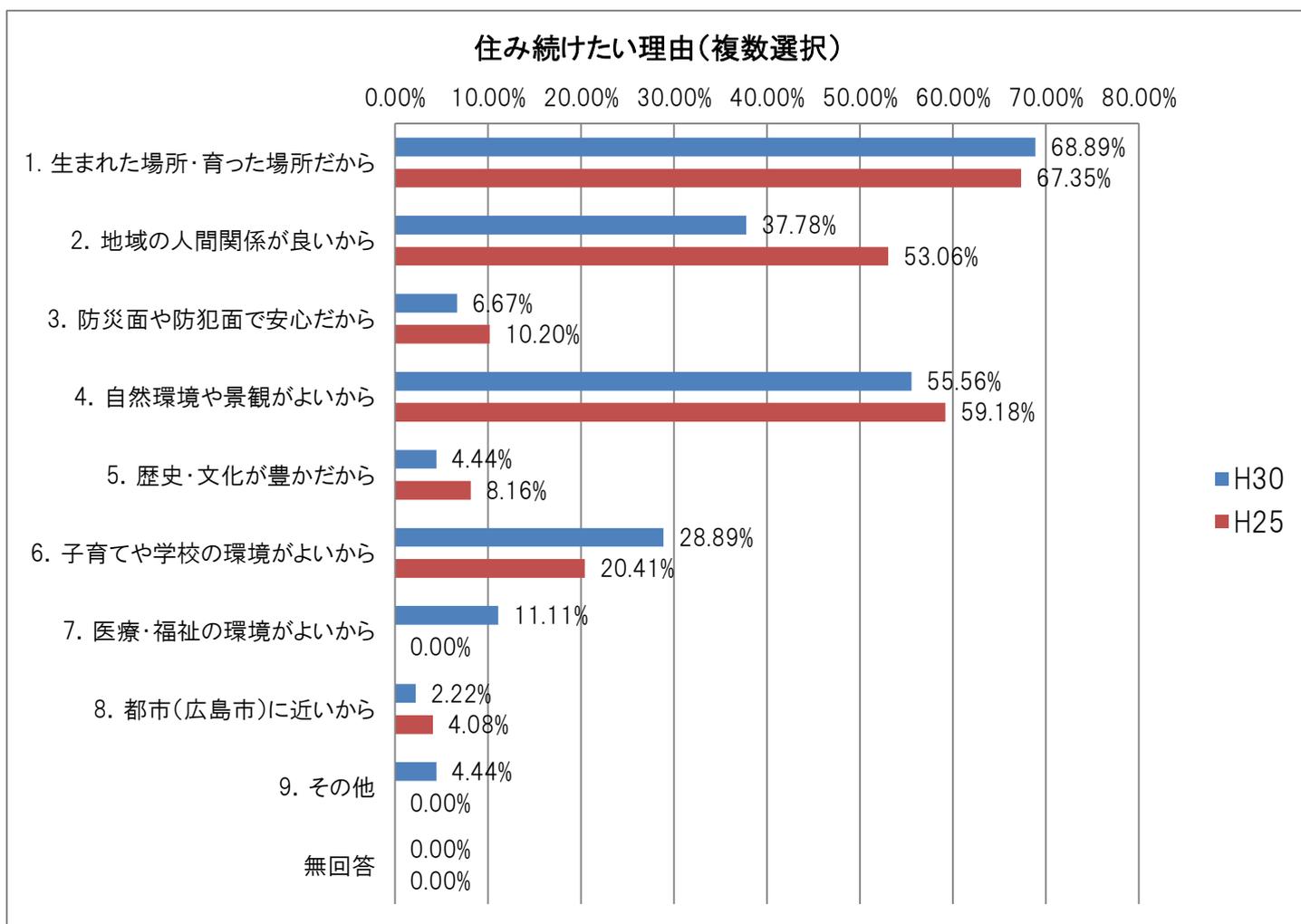


【その他の意見】

・安芸太田町で仕事がしたいから。

住み続けたい理由。 あてはまると思われるものに3つ以内で○をつけてください。

住み続けたい理由	回答対象者	45名	H25 回答対象者	49名
	回答数	回答者 割合	H25回答数	H25回答者 割合
1. 生まれた場所・育った場所だから	31	68.89%	33	67.35%
2. 地域の間人間関係が良いから	17	37.78%	26	53.06%
3. 防災面や防犯面で安心だから	3	6.67%	5	10.20%
4. 自然環境や景観がよいから	25	55.56%	29	59.18%
5. 歴史・文化が豊かだから	2	4.44%	4	8.16%
6. 子育てや学校の環境がよいから	13	28.89%	10	20.41%
7. 医療・福祉の環境がよいから	5	11.11%	0	0.00%
8. 都市(広島市)に近いから	1	2.22%	2	4.08%
9. その他	2	4.44%	0	0.00%
無回答	0	0.00%	0	0.00%
合計	99	---	109	---

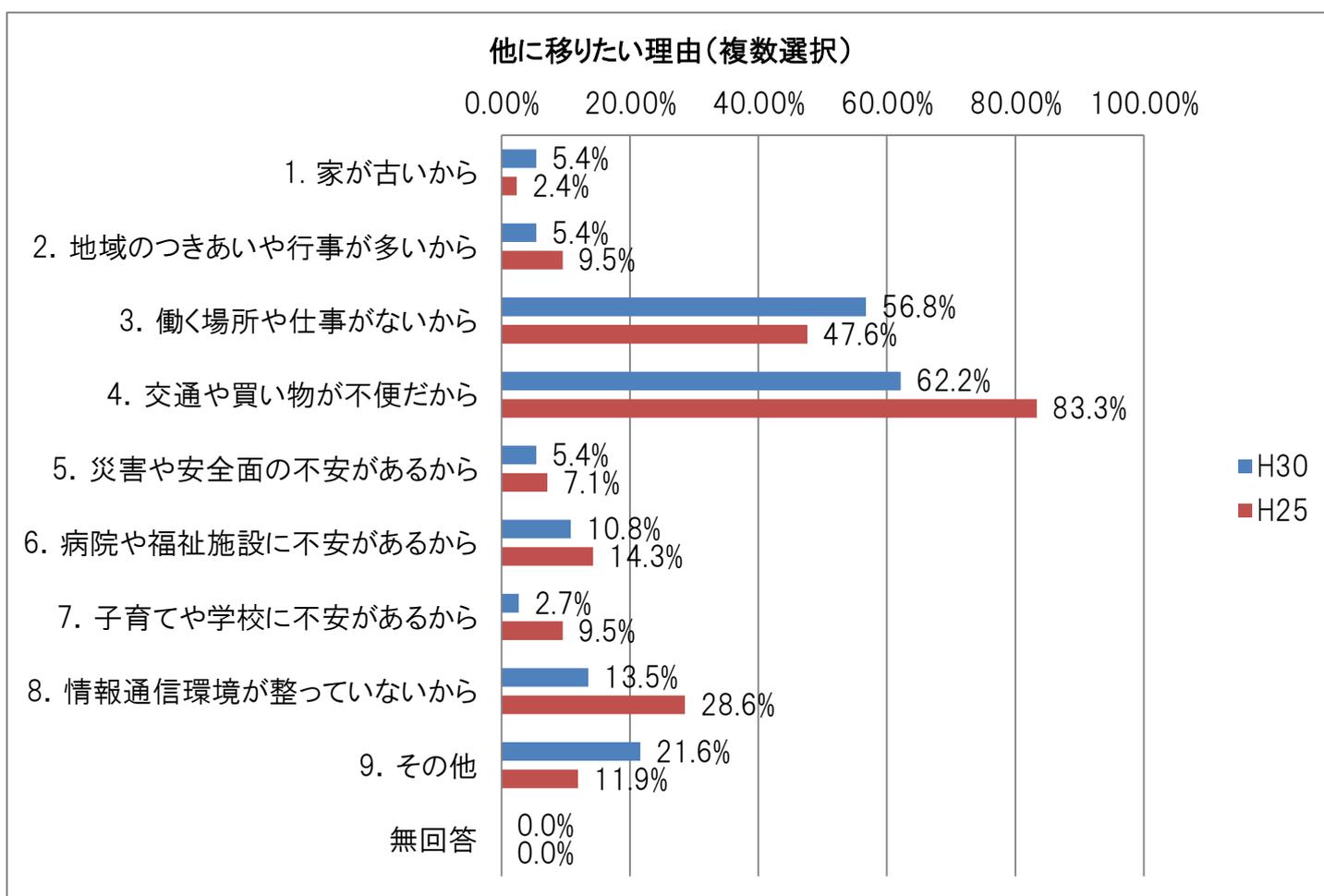


【その他の意見】

- ・安芸太田町で仕事がしたいから。
- ・田舎が良い

他に移りたい理由。 あてはまると思われるものに3つ以内で○をつけてください。

他に移りたい理由	回答対象者	37名	H25 回答対象者	42名
	回答数	回答者 割合	H25回答数	H25回答者 割合
1. 家が古いから	2	5.4%	1	2.4%
2. 地域のつきあいや行事が多いから	2	5.4%	4	9.5%
3. 働く場所や仕事がないから	21	56.8%	20	47.6%
4. 交通や買い物が不便だから	23	62.2%	35	83.3%
5. 災害や安全面の不安があるから	2	5.4%	3	7.1%
6. 病院や福祉施設に不安があるから	4	10.8%	6	14.3%
7. 子育てや学校に不安があるから	1	2.7%	4	9.5%
8. 情報通信環境が整っていないから	5	13.5%	12	28.6%
9. その他	8	21.6%	5	11.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	68	---	90	---

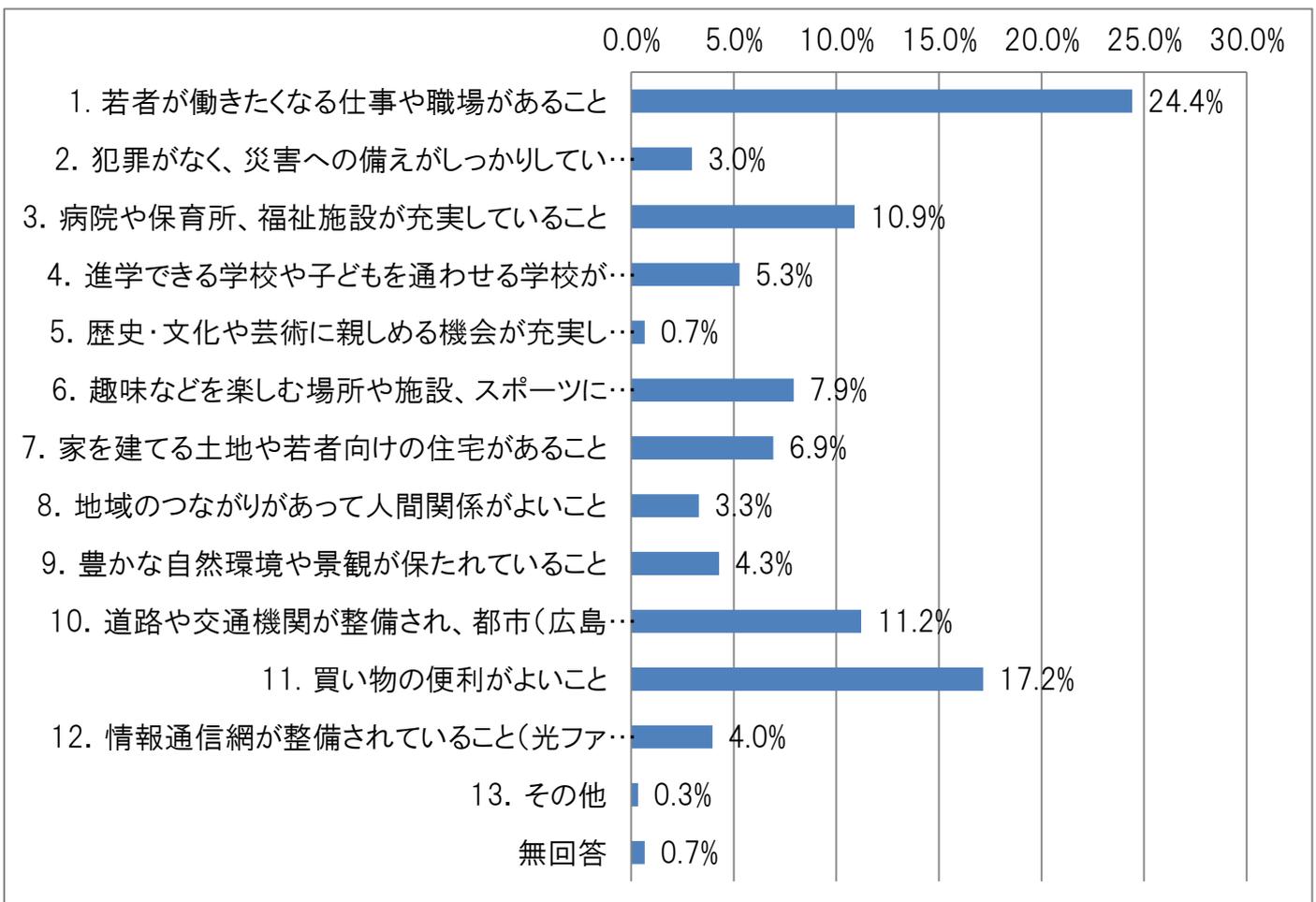


【その他の意見】

- ・地元が安芸太田町でないから
- ・実家にいろいろなものを置いてきたため。家族に少しでも育ててくれたお礼がしたいため。
- ・地元に戻りたいから。
- ・自分の生まれた地域に住みたいと思っているから。
- ・他に住みたい場所があるから。
- ・交通の便利がとても悪い。
- ・海外に住みたいから
- ・市内の方が便利がいい。

あなたは、若い人たちが安芸太田町に住み続けるために、どのようなことが特に必要だと思いますか。
あなたの意見に近いものを次のうちから3つまで選び、番号に○をつけてください。

	合 計	
	回答数	割合
1. 若者が働きたくなる仕事や職場があること	74	24.4%
2. 犯罪がなく、災害への備えがしっかりしていること	9	3.0%
3. 病院や保育所、福祉施設が充実していること	33	10.9%
4. 進学できる学校や子どもを通わせる学校があること	16	5.3%
5. 歴史・文化や芸術に親しめる機会が充実していること	2	0.7%
6. 趣味などを楽しむ場所や施設、スポーツに親しめる場所や施設があること	24	7.9%
7. 家を建てる土地や若者向けの住宅があること	21	6.9%
8. 地域のつながりがあって人間関係がよいこと	10	3.3%
9. 豊かな自然環境や景観が保たれていること	13	4.3%
10. 道路や交通機関が整備され、都市(広島市)との交通の便がよいこと	34	11.2%
11. 買い物の便利がよいこと	52	17.2%
12. 情報通信網が整備されていること (光ファイバーの整備、携帯電話受信エリアの拡大等)	12	4.0%
13. その他	1	0.3%
無回答	2	0.7%
合 計	303	---



【その他の意見】

・あいさつ、人の性格

(4)「安芸太田町まちづくりアンケート調査（中学生）」の結果

◇調査対象：町内中学校（安芸太田町立安芸太田中学校および加計中学校）

◇調査期間：令和1年7月（加計高校および町内在住他校生徒）

◇配布数：町内中学校に通学する生徒100人

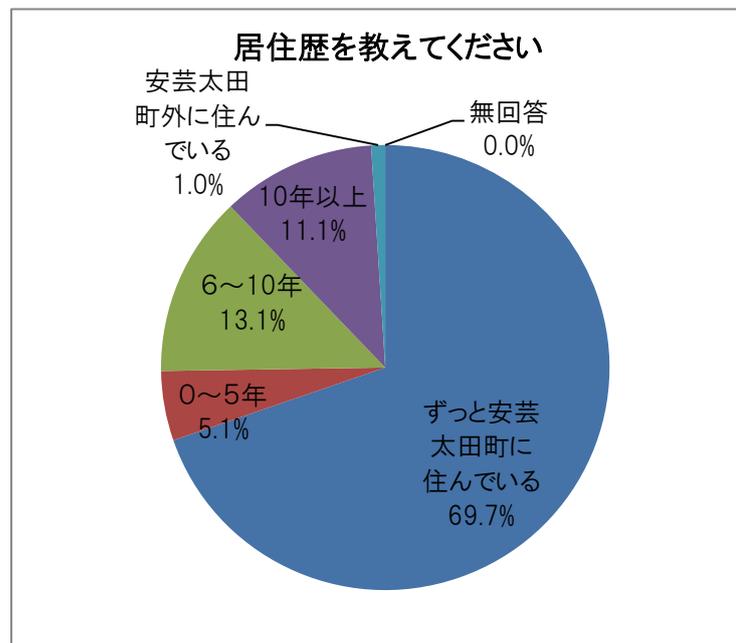
（安芸太田中学校：37人、加計中学校：63人）

◇調査方法：直接配布、回収

◇回答率：99.0%（安芸太田中学校生徒：100.0%、加計中学校生徒：98.4%）

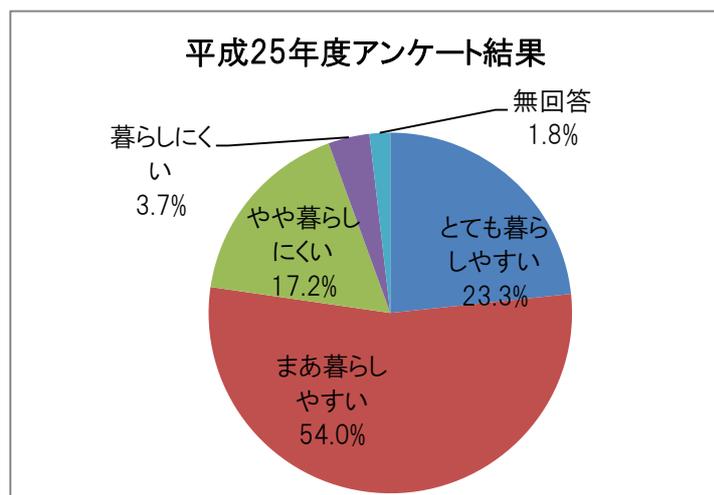
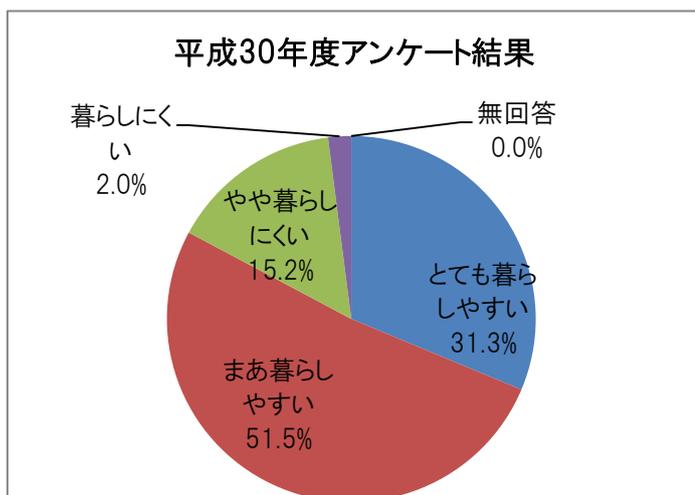
安芸太田町での居住歴を教えてください。

居住歴	回答数	割合
ずっと安芸太田町に住んでいる	69	69.7%
他市町村から引っ越してきた (0～5年)	5	5.1%
他市町村から引っ越してきた (6～10年)	13	13.1%
他市町村から引っ越してきた (10年以上)	11	11.1%
安芸太田町外に住んでいる	1	1.0%
無回答	0	0.0%
合計	99	---



安芸太田町は暮らしやすいですか。

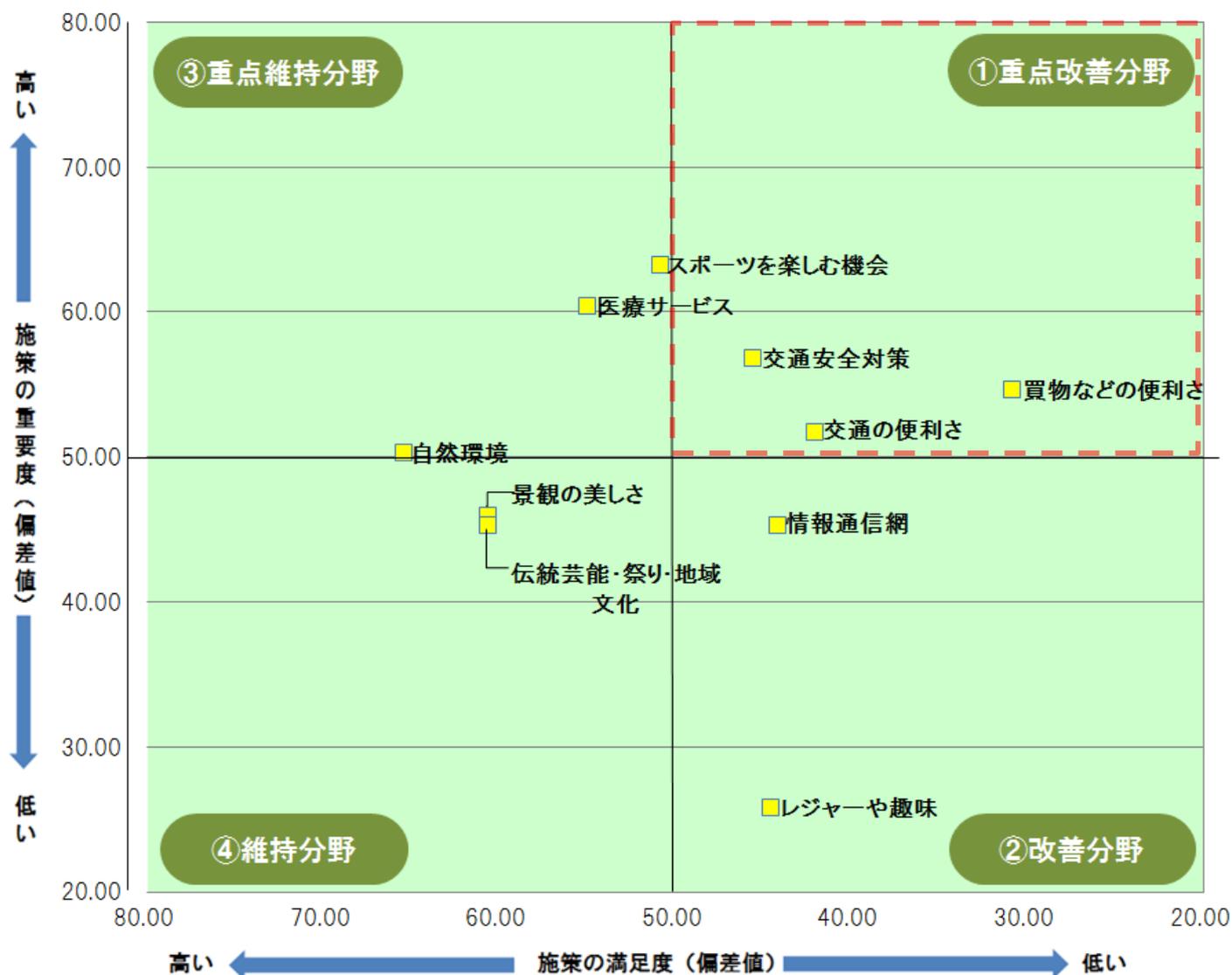
	回答数	割合	H25 回答数	H25 割合
とても暮らしやすい	31	31.3%	38	23.3%
まあ暮らしやすい	51	51.5%	88	54.0%
やや暮らしにくい	15	15.2%	28	17.2%
暮らしにくい	2	2.0%	6	3.7%
無回答	0	0.0%	3	1.8%
合計	99	---	163	---



◆改善要求度（ニーズ値） 順位別比較

順位	項目名	改善要求度
1	(4)日常の買い物などの便利さ	12.09
2	(6)道路・歩道などの交通安全対策	7.00
3	(9)学校以外でスポーツを楽しむ機会	6.70
4	(5)バスなど交通の便利さ	4.55
5	(3)病院などの医療サービス	2.34
6	(7)情報通信網の整備(光ファイバーの整備、携帯電話受信エリアの拡大等)	0.72
7	(1)山や森林、川などの自然環境とのふれあい	-7.28
8	(2)山や農村風景、町並みなど景観の美しさ	-7.78
9	(8)伝統芸能、祭りなどの地域文化	-8.63
10	(10)レジャーや趣味を楽しむ場所や機会	-8.73

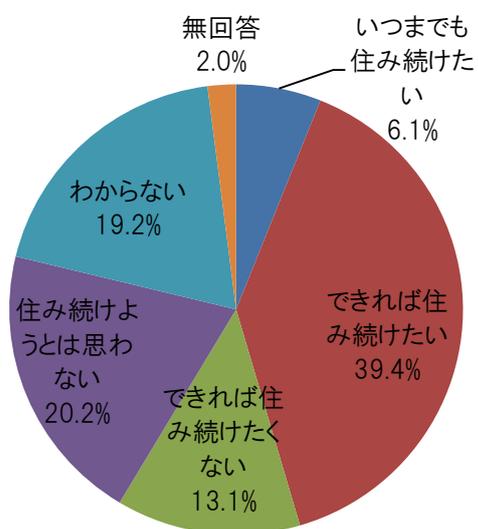
◆中学生ニーズマップ（散布図）



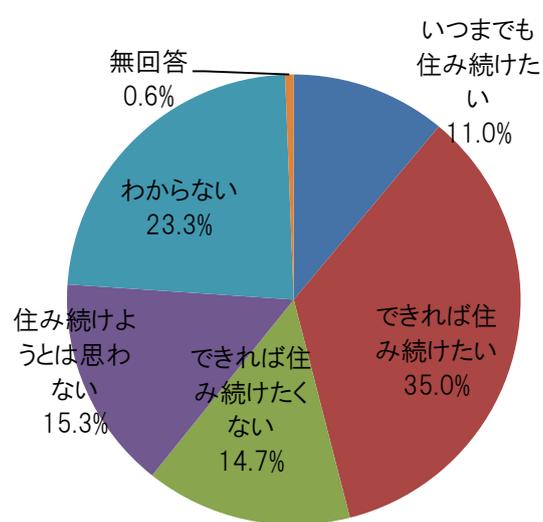
安芸太田町に住み続けたいと思いますか。

	回答数	割合	H25 回答数	H25 割合
いつまでも住み続けたい	6	6.1%	18	11.0%
できれば住み続けたい	39	39.4%	57	35.0%
できれば住み続けたくない	13	13.1%	24	14.7%
住み続けようとは思わない	20	20.2%	25	15.3%
わからない	19	19.2%	38	23.3%
無回答	2	2.0%	1	0.6%
合計	99	---	163	11.0%

平成30年度アンケート結果

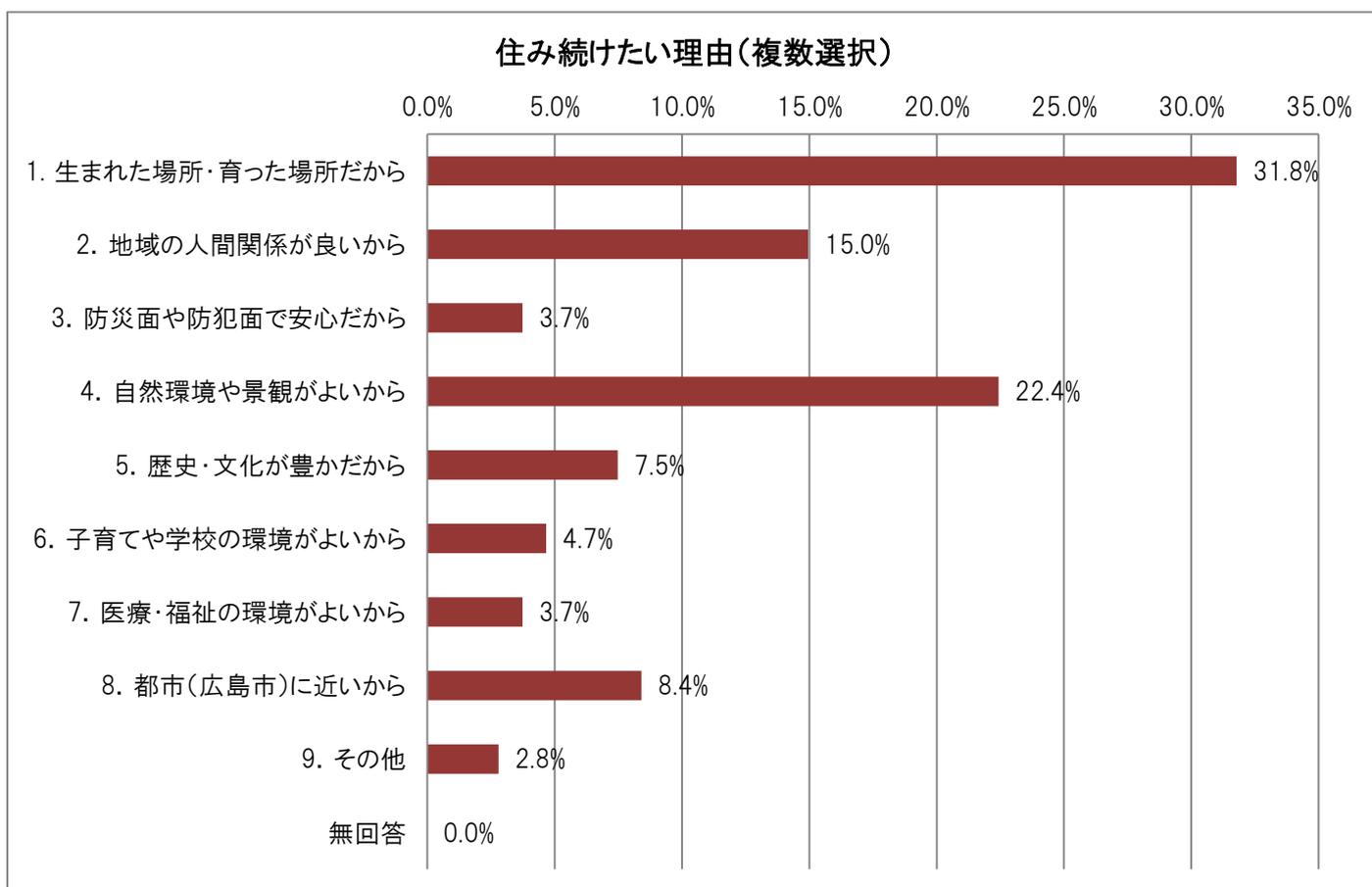


平成25年度アンケート結果



住み続けたい理由。 あてはまると思われるものに3つ以内で○をつけてください。

住み続けたい理由	回答対象者	45名
	回答数	回答者割合
1. 生まれた場所・育った場所だから	34	31.8%
2. 地域の人間関係が良いから	16	15.0%
3. 防災面や防犯面で安心だから	4	3.7%
4. 自然環境や景観がよいから	24	22.4%
5. 歴史・文化が豊かだから	8	7.5%
6. 子育てや学校の環境がよいから	5	4.7%
7. 医療・福祉の環境がよいから	4	3.7%
8. 都市(広島市)に近いから	9	8.4%
9. その他	3	2.8%
無回答	0	0.0%
合計	107	---

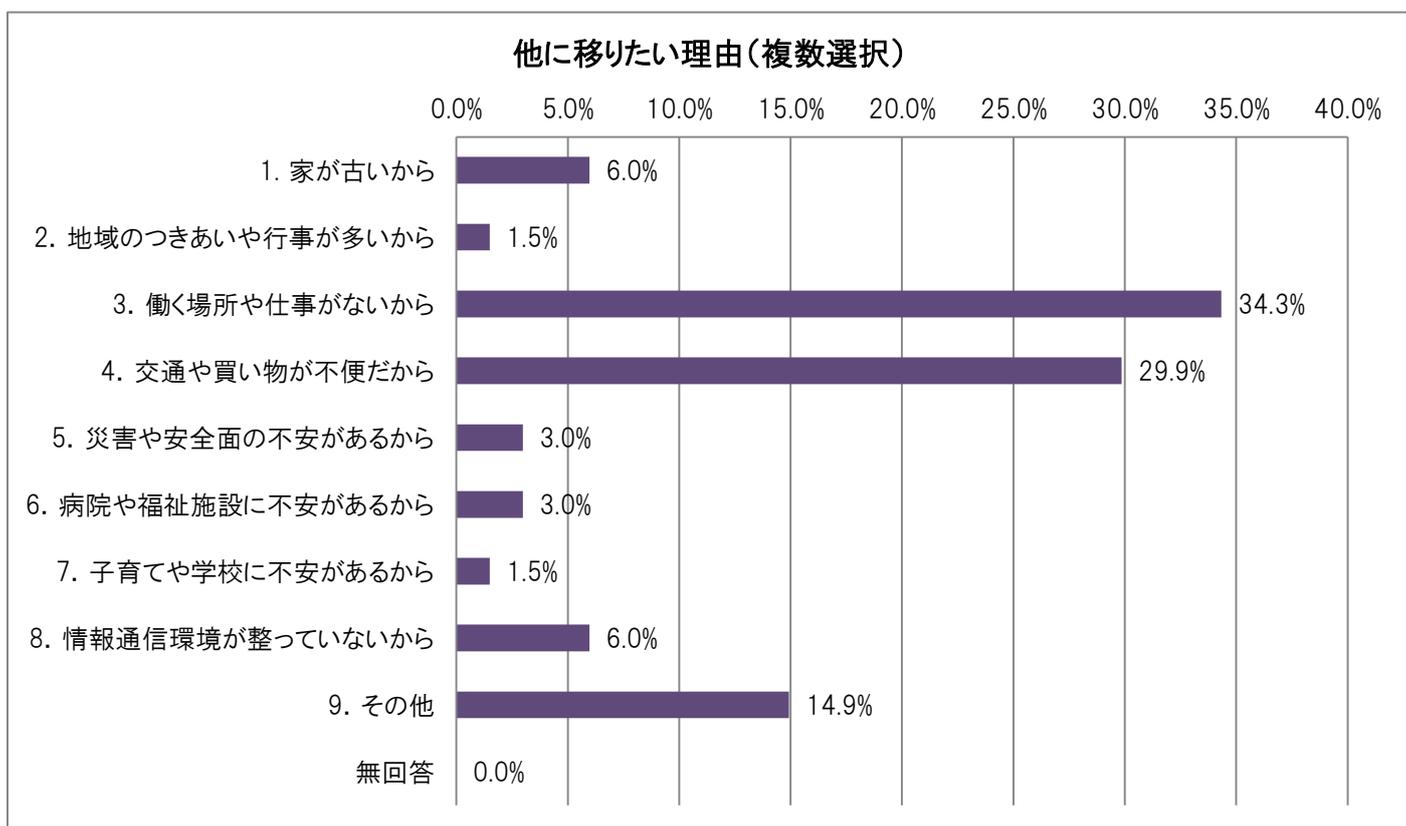


【その他の意見】

- ・安芸太田町のかかえる問題をできるかぎり解決したいから。
- ・安芸太田町で介護士として働きたいから
- ・自然豊かだから

他に移りたい理由。 あてはまると思われるものに3つ以内で○をつけてください。

他に移りたい理由	回答対象者	33名
	回答数	回答者割合
1. 家が古いから	4	6.0%
2. 地域のつきあいや行事が多いから	1	1.5%
3. 働く場所や仕事がないから	23	34.3%
4. 交通や買い物が不便だから	20	29.9%
5. 災害や安全面の不安があるから	2	3.0%
6. 病院や福祉施設に不安があるから	2	3.0%
7. 子育てや学校に不安があるから	1	1.5%
8. 情報通信環境が整っていないから	4	6.0%
9. その他	10	14.9%
無回答	0	0.0%
合計	67	---

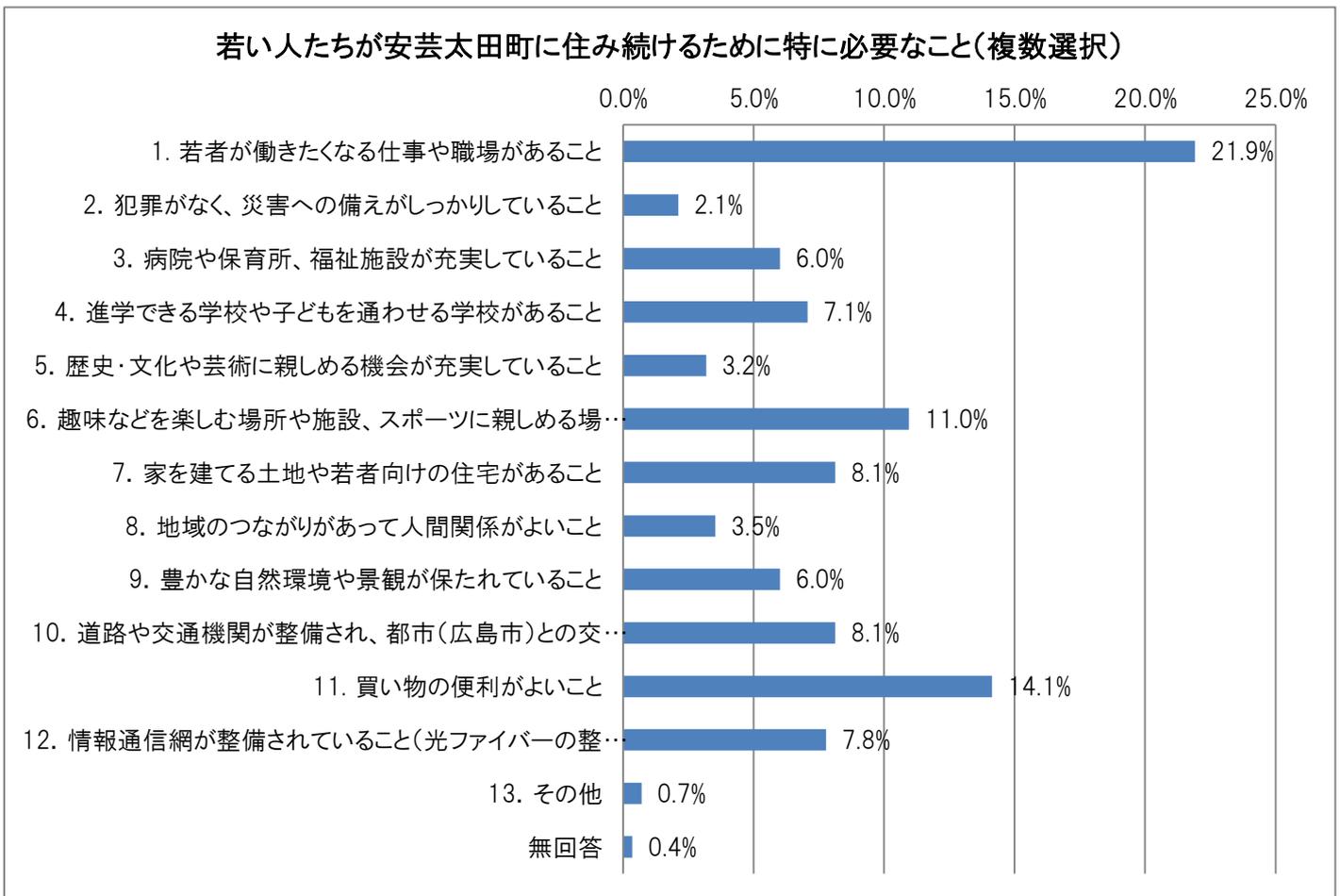


【その他の意見】

- ・もっと自然のいいところに行きたいから
- ・海外へ出たい
- ・いろいろ遠いし、人が少ない
- ・町にいったいみたいから。
- ・夢のために
- ・働きたい所からすぐはなれているから
- ・将来のため
- ・一回は町外に住みたい。街はあこがれ。
- ・安芸太田町でかせげない分、都会でかせいで、安芸太田町にしえんし、充実させたいから
- ・将来就きたい仕事があるから。

あなたは、若い人たちが安芸太田町に住み続けるために、どのようなことが特に必要だと思いますか。
 あなたの意見に近いものを次のうちから3つまで選び、番号に○をつけてください。

職業	回答数	割合	回答対象者
1. 若者が働きたくなる仕事や職場があること	62	21.9%	99名
2. 犯罪がなく、災害への備えがしっかりしていること	6	2.1%	
3. 病院や保育所、福祉施設が充実していること	17	6.0%	
4. 進学できる学校や子どもを通わせる学校があること	20	7.1%	
5. 歴史・文化や芸術に親しめる機会が充実していること	9	3.2%	
6. 趣味などを楽しむ場所や施設、スポーツに親しめる場所や施設があること	31	11.0%	
7. 家を建てる土地や若者向けの住宅があること	23	8.1%	
8. 地域のつながりがあって人間関係がよいこと	10	3.5%	
9. 豊かな自然環境や景観が保たれていること	17	6.0%	
10. 道路や交通機関が整備され、都市(広島市)との交通の便がよいこと	23	8.1%	
11. 買い物の便利がよいこと	40	14.1%	
12. 情報通信網が整備されていること(光ファイバーの整備、携帯電話受信エリアの拡大等)	22	7.8%	
13. その他	2	0.7%	
無回答	1	0.4%	
合計	282	---	



【その他の意見】
 ・大きなショッピングモール・ビルを建てる
 ・自然教育

(5) 各アンケートからの推察

アンケート結果から、20～39歳の若い世代が、就労に関する理由で広島市へ転出する割合が高くなっていると推察されます。

また、「雇用・就労の場を確保する施策」と「子育て環境や教育環境の充実」が、重要と考える割合が高くなっており、「職の充足」と「子育て環境の充実」が、転出の抑制と転入の増加につながる可能性が高いと推察されます。

高校生アンケートでは、約4割が住み続けたい（又は住みたい）と感じている一方で、住み続けたくない（又は住みたくない）と感じている生徒が約3割います。「若者が働きたくなる仕事や職場」や「買い物の便利がよいこと」を望んでいるといえます。

中学生アンケートでは、4割強が住み続けたい（又は住みたい）と感じている一方で、住み続けたくない（又は住みたくない）と感じている生徒が約3割います。また高校生が感じていることと同じように「若者が働きたくなる仕事や職場」や「買い物の便利がよいこと」を望んでいるといえます。

V. 将来のまちづくりの方向

1. 基本的な考え方

日本全体が人口減少時代へと移行するなか、国立社会保障・人口問題研究所などの公表している将来人口推計をみても、令和 27（2045）年において本町の人口が平成 27（2015）年に比較して一層減少することは避けられません。

一方、人口構成をみても、少子化や高齢化が一層進むことが予測され、本町を担ってきた生産年齢人口に属する世代が減少し、地域の産業活力、社会活力の低下にも影響が及ぶものと考えられ、総合的で包括的な対策を講じることが喫緊の課題となっています。

今後、本町において、出生率の上昇を図るとともに、子どもを産み育てる親世代の人口減少に歯止めをかけ、望ましい世代構成を実現させるため、長期的な取組みを進めることが必要です。

また、本町からの転出抑制を図り、定住してもらうためには、安芸太田が好きで住み続けたいという意識の醸成のほか、若者が望む職種や賃金体系を持った雇用の方や住まいの確保、結婚に向けた出会いの場の提供、出産や子育てに対する支援など、個々の連携した取組みを推進します。



2. めざす将来像 ～第二次長期総合計画の基本構想から～

第二次安芸太田町長期総合計画では、安芸太田町のめざす将来像を次のとおり定めています。

豊かさあふれ つながりひろがる 安芸太田

～ほどほど便利 とびきり幸せ 笑顔かがやく里山のまち～

安芸太田町は、広島デルタを形成した太田川の源流域に位置し、県内最高峰の恐羅漢山をはじめとする山々に囲まれ、美しい自然環境とともに産業や暮らしを築いてきました。

また、政令指定都市の広島市に隣接するため、ほどよい利便性を享受しながらも、人との顔が見えるつながりを大切に、人情のある地域コミュニティを守り、育ててきました。

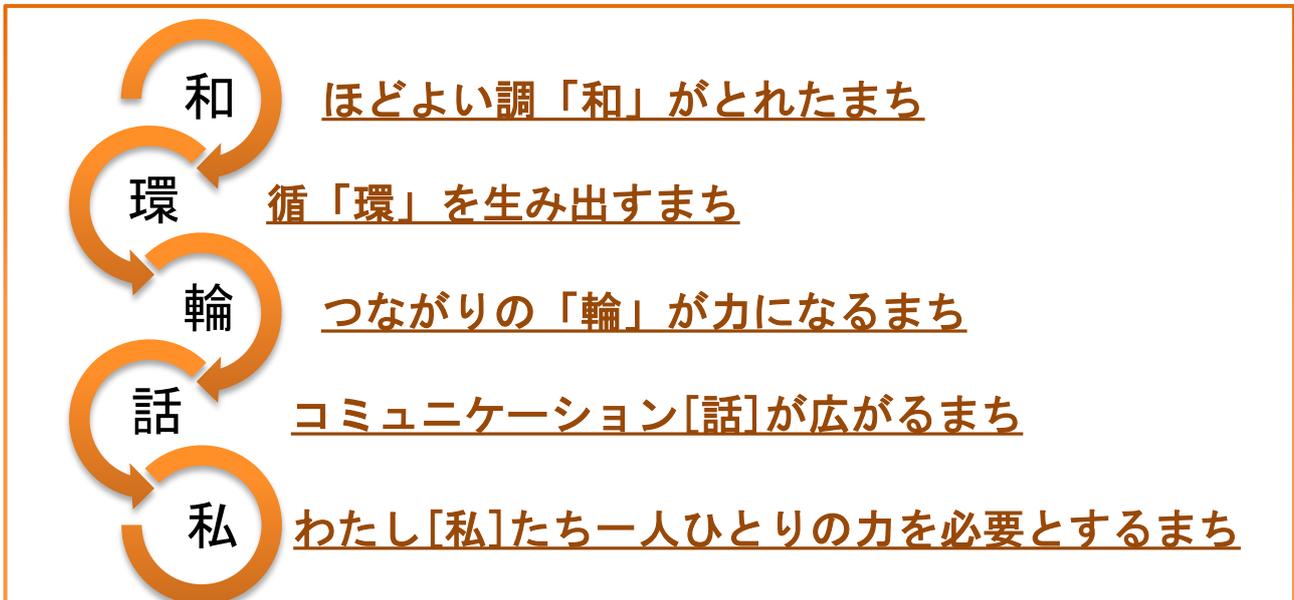
このような環境の中、安芸太田の資源である「豊かな自然」と「人情」を強みに、町内外に人と人とのつながりが広がるまちをめざします。

ほどほど：ちょうど良い程度、適度という意味合いで用いています。(参照：広辞苑)

3. まちづくりの視点

私たちが、安芸太田町のめざす姿を実現する上で、大切にし、共有したい基本的な考え方として、まちづくりの視点を次のとおり定めています。

安芸太田町の「わ」づくり



第二次安芸太田町長期総合計画【後期基本計画】の体系図

めざす将来像

豊かさあふれ
つながりひろがる
安芸太田

～ほどほど便利 とびきり幸せ
笑顔かがやく里山のまち～

後期計画目標人口 令和6年

5,200人

まちづくり戦略がもたらす成果

人口の維持・獲得

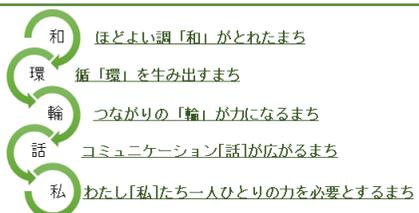
ヒト・モノ・カネの町内循環の拡大
・雇用機会の拡大

子育て・次世代育成環境の向上

安心して暮らし続けられる住環境の確保

コミュニティ活力の維持・増大

安芸太田町の「わ」づくり



リーディング施策

【施策1】
定住促進と人材確保・育成によるまちづくり基盤の強化 (Page 41)

行動方針 町の資源を活用し関係人口につながるファンを増やします

- ①町の特性を活かした魅力の統合
- ②町の魅力を内と外につなげる仕組みの構築

【施策2】
都市部等との「高い」の活発化と町内産業間連携の推進 (Page 44)

行動方針 地域資源を活用した「儲ける地域」の創生をめざします

- ①「地域商社あきおた」と道の駅来夢とごうちを中心とした地域経済循環の活性化
- ②インバウンド推進体制の構築

【施策3】
各世代にとっての暮らしやすさの向上 (Page 46)

行動方針 育てあい 助けあう 安芸太田
《愛のある小さな「わ」》づくり

- ①「ごちゃまぜ」による地域共生社会の実現
- ②若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【施策4】
コミュニティの活力向上 (Page 48)

行動方針 互いに支えあい、誰もが安心して暮らせるコミュニティづくりを進めます

- ①誰もが安心して暮らせるコミュニティづくりの促進

SDG s

Society 5.0

人材育成

人口維持に関する取組みを重点的に推進

施策実施効果を高めるため、重点的かつ分野横断的に施策を抽出

分野別施策

定住人口対策
Page...56

- 1 安芸太田に住みたくなる人を増やします
- 2 人権尊重のまちをつくります

子育て・教育・次世代育成
Page...62

- 3 乳幼児期のあたたかい子育て環境を整えます
- 4 夢と地域愛を育む学校教育を推進します
- 5 生涯にわたり誰もがいきいきと暮らせるまちをめざします

健康・医療・福祉
Page...70

- 6 地域共生社会の実現を目指します
- 7 生涯を通じて笑顔で元気に暮らせる環境を整えます
- 8 地域で安心して暮らせる地域医療サービスを提供します
- 9 障がい者(児)が安心して暮らせる環境を整えます
- 10 高齢者も安心して地域で暮らせ環境を整えます
- 11 住民同士つながりのある福祉活動を推進します
- 12 暮らしを支える医療・年金・福祉制度を維持します

社会基盤・防災・防犯
Page...86

- 13 快適で安全な道路網をつくります
- 14 安全な水を安定供給します
- 15 衛生的な排水処理をすすめます
- 16 災害に強いまちづくりをすすめます
- 17 地域の消防・防災体制の充実を図ります
- 18 犯罪から暮らしを守ります
- 19 交通事故のないまちをつくります

生活利便性・環境
Page...102

- 20 自然環境の保全に取り組みます
- 21 環境に優しいまちをつくります
- 22 快適で利用しやすい公共交通環境をつくります
- 23 ICTの有効活用を推進します

産業・観光・しごと
Page...112

- 24 農商工連携をすすめます
- 25 農業を振興します
- 26 林業を振興します
- 27 水産業を振興します
- 28 商工業活動を支援します
- 29 就労の機会を拡充します
- 30 交流人口の拡大による経済波及効果の増加を図ります
- 31 観光地域づくり法人(DMO)の取組を推進します

コミュニティ
Page...130

- 32 住民がより関わる地域づくりをすすめます
- 33 町の魅力を発信し町外との連携を深めます

行財政運営
Page...136

- 1 住民が納得できる行政サービスを提供します
- 2 積極的に行財政改革をすすめます

BASE

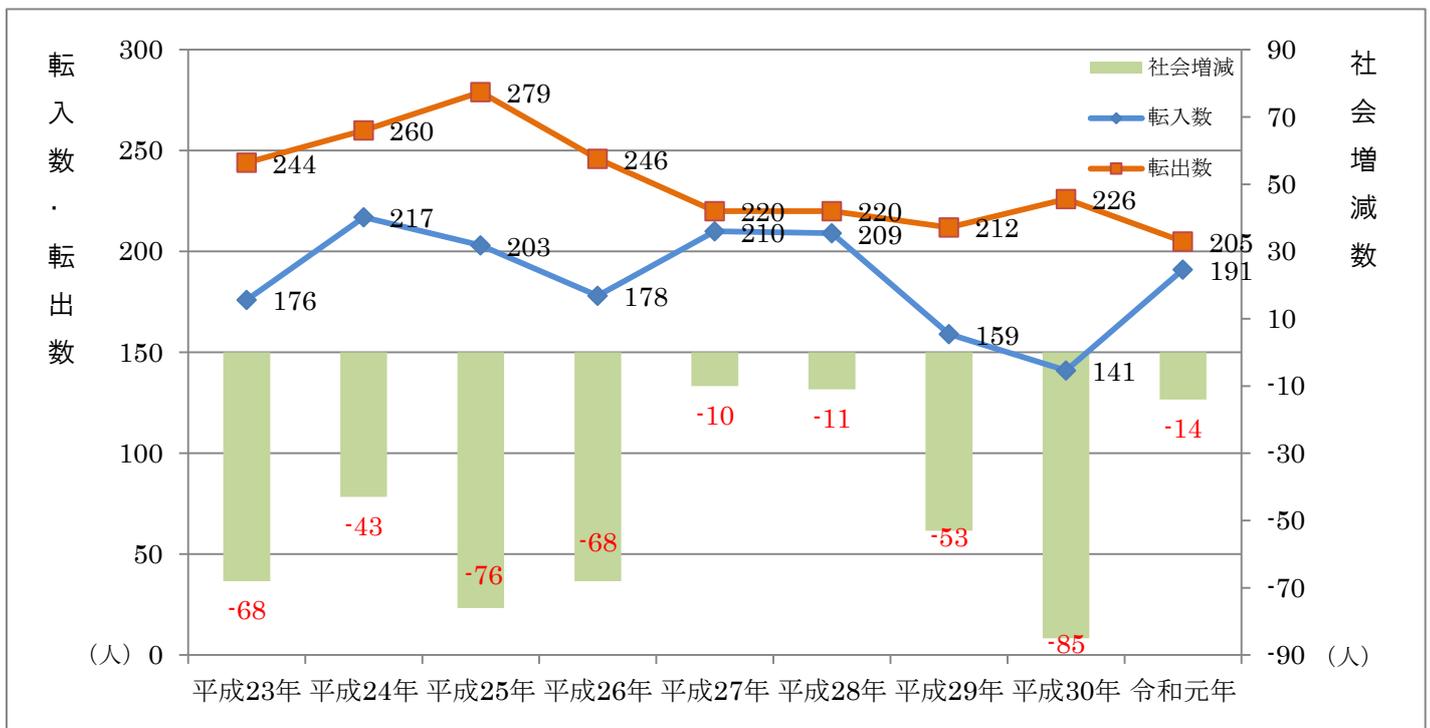
VII. 人口の将来展望

1. 安芸太田町の人口移動の動向

本町の人口の将来を展望するうえで、近年の人口動態をみると、社会動態・自然動態ともに減少は続いています。平成27年においては過去最小値の10人減少という結果も出ていますが、直近の転出超過数について平成30年は85人減少、令和元年は14人減少となりました。

区 分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
転入数	176	217	203	178	210	209	159	141	191
転出数	244	260	279	246	220	220	212	226	205
社会増減	-68	-43	-76	-68	-10	-11	-53	-85	-14

資料：広島県統計課「広島県人口移動統計調査報告」（H27年度のみ安芸太田町集計）



この要因としては、本町が実施してきた各種の定住施策や子育て支援等（別表参照）についても、平成27年および平成28年と一時の成果がありました。平成29年と平成30年では転入数が落ち込み、転出数が横ばいであることから、定住施策や子育て支援等について、さらなる改善が必要であると推察されます。

(別表)

安芸太田町の主な定住支援施策（令和元年10月現在）

区分	制度	制度の概要
住宅等関連施策	空き家バンク制度	空き家の紹介、貸主と借主のマッチング、空き家バンクサイトの運用
	定住促進空き家活用制度	空き家改修費の一部助成
	Uターン世帯定住応援制度	住宅の改修費補助
	子育て世帯定住応援制度	子育て世帯の住宅の取得、改修の費用を一部助成
	定住促進奨励制度	若者の家屋の固定資産税額の1/2を10年間助成
	空き家確保支援事業	自治振興会が行う空き家確保策の支援
子育て支援策	妊婦健診交通費助成制度	妊婦健診における交通費の一部助成
	乳幼児/子ども医療費助成制度	0～18歳までの子ども医療費を助成
	第2子以降の保育料免除	保育所、こども園、幼稚園の授業料を第2子以降無料
	加計高校を育てる会支援	県立加計高校の魅力づくりに要する費用の一部を支援
就労	30歳未満限定通勤者助成	町外への通勤における通勤費の一部を支援
	がんばるビジネス応援補助金	起業、創業、事業継承等の費用を一部助成
	就農支援	就農のための研修、農業施設の整備等の費用を一部助成
定住促進	定住促進サイト	住宅、就労、移住者の暮らしぶり等移住に関する総合サイト
	定住フェアへの出展	東京、関西等へのフェアへ出店
	首都圏・関西圏在住出身者との交流	町の現状等の報告とUターン者の誘致
その他	人情田舎体験を謳う「教育旅行事業（民泊体験）」は、直接の定住施策ではないものの、安芸太田町の人情を感じてもらい、暮らしやすさの評価を高める取組みといえる。	

2. 「第2期 安芸太田町人口ビジョン」

(1) 計画人口目標と人口ビジョン

前期基本計画の計画目標人口は、統計的手法に基づく推計人口に、リーディングプロジェクトにおいて位置づけた産業・雇用創出プロジェクトや定住プロジェクトをはじめとする重点施策の実施効果等、本計画の推進による要素を加味して、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）による推計値より760人多い**5,800人**と設定しています。

しかしながら、全国的な少子高齢化、首都圏一極集中などによる人口流出は収まらず、「広島県人口移動統計調査（甲調査）」（※）による安芸太田町の総人口は**令和元年10月1日現在5,784人**で、現時点で計画目標人口の達成は困難であると見込んでおります。

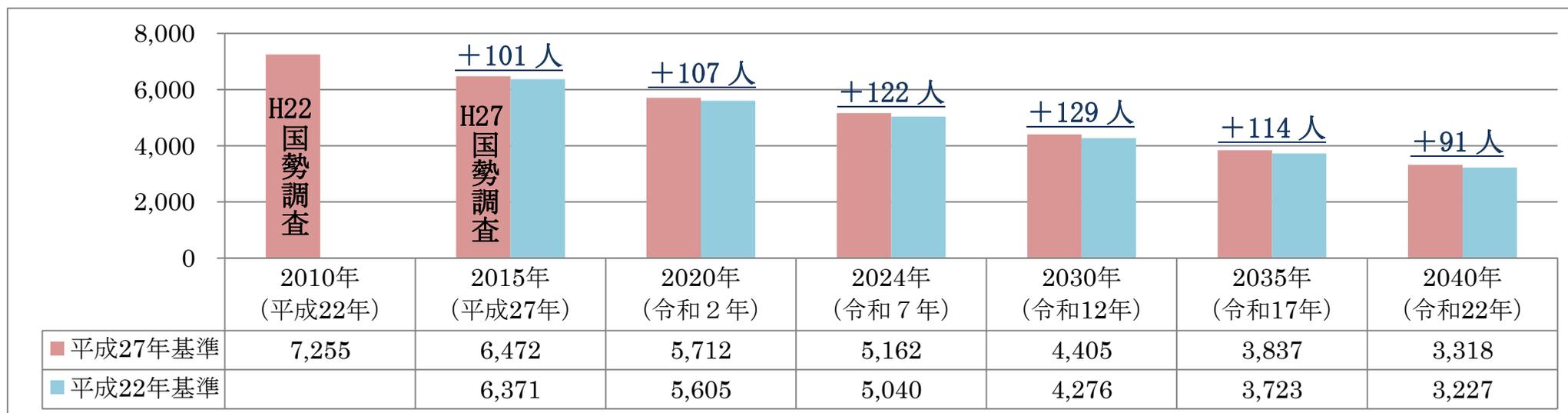
PDC Aサイクルを踏まえた第二次長期総合計画前期基本計画の評価を踏まえ、後期基本計画の計画目標人口と第二期総合戦略の人口ビジョンを右記のとおり再設定します。

後期基本計画 目標人口	令和6年	5,200人 （【前期】目標人口 5,800人）
第2期 人口ビジョン 目標人口	令和27年 （令和22年）	4,100人 （【第1期】目標人口 5,000人）

※ 目標人口の基準となる人口の値は、直近の国勢調査による人口を起点とし、1か月間の転入、転出、出生、死亡等を加減して算出される「広島県人口移動統計調査（甲調査）」を基準としており、住民基本台帳に登録される人口とは異なります

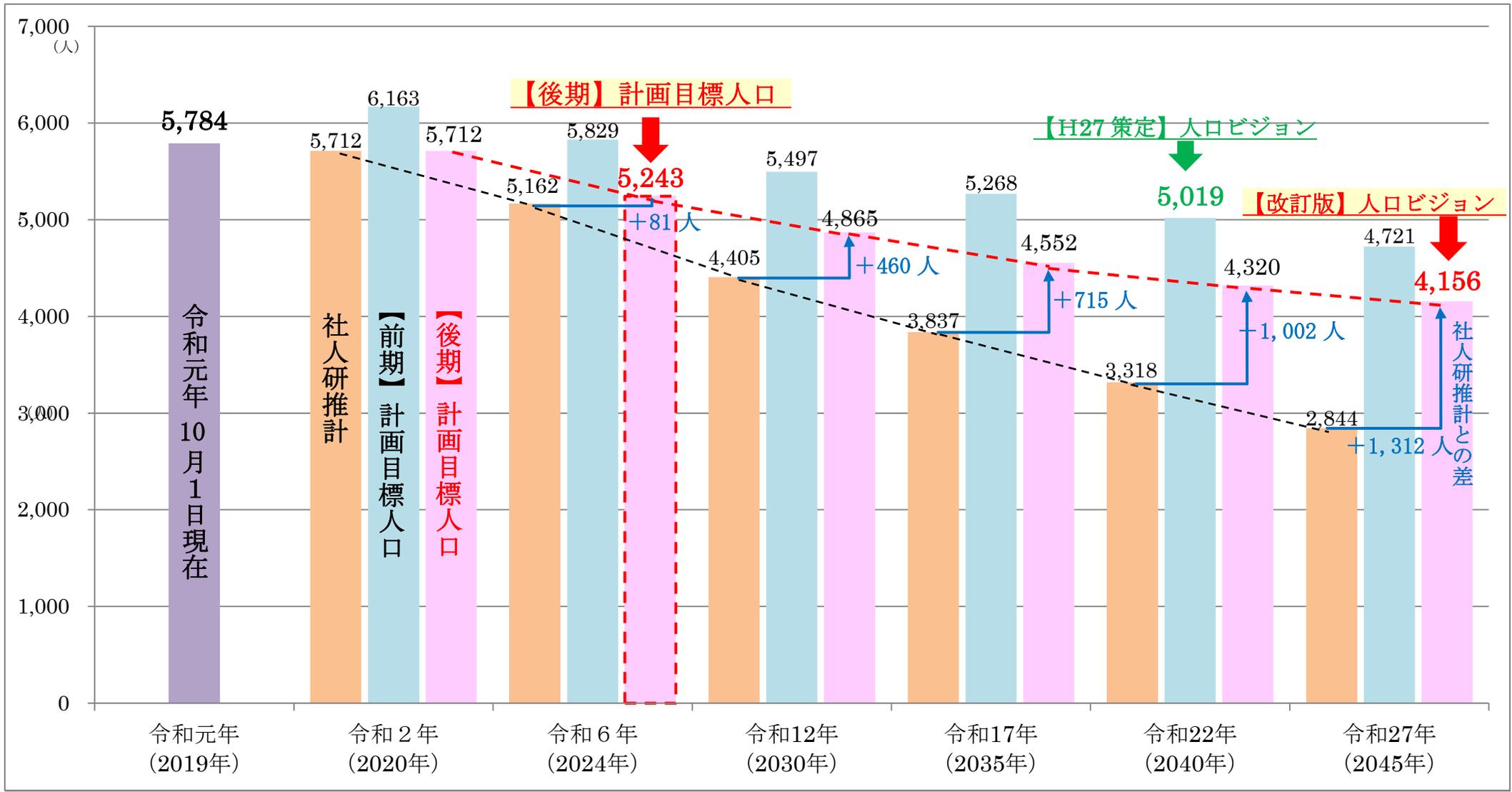
(2) 社人研人口推計からみる人口推移の改善

社人研が**平成25年に公表（平成22年基準）**した本町の人口推計は、**平成30年に公表（平成27年基準）**された推計と比較して、下記グラフのとおり、**約2～3%改善**しています。これは**平成23～27年までの5年間の人口動態**が、平成18～平成22年の人口動態と比較して、**改善された**ことを示しています。特に前期基本計画期間にかかる**平成27年度社会動態は-10人**であり、この**推計結果の改善に寄与**していると考えられます。



(3) 計画目標人口および第二期人口ビジョンの根拠とシミュレーション

グラフ	データ種別	説明																														
	令和元年10月1日現在の人口	計画目標人口を算出するうえでの基準元となる人口。																														
	国立社会保障・人口問題研究所推計値（社人研）	平成30年に公表された推計値。後期計画目標人口の推計基準。（社人研推計）																														
	【前期】計画目標人口	平成27年に「第二次長期総合計画」で策定した前期の計画目標人口。																														
	<p>【後期】計画目標人口 【改訂版】人口ビジョン (シミュレーション3)</p>	<p>新たに設定する計画目標人口および人口ビジョン。 「[リーディング施策1] 定住促進と人材確保・育成によるまちづくり基盤の強化」を促進することで、計画目標人口を独自推計し、その延長の2045年を人口ビジョン目標人口とした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>合計特殊出生率が社人研推計と同水準で推移し、かつ人口移動が下記表「転入超過者数/年」を達成したと仮定。</p> </div> <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">1年あたりの転入世帯数および転入者数（推計値）</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R2～R6</th> <th>R7～R12</th> <th>R13～R17</th> <th>R18～R22</th> <th>R23～R27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世帯数/年</td> <td>17世帯</td> <td>18世帯</td> <td>19世帯</td> <td>21世帯</td> <td>23世帯</td> </tr> <tr> <td>人数/年</td> <td>41人</td> <td>43人</td> <td>46人</td> <td>51人</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>転入超過者数/年</td> <td>24人超過</td> <td>28人超過</td> <td>30人超過</td> <td>38人超過</td> <td>39人超過</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 1世帯あたり2.4人[全国世帯人数平均]を想定 ※ 「合計特殊出生率」、「生存率」及び「移動率」を勘案しているため、人口の増減数は、その積算結果とは異なる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【主な転入者増加の要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定住支援制度のさらなる充実 ○ 空き家バンク制度の活用 ○ 関係人口の創出・拡大 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【住民満足度の向上】</p> <p>教育、産業、福祉、防災対策や公共交通など、「まちづくり基盤の基底」となる様々な分野を横断的に整備することで、住民満足度を向上させ、定住施策のさらなる推進を図る。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>定住促進基盤のさらなる押上げ</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>制度の認知度向上と関係人口が拡大していくことで、年数が経過するほど、転入者の増加が図られる。</p> </div>	1年あたりの転入世帯数および転入者数（推計値）						年度	R2～R6	R7～R12	R13～R17	R18～R22	R23～R27	世帯数/年	17世帯	18世帯	19世帯	21世帯	23世帯	人数/年	41人	43人	46人	51人	55人	転入超過者数/年	24人超過	28人超過	30人超過	38人超過	39人超過
1年あたりの転入世帯数および転入者数（推計値）																																
年度	R2～R6	R7～R12	R13～R17	R18～R22	R23～R27																											
世帯数/年	17世帯	18世帯	19世帯	21世帯	23世帯																											
人数/年	41人	43人	46人	51人	55人																											
転入超過者数/年	24人超過	28人超過	30人超過	38人超過	39人超過																											



(4) 【後期】計画目標人口および【第2期】人口ビジョンの人口動態

■ 【後期】計画目標人口および【第2期】人口ビジョン（シミュレーション3）

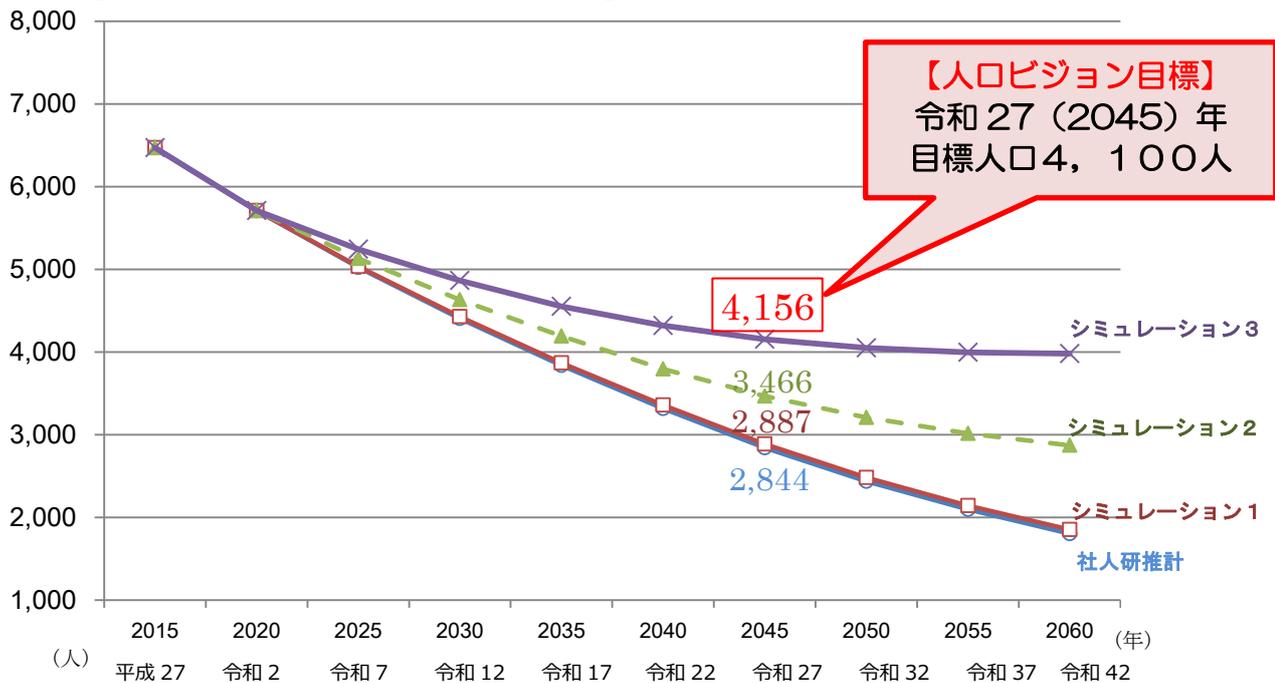
単位：人

(年)	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口	6,472	5,712	5,243	4,865	4,552	4,320	4,156	4,049	3,997	3,981

(年)	2011 ～ 2015	2016 ～ 2020	2021 ～ 2025	2026 ～ 2030	2031 ～ 2035	2036 ～ 2040	2041 ～ 2045	2046 ～ 2050	2051 ～ 2055	2056 ～ 2060
人口の増減数 (5年間ごとの合計)	-853	-760	-469	-378	-313	-232	-164	-107	-52	-16
合計特殊出生率 (t f r)	1.63%	1.91%	1.89%	1.90%	1.90%	1.90%	1.92%	1.92%	1.92%	1.92%
自然増減数 (5年間ごとの合計)	-588	-621	-591	-522	-463	-425	-360	-293	-235	-191
社会増減数 (5年間ごとの合計)	-265	-140	123	144	150	193	196	186	183	175

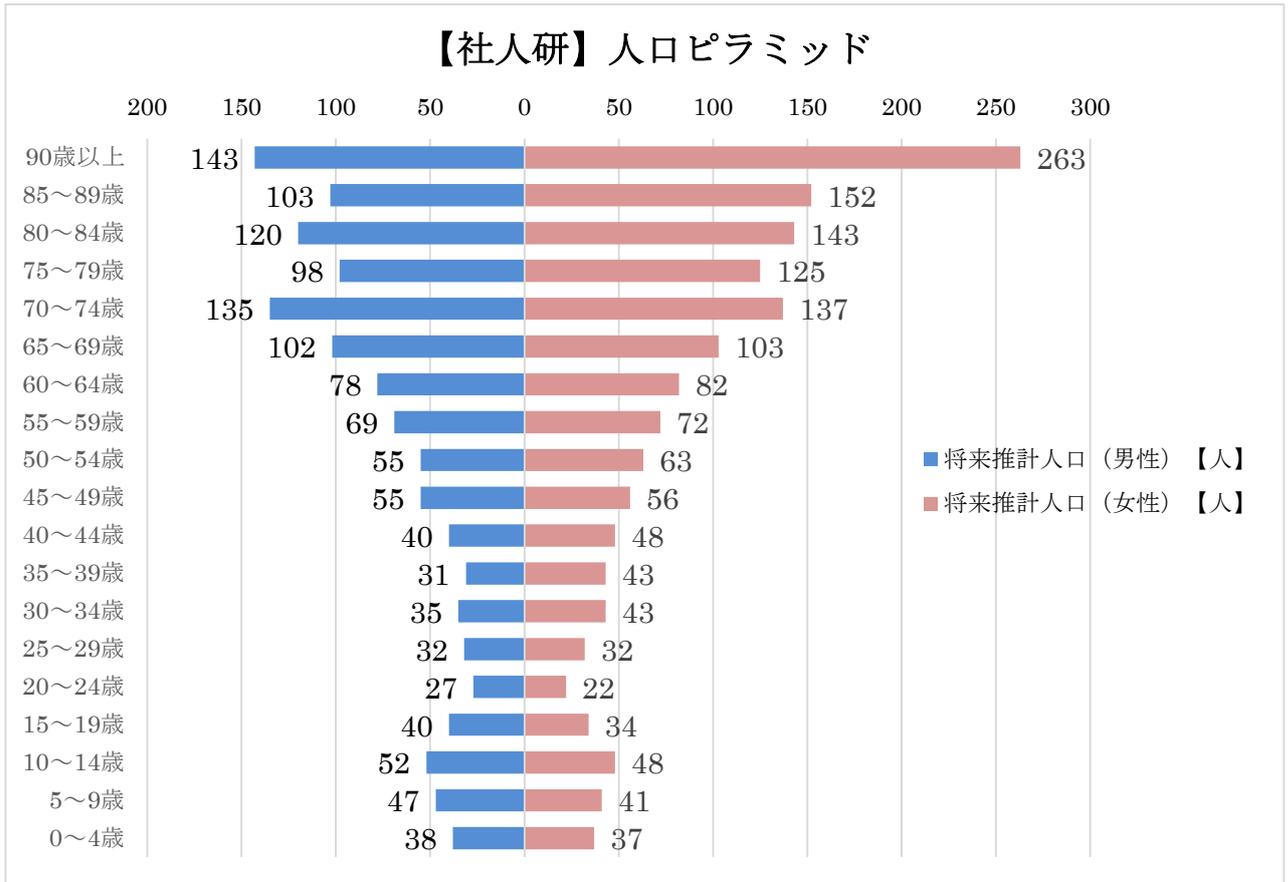
※端数処理により、各シミュレーションにおける自然・社会増減数の総計が人口の増減数となるとは限らない

【将来人口のシミュレーション（グラフ）】

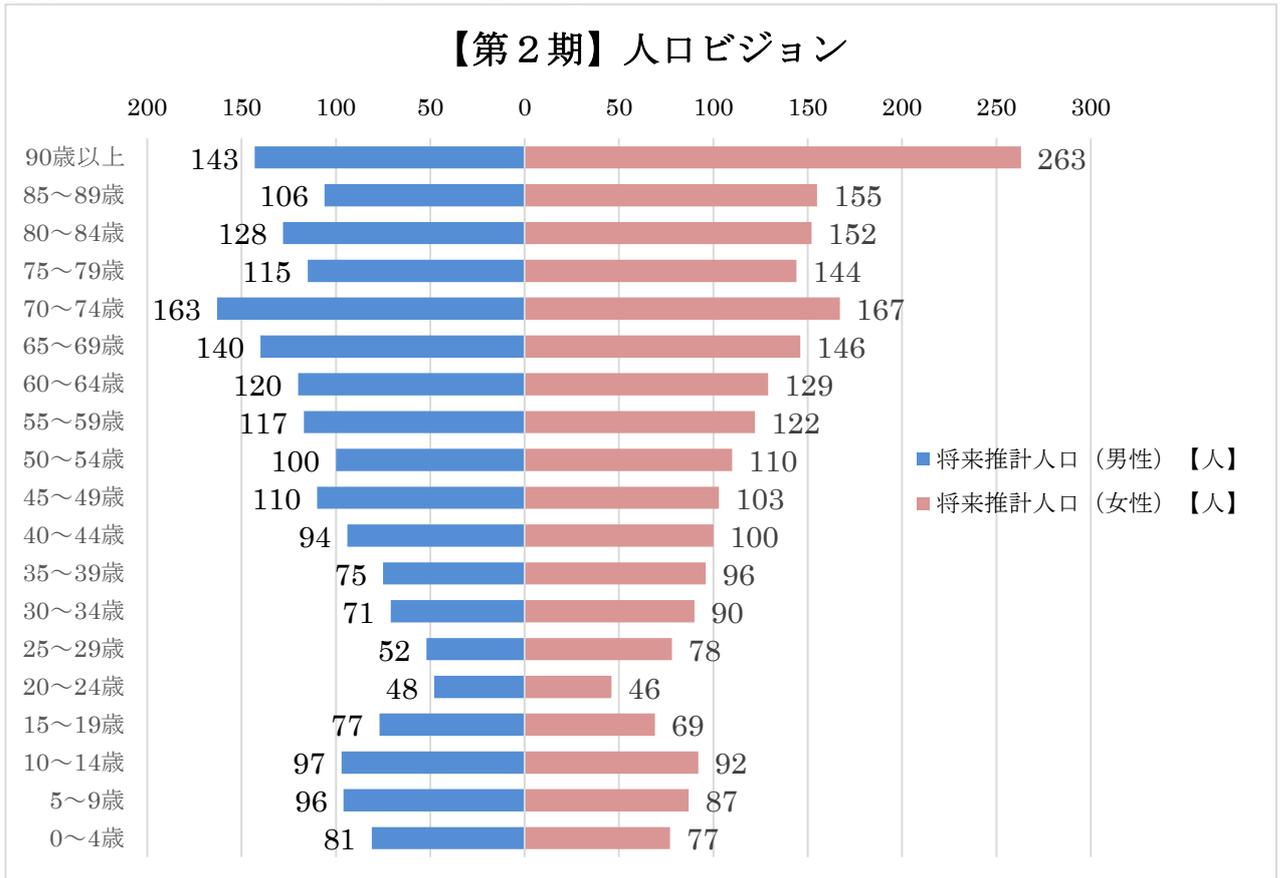


(5) 令和 27 (2045) 年の人口ピラミッド対比

【社人研推計】



【本人ロビジョンによる目標人口達成時】



3. まとめ

以上のことから、本人口ビジョンにおいて記述した社会減の抑制及び社会増への転換については、現在の施策効果による一定の成果を踏まえた上で、なお一層の移住・定住施策の充実を図ることで達成可能と考えます。

また、都市部住民に対する本町の暮らしやすさを印象づけるイメージ戦略等の情報発信を継続・強化することにより、関係人口を増加させ、さらなる上乘せ効果も期待できます。

加えて、雇用環境改善と産業振興をさらに力強く推進することで、転入促進と転出抑制双方による人口の社会増効果を創出することが見込まれます。

本人口ビジョンにより浮かび上がった本町の現状と課題を定期的に把握し、それらに対する方策について、引き続き策定する「第2期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に確実に反映して推進することにより、持続可能な地域社会の確保を目指します。